

大正
新編
皇極經世一
上

108
179

[Blank page]

永平寺貫首 森田悟由禪師題辭
總持寺貫首 畔上楳仙禪師題辭
圓覺寺貫首 釋宗演禪師序文

曹洞宗大學林教頭

折居光輪老師校閱
高津柏樹翁校閱
松崎覺本師參訂編輯

天桂
禪師
提唱
碧巖錄講義
完

東京
光融館藏版

宗門策要書

碧巖集。標的宗門。真霧海之南鍼。夜途之
北斗也。一炬之後。善刻不存。今多方尋訪。
得成都大聖慈寺白馬院趙大師房真本。

無邊風月眼中眼。不盡乾坤燈外燈。

圓悟石巖集

柳暗花明十萬戶。敲門處處有人應。

與江浙諸禪刹所藏本。參攷無譌。敬繡梓。
以壽其傳。得於希有。發於久祕。圓悟心法。
了然目前。向上機關。頭頭是道。具眼幸鑑。

張
子

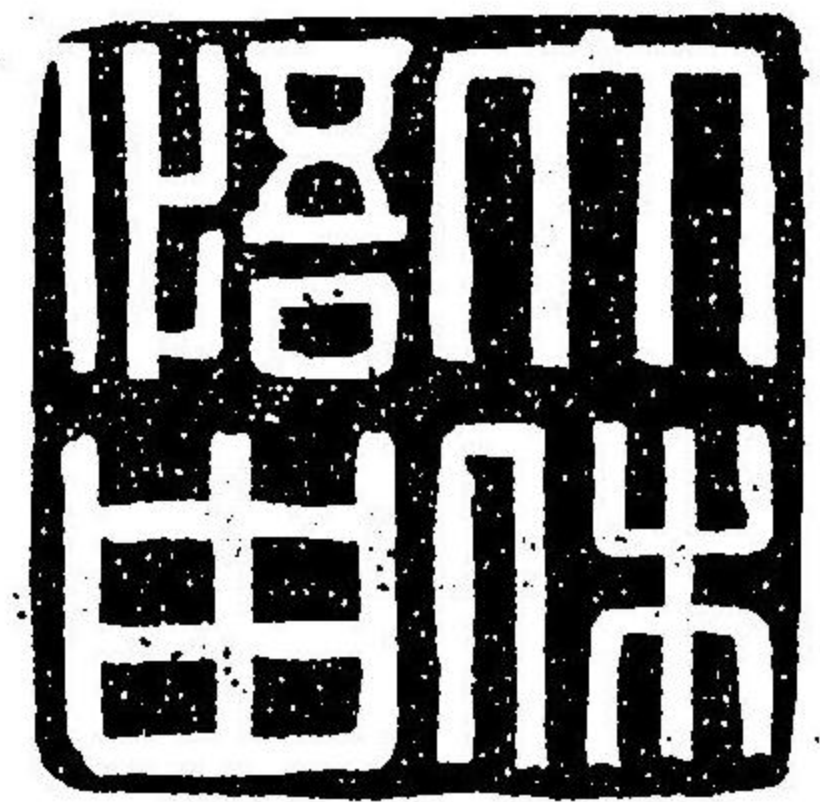


得志

明臨三才

年春在初陽

和平自由



雙
燕

雙燕

並
福

化元節令
成成

二
作
心
子
子
子
子
子

張
君
之
印

張
君
之
印

天桂禪師提唱碧巖集序

碧巖集者。宗門第一之寶典矣。天桂禪師者。祖底越格之巨衲也。今以此人提唱此書。其猶龍而插翼。虎而戴角乎。我豈敢得添一詞乎哉。然今時往往。以暗證默照。誤爲禪會之輩。常惡文字言句。如毒蛇。怕經論語錄。如猛獸。却道教外別傳。不立文字。噫。不亦陋歟。先覺曰。教外分明。教內何妨。教外若不容教。教外亦非真。何以故。鏡若明了。不擇物像。像若不現。鏡未明了。汝爲藏鏡塵垢。却斥物像。

若是大道不作此見。可謂知言也。况如此書。雪竇之與圓悟。皆大慈爲物之餘。披肝瀝膽。劈腹剜心。或頌或評。一拈一弄。機奪機。的破的。大似轉圓石。于千仞之上。走明珠於一盤之中。轉轉阿轉轉。了無凝滯。眞是擲地金聲。雖然。若或忘却鉤頭意。認得定盤星。杲罵天未敢許。汝在焉。

明治三十一年三月

住圓覺 演洪嶽識

天桂禪師が提唱し給ひつる碧巖錄のほしがきにとて詠じける今様風

是は我が日本の天桂老
靈山一會儼然の
妙峰孤頂を生く涯
別峰相見善財の
因陀羅網の一一珠
了不可得の髓は何
生る三日に牛を食ふ
其は誰を同じ洞上の
拈華の一華五味の如

雪竇圓悟手を把りて
頌古評唱の其が辯解
下りもそめぬ徳雲に
例も劔の舷刻み
光光交互も皮肉にて
碧巖巖下に破顔微笑へ
虎の氣槩にこり編める
年壯き覺者の覺本師
熟く五葉を一鼎に

慣手の調和嘗得しは
おのれ電鈔撰者なる
法嗣即非の子孫とし
然れど辯解が電鈔に
一頭地高き眼睛に
今立ぬしに訂正を
櫪に伏す驥の志操

消化よろしき結果なり」
大智と共に隠元が
指をらるも恥かしな」
さる道ありて取れりける
「覺えず眉毛をを結ぶ」
序をの囑託を諾ふも
千里に在るか知らざれ驚」

神武天皇即位紀元二千五百五十八年の五月十一日ばかり躑
躑と薔薇と交映へる東京牛門の南軒にて

森森 高津 柏樹

佛果園悟禪師碧巖錄講義

凡例

一此編原名を紙積抄と云ふ、享保二年師七十歳の春、攝の明月林藏鷲菴に於て提唱せられたる者にて、或は天柱碧巖抄と稱し、或は佛果園悟禪師碧巖集抄と云ひ、或は又碧巖集聞解と稱するあるも、皆此の紙積抄に外ならざれば、看者幸ひ異本の觀を爲すこと勿れ、然れども亦各處の謄本、各其の名を異にする如く傳寫の誤り實に鮮なからず、故に數本を對照して漸く脱稿するを得たれども、徃往孰れが正孰れが否かを判別するに苦しむ處なくんばあらざりき、然れ共此の如きは、編者自ら揣らず、敢て之が取舍を專にせり、故に意志を費やし、ことの鮮妙ならざる、實に豫想外に出でにき、從ひて誤謬尙ほ保し難し、大方諸氏其れ是正に吝なること莫れ。

一此編に従事するや、昨明治三十年八月初三日にして、其の十二月を以て了畢したりければ、日子を費やすこと亦尠なからず、然れ共單純なる是の如き業を以てすら尙ほ且つ然り、故に充分の意志を此間に挿入することを得ざりしも、復た實に已むを得ざるなり、とは桂老師の提唱なるも、時に或は如何と思ふ處なきにしも非ざれば、不二、無明、黒漆桶、等の諸解を參酌して遺補する所あらんと欲したるなり、然

れども常に日子を要するのみに非ず、却て集註の嫌ひあれば、寧ろ老師の天真のみを鎮存せしめんと思考し、依て提唱の語、若くは句格までをも、勉めて舊套を存して、唯た其の中稍や解し難き者のみを欄外に審明せり。

一 提唱中、桂師又は桂和尚と稱する者は、即ち隨聞記者の安せし者にて、又欄外、實統と云へるは、種電の大智實統にて、服天とは、方語解の蘇門居士服天なり。

一 此編、原後序の中二三を省きし者は、徒らに紙数を増加せんことを恐れてなり、故に今は只た其の緊要なる者のみを存せり。

一 欄外、一本某に作ると云ひて、一一取捨せざる者は、寧ろ讀者の好む所に任せんが爲なり、要するに提唱は傳寫に存し、本文は桂老師の言へるが如く、即ち參同契毒鼓に、或問、碧巖集中云、石頭因看_二雞論_一、至_二此會_一萬物爲自己一處、豁然大悟、作_二一本參同契_一、亦不出_二此意_一、未審有_二此說_一乎、答、圓悟若不知_二大師所_一履踐_二而作_一這般言、則何處見_二好圓悟_一、決是後代庸流妄添也、似_二好_一釜羹、被_二一顆巖糞汚却_一、蓋現本碧巖集中、此等妄添、間又多矣、とありければ、這般の消息、多辨を要せず、且つ唯た妄添の多きのみならず、或は脱字等の無き、亦保すべからざるなり、願の句等に於いて之を觀るべし、從ひて註の誤脱、固より然るべきなり、然れども今は只た、舊きに依て舊きを存するのみ。

一 提唱中、_二徃徃舊江戸の方言に屬する者あり、蓋し老師の辭か、讀者更に之を詳にせよ。

一 提唱中、「爰」の字を多用せり、此處の訓なり、又ソウアロウを「走有郎」に、マキロウを「參郎」に、ヨカロウを「好郎」に、ナドを「杯」に、云テ聞ケ羊等に作れり、然れども其の他略字の多くは、皆勉めて之を正字に改め、又行文中返り點の區區たりし處鮮少なからざりしも、勉めて改めつ、然れども、尙遺漏あらん。

一 編中、古事、專門語、國語、俚諺等、得るに隨ひて之を欄外に掲げ、又之が解を施したれど、唯た後學初機の爲めに計りし者なれば、詳略或は一顧に價ひせざる者あらん、幸ひ恕せよ。

一 此編の目次は、皆桂老師の撰定せし者なれば、種電の既に掲げし目次あるにも拘はらず、特に此に存しき、看者諒焉。

一 余の此編に於けるや、書籍搜索等、都べて外護の及ぶ限り、越福井の士今立裕氏、自ら費を投じて之が贊助を爲したれば、常に編者獨り其の芳志を謝するのみに非ず、讀者も亦深く其の芳志を謝せられんことを、終りに臨みて。

明治三十一年春王の正月

編者 天胤覺本謹誌

天桂傳尊禪師行業記

師諱は傳尊、天桂と號す、別號老螺蛤、又老米蟲と稱す、第九代後光明帝慶安元年五月五日を以て紀州和歌山城に生る、父は大原氏、母は鈴木氏、世世豪族なり、共に佛乘に歸す、三男一女あり、師は即ち其の仲なり、生れて英氣人に逼る、體貌龐碩、機警聰敏、眼電爛の如し、年甫めて七歳、群兒と戯むる、ことを好まず、常に父母に向ひて出家修道せんことを請ふ、翌八歳春、決然出家の狀を告げしかば、父母其の勇猛にして抑止すべからざるを知り、遂に其の所願を許す、依て本府靈學寺の傳弓和尚に投じて雜染し、傳尊と名づけたり、後西院帝寛文三年、師歳十六、本府某寺の結制に入る、其の主維摩經を講ず、一老宿あり、經意を以て師に徵詰せしに、師の辨論流るゝが如くなりしかば、老宿愕然として歎異す、爾後列席の者、若し疑滯あれば、皆師に憑りて之を質しきと云ふ、弓公之を聽いて益々鐘愛を加ふ、十八歳春、遊方を志し、先づ尾州に抵りて、錫を含笑に掛く、時に萬松祖海和尚、大に道學を以て鳴りしかば、師乃ち往いて之に親近奉事す、海公其の氣宇崢嶸として凡流に非ざるを見て、甚た之を歎稱す、因みに師の爲に碧巖集を提唱す、僅に三晝夜にして卷を終ふ、師も亦之を受けて、更に研釋すること三晝夜にして始めて眠に就きたりと云ふ、十九歳、遠州可睡の衝天和尙に參じ、翌春宇治興聖の龍蟠和尚に參す、皆實學を以

て日の力を究む、二十一歳夏、攝の瑞龍に行いて、鐵眼和尚の楞嚴經を講ずるを聴き、翌歳の秋歸省し、尋で慈光の玄忍和尚に依て大戒を具受す、二十三歳春、洛の泉涌に如いて、戒光院周律師の法華經を講ずるを聴く、六十小劫猶如食頃の文に至りて、大に疑情を起し、以て之を律師に質す、周義解を以て辨析して、其の肯綮に當ることを得ざりしかば、是れより義學の以て究むるに足らざるを知り、専ら參禪を事とす、二十四歳、幾内洞濟の耆宿に歷參す、到る處皆其の俊邁を稱せざることを無かりきと云ふ、二十五歳、再び衝天和尙を叩き、天桂の號を賜はる、二十六歳、駿州島田に行いて、靜居五峰和尚を叩く、一日出て、他に適く、中途山川の明媚を見て、豁然として省あり、是より更に機敏閃電、能く其の鋒に當る者無し、二十七歳夏、遠州十輪に於いて結會、第一座に充てらる、維摩經を講演して、一衆を激勵す、衆大に服す、時に泉州蔭涼の鐵心和尙、嘗て我普照國師に參して道望籍甚なりと聞き、輒ち適いて參見す、心熟視して曰く、汝を待つこと久し、來ること何ぞ遲き、師曰く、和尚某を見ること什麼に依てか遲き、心曰く、長老太だ饒舌、師曰く、只だ遮掩し得ざるが爲なりと、心微笑す、師即ち禮拜、挽留數日、又南紀に赴く、延寶五年正月、師三十歳、再び靜居に回り、五峰和尚に參して、機機相契ふ、仍て師をして入室せしめ、面授嗣法、次で其の席を董さしむ、三月諸緣總持に升りて瑞世し、事竣りて復た靜居に還る、適々佛生會に值ふ、浴佛の語に曰く、指天指地、指頭有眼、周行七步、脚下有眼、恁麼具大眼目、底爲什麼被

山僧一點、非逢敵手、行難、三十五歳秋、東臯心越和尚を水府の旅邸に訪ひ、應酬數番、偈あり、贈らる、三十七歳、僧堂新に成る、是より先き、方丈庫裡衆寮を改造し、又山門兩廊を造り、大に古規に復せんことを齎りき、時に肥の皓臺獨庵和尚、事ありて江府に赴く、途次師の道望を聞きて過訪したりければ、師懇懇に迎接して、終に留めて安居せしめ、以て相與に衆を激勵す、古風爲に漸く扇ぐ、翌三十歳、夏結制、會する者一千餘人、只だ打坐を事とす、此の秋盤珪禪師を島田の僑居に訪ひ、翌春、復た珪公を江府に訪ふ、前後共に親しく宗乘を談じて、他の痒處に抓著したりければ、珪公大に之を歎稱す、靈元帝貞享四年、師四十歳、夏結制、衆の請に依りて碧巖集を評唱す、然れども獨庵和尚之を惜みき、東山帝元錄二年、師四十二歳春、大藏經を請して、新に經堂を建つ、此夏、江州彦根城の大雲、席を處うせしかば、乃ち書を齎して師を邀請せしも、師臥して起たず、使者屢々到る、師曰く、比來吾宗、弊風久しく扇ぎ、斗米嗣を易へ、呂牛姓を冒す、既に家法の本を喪ふ、吾れ常に之を嘆ず、何の出世と云ふことか之れあらん、汝復た言ふこと莫れと、使者啓して曰く、大雲の一衆、但た大法の爲に師を假るのみ、孰れか不典と謂はんと、懇請して止まざりければ、師此に於いてか起つ、翌歲又結夏、四來の雲衲、一千五百、亦盛なりと謂ふべし、然れども其の四月、事に困りて退院す、偈あり、曰く、去還好矣來還好、萍水浮雲一箇僧、豈爲別人穿鼻孔、隨緣今日又騰騰、時に嵯峨に講經者あり、佛意を謬解し、私説を主張して、諸宗を毀

罵す、爲に教家の奴と爲る者鮮なからず、因りて洛の天寧心海和尚大に之を痛嘆し、師の過訪を機として、之を折伏せんことを請ふ、師扼腕して曰く、善い哉言や、吾悲嘆する所亦此に在り、若し是の如くにして日本を去らば、恐らくは祖國地を捨てて盡さんかと、遂に去らざらんが故に、楊巖を誦演す、聽講者凡そ三千人、蓋し師の佛經を流通するや、諸家の註釋に拘はらず、單へに金文を擧して、三乘の乖角を泯じ、一音の權衡を提ぐ、衆爲に愕然、嘆服せざる者なし、秋坂城に赴く、初め師の大雲を退くや、江の渡舟に於いて、浪華の人金屋某に逢ふ、因に師に告げて曰く、荒陵に一小庵あり、願はくは來りて憩止し玉へと、師之を諾す、春海菴即ち是なり、欽明天皇の社坊にして、天王寺の附庸なり、師乃ち以て禪苑と作し、自ら明月林藏鷲菴と署す、棲遲すること六年、此の間紀州意譽寺の請に應じて、六祖壇經を提唱し、歸途月舟和尚を住吉の興禪に訪ふ、翌春、思益經法華經等を藏窟に開示す、道俗皆師の化に俗せざるなし、九年丙子、阿州丈六石峰和尚の請に依り、亦已むことを得ずして此處に遷る、示衆懺懺、策勵敢て措かず、或は維摩經を播宣し、或は三轉語を設けて學徒を試験す、即ち一轉に曰く、不念彌陀佛、兩無乾屎橛、二轉に曰く、一字不著劃、八字無兩ノ、三轉に曰く、張三喫鐵棒、李四忍疼痛、十一年戊寅、復た碧巖集を提唱す、洞濟を分たず、聽者麀集、居ること十餘年、然れども師の氣正しく德壯に、巖峻毫も倚らざりしかば、或は之を忌み、法門無賴の徒、將に之を公府に懇へんとしたりしも、師恬然、視ること恰も空華の如

し、事亦終に寢む、爾來人事を免じて室を掩ひ、扁して瞶眼樓と云ふ、五十五歳春、小徒某、師の面相を貌して師に諛を乞ふ、諛に曰く、不修戒定、業識茫茫、眼目稜角、破口爛腸、撥無佛法、吐瀉諸方、咦、此是何人、鬼州生下天桂子、斷見外道瞶眼坊、寶永三年九月、師五十九歳、復た藏鷲に回る、翌春、萩原三位公の爲に般若經を講ず、隨徒之を記して止啼錢と名く、師性俗の藻麗章句を好まず、只た常に佛典祖錄を擧着して、勉めて邪解を排斥し、宗乘を發揮す、中御門帝正徳二年、六十五歳、是より先き、宗祖元古佛の正法眼藏を敬信して屢々拜閱し、且つ竊に謂へらく、此の一書は、佛乘の玄樞、祖宗の命脈にして、千齡未有の體裁なり、然れども室中鎮藏して、未だ梓に上せて公に行はず、故を以て每篇寫誤脱字多し、又徃往好事者の鄙説を妄加することあるに似たり、故に一たび考訂を経るに非ずんば、其の眞面目を見るべきこと最も難しと、爾後遠く使を馳せ、或は人に囑して、諸刹の謄本を乞ひ索む、六十九歳、宏智錄を提唱す、四來の衆徒、七千餘人、翌春、又碧巖集を提唱す、徒衆一千、侍司之を記して、紙價抄と云ふ、此編即ち是なり、實に是れ享保二年丁酉、師七十歳の春にてありき、師毎に徒衆に示して曰く、爾等諸人、一切事上、須く實頭なるべし、凡そ世間に實なる者は、佛法に實ならずと云ふこと無し、佛法に實ならざる者は、世間上亦實あることなしと、七十一歳、嘗て參同契寶鏡三昧、及び洞上の五位を註解して成る、名けて報恩編と云ふ、七十四歳、攝北豊島の郡に下村玄仙と云ふ者あり、嘗て幽閑の地を吉田の邑

に得て、自ら謂へらく、之を師に奉して壽塔の基と爲さんと、人を介して師に其の意を致さしむ、師欣然之を嘉し、乃ち自ら到り、境致の幽邃なるを周覽して曰く、寔に是れ天藏の地にして、嘉遁の境なりと、是に於いて把茅數椽、扁して退藏峰と云ふ、菴は舊號を存して陽松菴と稱す、七十五歳、六祖壇經の註解成る。題して海水一滴と云ふ、七十九歳、一日憤排して、正法眼藏を註解せんと欲し、爾來研精覃思、翰を起草に染めて、享保十四年、八十二歳の春、遂に之が成効を告げにき、古籍に援據して、其の詳略を考へ、比較練選、精を著け意を盡して、罄きすと云ふことなし、末後徒に示して曰く、異日年忌の時、牌前の莊嚴、一切爲すべからず、老僧を供養せんと欲せば、欽んで我正法眼藏辨註を拜閱せよ、是れ第一の孝順と爲るべしと、此の秋江府の大官諸刹の屈請に應じて、海水一滴を天龍に提唱し、大に道風を東關に播揚しき、衆一千三百、咸な言ふ法席の盛なる、古今有ること稀なりと、翌春、又請に駿府の顯光に應じて、海水一滴を開示す、衆七千餘員、八十一歳秋、高松に赴きて碧巖集を提示す、衆八百、終りて復た藏鷲に回る、八十二歳、辨註成るや、夏より秋に至りて、便ち之を宣揚す、玄侶六百、翌年又秋より冬に至りて、眼藏を垂示す、四來の緇素倍、多し、八十四歳、春より夏に至りて、復た辨註を開示す、秋金剛三昧經を退藏峰に講す、八十五歳、初め本州の執事蜂須賀氏、師に歸して髮弟子と爲り、號を立して等無軒と云ふ、今春、師を請して法華經を洛の極樂寺に宣揚せしむ、衆一萬、日日秘要藏を開顯して、苦口提耳す、一衆爲に胸

臆を洗ひ、碩師宿徳、皆節を折りて服膺せすと云ふことなし、八十六歳春、又辨註を垂誨す、益砥礪して措かず、故に衆咸な言ふ、元古佛の宗乘を四百年後に宣布すること、唯た惟れ師のみ以て之を得たりと、此歳又書を著はす、名けて聽耳彈琴と云ふ、通して十篇あり、翌十九年浪華の人五十川一路居士、大藏經を寄附す、爲に經堂一字を創建す、二十年乙卯八十八歳、春等無軒の請に應じて、楞嚴經を洛の遣迎に講す、燈下の緇徒、一萬三千餘員、且つ其の化に預る者、實に勝けて數ふべからずと云ふ、秋又退藏峰に在りて圓覺經を開示す、都衆七百、一日洗面の因み、嗣玄端を召して曰く、老僧行脚邇きに在り、汝等須く葬埋の地を修治すべしと、端曰く、老和尚嬰礫なり、塔を造ること未だ遲しとせず、師曰く、否な、既にして師自ら山に登り、起塔の地を擇び、諸子を督促して經營せしむ、九月藏鷲に回る、十一月塔所成る、而して其の十二月初三の夜、微恙を示して、五月病床に就く、國手診して曰く、是れ尊年八十八の病なりと、終に起たず、然れども日日垂示して、應接常の如く、勸勵亦極めて切なり、斯くて翌秋九月に至るや、阿州侯即ち嚮きの居士等無軒、使を馳せて問候せしむ、師几に隱りて應接し、嗣玄端に命じて代りて書を修せしむ、其の略に曰く、齊家治國も、亦菩薩の行道なり、故に敦く仁政を鋪き、上下相信して乖戾あること莫れ、是れ老僧最後の赤心なりと、中夜に至りて、疾い革まる、衆咸く悲泣す、師顧視して曰く、老僧一生、宗乘を荷負して、専ら人の爲にすと雖ども、人情於高にして化し難く、又怯弱にして信する者太だ

八
勢なし、他日正法を擧揚する人師を想像して、覺えず涕泣す、蓋し夫れ諸法は緣生、畢竟性空、只九箇の一段、知り易くして明め難し、恐らくは汝諸人、錯りて之を會せん、若し實に此義を明むるときは、即ち是れ如來遺法の弟子にして、正に佛祖の恩を報する者なり、向來此義を擔荷し展轉して、必ず人の爲にせよ、若し未だ此場に到らざる者、他時老僧を慕ひ來ることあらば、則ち報じて道へ、臨末涕泣して此語を爲すと、必ず忘ること勿れ、吁太だ勞困せり、道は道は、囑囑と、示衆督勵、眞に是の如く、終に死に至るまで止まざりき、十日天未だ明けず、安禪定坐、泊然として化しければ、乃ち全身を奉して、退藏峰の塔基に寤し、且つ土を封して、植うるに一楠樹を以てす、故に塔を名けて靈楠と稱し、地を稱して不老峰と云ふ、世壽八十有八、法臘八十有一、實に是れ第百十三代中御門帝、享保二十乙卯の歲、十二月十日、卯の辰なりけり、著はす所略前述の如し、外遺稿若干編あり、嗣法の者三十一人、而して直指玄端、師席を繼いで復た大に師の道を振ひきとなん、今明治三十一年を距る、正に是れ一百六十三年なり、嗚呼師識見の卓越、學植の豊富、實に後人の多口を要せず、巍巍乎雲外に秀で、恰も山嶽と其の秀を競ふ者の如し、故に時に或は後進の登陟を爲し難きも、善く感愍提撕して、赤心片片、慈意蓋し至らざる無し、回顧せば師の斯道に於ける、寔に能く勉めたりと謂つべし、即ち彼の正法眼藏を閱するや、浩瀚なる辨註の作あり、六祖壇經を偽書と云ふや、別に一旗幟を翻へして海水一滴の著あり、其他報恩編、隨耳彈琴等、

凡そ斯道の爲、計りて策らざる無し、殊に彼の參同契毒鼓の如き、善く邪を破し正を顯はし、時世を慨し、編執を戒め、以て大に革新を期したり、豈に偉なりと謂はざるを得んや、抑も其の文勢、何ぞ此の圓悟禪師の評唱に似れる甚しきや、爲に師の、力を碧巖集に盡せる事の更に顯著なりしを知る、只た憾むらくは、師の數十年前の往昔に見在して、數十年後の今日に見在せざるを、宗風競はず、死聲多し、師の巖峻法の爲己れを忘る、一英斷に依るに非ずんば、焉ぞ此の濛濛滔滔、緇白を辨せざる澆末の世を明かにすることを得ん、噫、然りと雖とも亦焉ぞ知らん大寂定中、眉を揚げ、腕を扼し、目を瞑らし、以て恍恍惚惚、夢幻境裡の有氣息死人の今人を喝責叱咤して止まざるなきを、因みに肥の甘露元皓潮和尚の碑銘ありければ、掲げて記傳の餘を推すと云爾、即ち銘に曰く、

哲人出興。敷宣玄微。始融衆法。普攝群機。順行逆施。終莫我違。所以慧日。破暗揚輝。師自幼齡。脫白披緇。留神宗旨。不事言辭。入海算沙。何以足爲。砥礪智劍。斬斷繁維。徹證大事。更不復疑。入峰公室。心印密持。峻阿二利。隨處建旗。雷奔霆掣。甘露以時。三十有一。傳法得人。若龍若鳳。一一超倫。師化所被。熙如陽春。望副都鄙。道符王臣。化儀斯戢。俄息轉輪。退藏峰頂。塔奉全身。世失依怙。以傷四民。焯德序功。碑銘具陳。虛空可壞。大地可溷。此人天師。道法不泯。

○系譜

宗祖永平道元—孤雲懷辨—徹通義介—瑩山紹瑾—峨山紹碩

太原宗真—梅山開本—恕仲天問—喜山正讚—茂林志範—崇芝性俗

賢仲繁哲—大樹宗光—翠峰壽泉—鐵叟棲鈍—舟谷長香

傑山鐵英—報資宗恩—五峰海音（一本開音に作る）

天桂傳尊—直指玄端

佛果園悟禪師碧巖錄講義目次

第二十則	達磨廓然	第二則	趙州至道
第十三則	馬大師不安	第四則	德山複子
第七則	雪峰粟米	第六則	雲門好日
第九則	慧超問佛	第八則	翠岩眉毛
第十一則	趙州四門	第十則	睦州掠虛
第十三則	黃檗唾酒糟	第十二則	洞山麻三斤
第十五則	巴陵提婆宗	第十四則	雲門對一說
第十七則	雲門倒一說	第十六則	鏡清啐啄
第十九則	香林坐久成勞	第十八則	國師塔樣
	俱胝一指	第二十則	龍牙禪板

第二十一則	智門蓮華	第二十二則	雪峰鼈鼻蛇
第二十三則	保福遊山	第二十四則	瀉山劉鐵磨
第二十五則	蓮華峰庵主柳樛	第二十六則	百丈大雄峰
第二十七則	雲門體露金風	第二十八則	南泉不是心佛
第二十九則	大隨劫火	第三十則	趙州大蘿蔔
第三十一則	麻谷持錫	第三十二則	定上座佇立
第三十三則	資福一圓相	第三十四則	仰山五老峰
第三十五則	文殊無着問答	第三十六則	長沙遊山
第三十七則	盤山三界無法	第三十八則	風穴鐵牛機
第三十九則	雲門花藥欄	第四十則	南泉一株花
第四十一則	趙州大死底	第四十二則	龐居士好雪
第四十三則	洞山無寒暑	第四十四則	禾山解打鼓

第四十五則	趙州布衫	第四十六則	鏡清雨滴聲
第四十七則	雲門六不收	第四十八則	王太傅煎茶
第四十九則	三聖透網	第五十則	雲門三昧
第五十一則	雪峰住庵	第五十二則	趙州石橋
第五十三則	百丈野鴨子	第五十四則	雲門展兩手
第五十五則	道悟不道不道	第五十六則	良禪客破三關
第五十七則	趙州不揀擇	第五十八則	趙州五年分疎
第五十九則	趙州至道	第六十則	雲門拄杖化龍
第六十一則	風穴一塵	第六十二則	雲門秘在形山
第六十三則	南泉斬猫	第六十四則	趙州草鞋
第六十五則	外道問佛	第六十六則	岩頭黃巢收劍
第六十七則	傅大士講經	第六十八則	仰山呵呵大笑

第六十九則	南泉一圓相	第七十則	百丈咽喉唇吻
第七十一則	百丈咽喉	第七十二則	百丈咽喉
第七十三則	馮祖四句百非	第七十四則	金牛飯桶
第七十五則	烏白屈棒	第七十六則	丹霞喫飯了
第七十七則	雲門餠餅	第七十八則	開士入浴
第七十九則	投子屎沸椀	第八十則	趙州急水上
第八十一則	藥山塵中塵	第八十二則	大龍色身
第八十三則	雲門古佛交參	第八十四則	維摩不二
第八十五則	庵主虎聲	第八十六則	雲門厨庫三門
第八十七則	雲門藥病	第八十八則	立沙三種病人
第八十九則	雲巖通身手眼	第九十則	智門般若
第九十一則	鹽官犀牛	第九十二則	世尊陞座

第九十三則	大光作舞	第九十四則	楞嚴不見
第九十五則	長慶二種語	第九十六則	趙州三轉語
第九十七則	金剛輕賤	第九十八則	西院兩錯
第九十九則	國師十身調御	第一百則	巴陵吹毛劍

佛果園悟禪師碧巖錄講義目次終

原序

至聖命脉列祖大機換骨靈方頤神妙術其惟雪竇禪師具超宗越格正眼提掇正令不露風規烹佛煨祖鉗鎚頌出衲僧向上巴鼻銀山鐵壁孰敢鑽研蚊咬鐵牛難爲下口不逢大匠焉悉立微粵有佛果老人住碧巖日學者迷而請益老人愍以垂慈剔抉淵源剖析底理當陽直指豈立見知百則公案從頭一串穿來一隊老漢次第總將按過須知趙壁本無瑕類相如謾誑秦王至道實乎無言宗師垂慈救弊儻如是見方知徹底老婆其或泥句沉言未免滅佛種族普照幸親師席得聞未聞道友集成簡編鄙拙叙其本末

時建炎戊申暮春晦日參學嗣祖比丘普照謹序

自四十二章經入中國始知有佛自達磨至六祖傳衣始有言句曰本來無

一物爲南宗。曰時時勤拂拭。爲北宗。於是。有禪宗。頌古行世。其徒有翻案法。呵佛罵祖。無所不爲。間有深得吾詩家活法者。然所謂第一義焉。用言句。雪竇圓悟。老婆心切。大慧已一炬丙之矣。嶠中張煒明遠。燃死灰復版行。亦所謂老婆心切者歟。

大德四年庚子。四月初八日癸丑。紫陽山方回萬里序。

碧巖集者。圓悟大師之所述也。其大弟子大慧禪師。乃焚棄其書。世間種種法。皆忌執着。釋子所歸敬。莫如佛。猶有時而罵之。蓋有我而無彼。由我而不由彼也。舍已徇物。必至於失已。夫心與道一道。與萬物一。充滿太虛。何適而非道。第常人觀之。能見其所見。而不見其所不見。求之於人。而人語之。如東坡日喻之說。往復推測。愈遠愈失。自吾夫子體道。猶欲無言。而況佛氏爲出世間法。而可文字言語而求之哉。雖然。亦有不可廢者。智者少。而愚者多。已學者少。未學者多。大藏經五千餘卷。盡爲未來世設。苟可以忘言。釋迦老子。

便當閉口。何至如是。叨叨天下之理。固有不離尋常之中。而超出於尋常之表。雖若易知。而實未易知者。不求之於人。則終身不可得。古者名世之人。非千人之英。則萬人之傑也。太阿之劍。天下之利劍也。登山則戮虎豹。入水則刺蛟龍。人之知之。盡於是已。然古人有善用之者。乘城而戰。順風而揮之。三軍爲之大敗。流血赭乎千里。是豈可以一已之所能而盡疑之哉。自吾聞有是書。求之甚至嶠中張氏。始更刻木來謀於予。遂贊而成之。且爲題其首。

大德九年歲乙巳。三月吉日。玉岑休休居士。聊城周馳。書於錢唐觀橋。

寓舍。

或問碧巖集之成毀孰是乎。曰皆是也。齷齪來東。單傳心印。不立文字。固也。而血脈歸空。諸論果誰爲之哉。古謂不在文字。不離文字者。真知言已使人。人於卷簾聞板。豎指觸脚之際。了却大事。文字何有哉。拈花微笑以來。門竿倒却之後。才涉言句。非文字無以傳。是又不可廢者也。嘗謂祖教之書。謂之。

公案者。倡於唐而盛於宋。其來尚矣。二字乃世間法中吏牘語。其用有三。面壁功成。行脚事了。定盤之星難明。野狐之趣易墮。具眼爲之。勘辨。一呵一喝。要見實詣。如老吏據獄。讞罪。底裏悉見。情款不遺。一也。其次則嶺南初來。西江未吸。亡羊之岐易泣。指海之針必南。悲心爲之。接引。一棒一痕。要令證悟。如廷尉執法。平反出人於死。二也。又其次則犯稼憂深。繫驢事重。學奕之志。須專。染絲之色。易悲。大善知識。爲之。付囑。俾之心死。蒲團。一動一參。如官府頒示條令。令人讀律知法。惡念才生。旋即寢滅。三也。具方冊。作案底。陳機境。爲格令。與世間所謂金科玉條。清明對越。諸書。初何以異。祖師所以立爲公案。留示叢林者。意或取此。奈何末法以來。求妙心於瘡紙。付正法於口談。點盡鬼神。猶不離簿。傍入門戶。任喚作郎。劍去矣。而舟猶刻。兔逸矣。而株不移。滿肚葛藤。能問于轉。其於生死大事。初無干涉。鐘鳴漏盡。將焉用之。烏乎。羚羊掛角。未可以形迹求。而善學下惠者。豈步亦步。趨亦趨哉。知此則二老之

心皆是矣。圓悟顧子念孫之心多。故重拈雪竇頌。大慧救焚拯溺之心多。故立毀碧巖集。釋氏說一大藏經。末後乃謂。不會說一字。豈欺我哉。圓悟之心。釋氏說經之心也。大慧之心。釋氏諱說之心也。禹稷顏子。易地皆然。推之。輓之主於車行而已。爾來二百餘年。嶠中張明遠。復鏤梓以壽其傳。豈祖教回春乎。抑世故有數乎。然是書之行。所關甚重。若見水即海。認指作月。不特大慧憂之。而圓悟又將爲之去。粘解縛矣。昔人寫照之詩曰。分明紙上張公子。盡力高聲喚不應。欲觀此書。先參此語。

大德甲辰四月望。三教老人書。

佛果園悟禪師碧巖錄卷第壹

折居光輪

校閱

天桂傳尊禪師提唱

高津柏樹

松崎覺本編輯

師住澧州夾山靈泉禪院評唱

雪竇顯和尚頌古語要

佛果者師住長沙府道林日宋第八主徽宗所賜之號也○園悟者住金山龍遊寺時南宋十主高宗所賜之號也名克勤字無着法嗣五祖演禪師兩度賜號共住碧巖院之後也然今標佛果園悟者其門人為教賜號而尤著明且時代悉所知故歟依謂此書於卷首畫方圖其中有宗門第一書無邊風月等文句是又諸方生難值希有之思欲令此書尊重流傳之謂而張氏暗為求於繡梓壽傳之便泐發於四方

張氏卜八、原本ノ編者囑中ノ張明遠也

之巧言也。依之當時禪子爲之記。恁麼一頌者歟。比况恰如買賣家膏藥簡板。爰可費辨哉。然今古穿鑿語句而論於第一第二。爲於種種發解可笑。失却吾宗題目。夫吾門宗拈花微笑。心心即通。不立文字。教外別傳。底之涅槃心。四七二三。以心心相印。來名佛心宗也。只箇名目。粘在人人額頭上。如何看。元來不在。半言隻字。奈何可有第一第二書。吾學者請察之。次下雖有數件序文。今不講之。如何夫講唱此錄之本意。只翻個難曉華語。而易個易曉和語。將來圖令個古人公案。如指掌已爾。然則專要于本則頌古垂示着語等。豈摘枝葉徒可累日哉。總而欲看古人公案。一一須歸自己。全非說他人身上。老僧今不獲已。應衆求此。吾末後之說話也。好不借眉毛仔細爲商量。諸人莫勿認吾閑言語。句句切須。証據自己一段。碧巖老僧偏拭目待厥人。嗟呼希乎。○禪師者。引善住意天子所問經。辨之顯明也。往披之。○碧巖者。靈泉方丈。額曰碧巖。開山善會禪師。僧問。如何是夾山。境師曰。猿抱子歸。青嶂後。鳥啣花落。碧巖前。此答話無翼。翻天下。故後名之。不二曰山名。然會元圓悟之傳云。碧巖院。宜依之。於此道場。提唱之。故名碧巖錄。或有三處提唱之異說。決不可取。桂氏論之的實也。具出別紙。○錄者韻會小補曰。記也。廣勻采錄也。增勻收拾也。又檢束也。

其外引禮部勻禪林寶訓等。○卷者今冊子不可謂之。卷然言卷。順古出處字義辨之。廣今不悉之。○第壹第居也。壹建數首也。又第次第也。等根據又多。○師住師指。圓悟是編者門人之所載也。住引道誠法師要覽住持編并百丈清規說之。○澧州宋屬荊州北。路大明一統志六十二岳州府下具之。○夾山不二云。夾山乃峽水相接山也。古來皆以之。可謂將錯就錯。今計考一統志地誌。差互不少。徃詳之。○靈泉善會禪師開基寺也。歟。然夾山靈泉。共按地誌。未見之。澧州也。○評唱小補曰。訂平也。廣勻評量也。等唱說文導也。廣勻發歌也。或引也。先也。等。○雪竇山名也。又院號也。見一統志四十六。○顯和尚名。重顯字隱之。法嗣智門禪師。初住翠峰。後住雪竇云。和尚引翻譯名義集卷二辨之。如常。○頌古。引雪竇頌古集。序意或續傳燈頌古門。又禪門寶訓等之明文解之。大核言。先德淵源。頌以發揮詞意。有規宗旨。無惑垂裕萬世等義也。○語要。要領又契券也。又引孝經註而明之。猶言法要心要也。此錄不知何人編集也。○垂示。鈞語也。先拈宗乘中事。論師學對揚。把住放行等之。大綱來。欲令學人趣向。厥公案根體之鈞竿也。此中自有索話之義矣。○每一則。令蒙於學字者。此編者所載。非圓悟自言。是日兼而呵責。今時學人弊習。或抑或揚。極

種化度而起發坐下、親言苦語、一一難筆之願、今予所記、真此昆盧海之一滴已爾矣、

第一則 武帝問達磨

▲垂示云、隔山見煙、早知是火、隔牆見角、便知是牛、舉一明三、目機銖兩、是衲僧家尋常茶飯、至於截斷衆流、東湧西沒、逆順縱橫、與奪自在、正當恁麼時、且道是什麼人行履處、看取雪竇葛藤、

隔山ヨリ銖兩迄ハ、學人俊發之機便ヲ云フ、目機ノ機ハ、發動ノ義、易ニモ動ノ微、善ノ始テ露ハル、者也ト云ヘリ、言ハ、杯リニ物ヲヒラリト掛ル端的、早ヤ銖兩分量迄見破スト云フモ、イヤ衲僧家尋常ノ茶飯雜談ニシテ、珍ラシカラヌコトヂヤ、至於截斷ヨリ自在ト云フ迄ハ、師家學人ヲ接得スル作用ヲ述ブ、東湧西沒ハ、六種震動下見テ可ナリ、六種震動ハ、元ト世會實相ヲ示ス表儀ナレド、今言、六種震動、二塵不立、スツハリ掃蕩而不通ノ風、或亦順行逆行、縱橫無碍、與奪自在、隨時活潑、此宗師家向上ノ作略トハ云フ、正當恁一、上件ノ觸ヲ得ル底ノ人ハ誰テ有ルゾ、今日達磨ノ手段ハ、如是ヂヤ

程ニ看ヨト、公案ニ結寄シタルナリ、▲行履ハ、行跡履歷ノ義、▲看取一、雪竇、能ク達磨ノ行履ヲ見得シ頌出シテ置レタ程ニ、人々看ヨト、

○舉梁武帝問達磨大師如何是聖

諦第一義 磨云廓然無聖 如何是聖

帝曰對朕者誰 磨云不

識 帝不契 達磨遂渡江

至魏 帝後舉問志公

志公云陛下還識此人否

與三十棒。○帝曰不識。却是武帝承當志公云此

是觀音大士傳佛心印。胡亂指注帝悔

遂遣使去請。果然把不住志公云莫道陛

下發使去取。東家人死西家人助哀闔國人去。

佗亦不回。志公也好與三十棒

梁武帝一、最初無功德之答話ニ遇ウテ、手持チ不沙汰ニ成ラレタ故、今教家ノ極妙究
立トスル、真俗不二ノ中道諦ヲ持來テ問タ、○磨云廓然一、大虛廓然ト、廓カニ而一
塵不立、凡ノ聖ノト云フ者ハ、何ニモ無イハ、○對朕一、武帝達磨ノ答處ヲ不_レ會、言
句上ニ取リ付イテ、只理屈詰ニ掛ルナリ、對朕御自分、何_レト聖者デハ無イカ、凡

エホシ親トハ、俗
ニ云フ親分ノ一、
元服ノ時親分ト爲
テ、烏帽子ヲ冠ラ
シムルガ故ナリ、
不啣_レトハ、類香
葉ニ云、杭州ノ
人、以_レ秀爲_レ啣、
又俗呼小鉢ニ云、
既_レ人之不_レ慧、曰
不啣_レト、所_レ謂
反切語ナリ、故ニ
不秀_レ不啣_レト云
フ、猶_レ然深倒ノ
反切_レ太老ト云フ
類ノ如シ、

聖無イトハ云ハレマイ、○不識、イヤ識人デハゴザラヌトナリ、廓然無聖ト全ク一般デ
ヤ、畢竟、達磨不_レ識_レ武帝、武帝不_レ識_レ武帝、相逢テ不_レ相知、釋迦大日モ識不得デヤ、此_レ
吾宗ノ面目ナリ、○還識此一、此_レ甚人ゾト捫テ看ヨ、先ヅハ志公武帝ヲ採合セテ、此
人ト近付キニ成ルベキ處ヲ示シタ、諸人ヨソ事デハ無イ、禪僧分上ハ、別而此人ト近付
キニナラチバ契ハヌコトゾヨ、○此是觀一、志公初テエボシ親ト成テ、名付_レ出シタガ、
乍_レ去佛心印ガ傳ヘラル、者カ、但シ得ラレザル者カ、人人鼻孔ヲ摸索而看ヨ、○闔國人
一、底意ハ、人人自己ノ活達磨、去ル者カ、歸ル者カ、元來周徧法界ニ而、往來ノ沙
汰ハ無イトナリ、▲着語▲不啣_レト、約切ニ、秀ノ字ニ反ルナリ、言ハ、不秀鈍漢デ
ヤ、元來可_レ問_レ無イニ、何ヲ問フゾ、不利發ナワラウ、假令ヒ何ヲ問ヒタリトモ、秀タ
コトハ有ルマイ、▲是甚一、武帝早ヤ第一義ト云フ教家ノ窠窟ニ落込タ程ニ、身拔キ
ハ成ルマイ、▲將謂一、南天竺ヨリ遙々ノ處ヲオヂヤツタ程ニ、何ゾ珍ラシイ奇異ノ
答話モ有郎ゾト思タニ、サホドノコトモ無イハト、▲箭過一、廓然ノ箭先キ、落處ハ
知レヌ、乍_レ去人人此ノ落處ヲ見付チバ成ラヌゾヨ、▲可煞一、廓然無聖、ヨソ事デハ
無イ、人人脚踏下ニ在ル大光明、ソレ見エタコトデヤガノト、如是模樣ニ着語而學人ヲ

ワラウトハ、和耶
ナリ、
掛ラストハ、朽繩、
懸ケルニモ堪ヘザ
ル意歟、

カンマイナトハ、
構ヘテト云フ能
ナリ

起發スル、圓情親切ノ爲人デヤ、▲滿面ト、武帝言句上ニ取付テ理屈バルハ、イカイ
ハチカキゾ、慚愧至極デヤ、▲強慍ト、夫レデモ無利ニ利コウブルハ、掛ラヌ底デヤ、
▲果然ト、武帝テツキリ廓然無罣ノ當躰ニハ、探リエ當ラヌ、▲咄、ア、マツト、コ
バミフセグ心、▲再來ト、最前廓然ノ答話サヘ、一文ニモ成ラヌニ、又不識ト云ハル
、ガ、イカイムダゴド、誰レデモ直打而買ヒ探ル底ガ有ルマイ、價ガ付クマイニ、▲可
惜ト、爰デ好イ悟リ處デ有タニ、惜イコトデヤ、乍去▲却較ト、不契故ニ、達磨ノ
瞞ヲ不受テットハ好イ、ナゼカ、元來迷悟無ク、凡聖不二ユエ、契タ坏ト云ヘバ、虛妄
ヨ、所得ノ妄想デ、役ニ立タヌゾ、▲這野ト、至魏ハ、バケ物デヤ、諸人必ズ後ニ付タ
ラバ、狐窟ニ引キ込マレ羊ゾヨ、度程ニ涉ラバ、妄想デ役ニ立タヌゾ、舊狐デヤ、▲不
免ト、無首尾ダラダラデ至魏ハ、一場ノハチカキゴド、▲從西ト、達磨流落之有様
オチブレタ底、イヤ掛ラヌ始末デヤ、▲貧兒ト、過テ久イ借錢ガ、武帝氣ノ毒走テ、何
程思テモ、ウマリハセマイゾヨ、貧兒トハ、心外ニ求レ法、坐禪觀法、看經修行様様ニ馳
求而、自家ノ珍財ヲ使ヒ不得者ノコ、▲傍人ト、志公ニ掛テ看ルハ非ナリ、爰二人ニ
尋テ聞カル、者カ、人人自分ノ眼デ見テバ役ニ立タヌコ、諸人カンマイテ、走心得テ

居ロヨトナリ、少シ點ヲ替テ可シ看、▲和志公ト、識ノ不識ノト云フ間ノコデ無イニ、
兎ヤ角、ヤカマシイ程ニ、達磨ト共ニ趕出シタラバ、城中無事デ好カ郎トナリ、▲好與
三ト、兎角四ノ五ノヤカマシイ、三十棒與ヘテ、打殺而除キタラバ、脚跟下本分ノ活
祖出現テ有郎ニ、殘リ多イ、▲却是武ト、不識ノ當躰、其儘西來意、達磨ノ公案デヤ
ハ、▲胡亂ト、ドコノ馬ノ骨ヤラ、狗ノ骨ヤラ知レヌモノヲ、亂リナ指圖注脚デヤ
ノ、▲臂膊ト、元來諸佛ノ法印、人ヨリ得ル者ニ非ズ、佛心ニ傳フベキコトハ有ルマイ
ガノ、▲果然ト、扱コソ武帝、把リ止ムルコトガ成ラヌハ、走有郎ト思タ、▲向道ト
ト、夫レ言ハヌコカ、不利發ナワラウト、直ニ上ヲ受來タ、▲東家ト、志公武帝、目
クラノ共泣キ、▲也好ト、三人共ニ、國ヲ追ヒコクツテ、クレタイ者デヤトナリ、▲
志公ト、先キニモ三十棒與ヘタガ、亦三十棒打テモ足ラヌ、ナゼカ、不知ト、人々
脚跟下、大光明ヲ放テ、活祖在ルコトヲ不知、往クノ還ルノト云フタハケデヤトナリ、

達磨遙觀此土有_ニ大乘_ノ根器_ヲ遂_ニ泛_シ海_ニ得_テ來_ル單傳_ノ心印_ヲ開_シ示_ス迷
塗_ヲ不_レ立_テ文字_ヲ直_ニ指_シ人心_ヲ見_テ性_ヲ成佛_ノ若_シ恁_ニ麼_ノ見_テ得_テ便_ニ有_テ自由_ノ分_ニ不_レ隨_フ

婁約法師ハ梁ノ惡約、字ハ德業、姓ハ婁氏、
傅大士、姓ハ傅氏、名ハ翁、法號善慧、
昭明太子、名ハ統、字ハ德施、高祖ノ長子ナリ、
五祖、法演禪師、白雲守端ノ法嗣、即チ圓悟ノ師ナリ、故ニ先師ト云フ、

一切語言轉脫體現成便能於後頭與武帝對譚并二祖安心處自然見得無計較情塵一刀截斷洒洒落落何必更分是非辨得辨失雖然恁麼能有幾人武帝嘗披袈裟自講放光般若經感得天花亂墜地變黃金辨道奉佛誥詔天下起寺度僧依教修行人謂之佛心天子達磨初見武帝帝問朕起寺度僧有何功德磨云無功德早是惡水蒸頭澆若透得這箇無功德話許爾親見達磨且道起寺度僧爲什麼都無功德此意在什麼處帝與婁約法師傅大士昭明太子持論真俗二諦據教中說真諦以明非有俗諦以明非無真俗不二即是聖諦第一義此是教家極妙窮玄處帝便拈此極則處問達磨如何是聖諦第一義磨云廓然無聖天下衲僧跳不出達磨與他一刀截斷如今人多少錯會却去弄精魂墜眼睛云廓然無聖且喜沒交涉五祖先師嘗說只這廓然無

古人トハ永嘉ノ真覺大師ト云フ、

端和尚トハ白雲守端、志公トハ寶誌禪師ナリ、金陵ノ人、姓ハ朱氏、少ニシテ出家、道林寺ニ止テ、禪定ヲ修習セシトナン、

聖若人透得歸家穩坐一等是打葛藤不妨與他打破漆桶達磨就中奇特所以道參得一句透千句萬句一時透自然坐得斷把得定古人道粉骨碎身未足酬一句了然超百億達磨劈頭與他一撥多少漏逗了也帝不省却以人我見故再問對朕者誰達磨慈悲忒煞又向道不識直得武帝眼目定動不知落處是何言說到這裏有事無事拈來即不堪端和尚有頌云一箭尋常落一鵬更加一箭已相饒直歸少室峰前坐梁主休言更去招復云誰欲招帝不契遂潛出國這老漢只得懺懺渡江至魏時魏孝明帝當位乃北人種族姓拓跋氏後來方名中國達磨至彼亦不出見直過少林面壁九年接得二祖彼方號爲壁觀婆羅門梁武帝後問志公公云陛下還識此人否帝曰不識且道與達磨道底是同是別似則也似是則不是人多錯會道前來達磨是答他禪後來武

等ハ、待ナリ、
天鑑普通、共ニ梁
武ノ年號、
端の下ハ、支那常
用ノ俗語、宗門ニ
テ用ル時ハ、亦
專門ノ語ト爲リ
テ、物ノ正當正面
ナリト顯ハス義ナ
リ、端ハ正、的ハ
的、又明ナリ、故
ニ俗之ヲマツボシ
ト云フ、

帝是對他志公乃相識之識、且得沒交涉當時志公怎麼問、且道
作麼生祇對、何不一棒打殺免見、擦糊武帝却供他、欺道不識志
公見機而作、便云、此是觀音大士傳佛心印、帝悔遂遣使去取、好
不啣啗、當時等他道、此是觀音大士傳佛心印、亦好、攬他出國、猶
較些子、人傳志公天鑒十三年化去、達磨普通元年方來自、隔七
年、何故却道同時相見、此必是謬傳、據傳中所載、如今不論這事、
只要知他大綱、且道達磨是觀音、志公是觀音、阿那箇是端的底、
觀音既是觀音、爲什麼却有兩箇、何止兩箇、成群作隊、時後魏光
統律師、菩提流支三藏、與師論議、師斥相指心、而偏局之量、自不
堪任、競起害心、敷加毒藥、至第六度化緣已畢、傳法得人、遂不復
救、端居而逝、葬於熊耳山、定林寺、後魏宋雲奉使於葱嶺、遇師、手
携隻履而往、武帝追憶、自撰碑文云、嗟夫、見之不見、逢之不逢、遇

之不遇、今之古之、怨之恨之、復讚云、心有也、曠劫而滯、凡夫心無
也、刹那而登妙覺、且道達磨即今在什麼處、蹉過也不知、

得得ハ德德ト通ズ、満足ノ見ナリ、爰デハ、遙ニ西天ヨリ得々ト、モツタイラシク、オ
ヂヤツタト云意ナリ、▲單傳一、印ハ決定ノ義、眼橫鼻直、只知ツタ事ヲ知ラシムル、
心印ヲ開示シ、師資相續傳受セシト思ハル、ナリ、其ノ心印ハ、ドウゾト云ニ、▲不立
一、吾宗ハ、既ニ佛心ヲ以テ宗トスル故ニ、佛心宗ト名ク、衲僧分上ハ、爰第一可三行
細ニ處ナリ、不立文字ト云ツテ、文字ヲ嫌フニハ非ズ、文字ヲリテ捨テ、一切森羅萬像、
山河大地ヲ不捨ニ非ズ、文字ハ用キントモ、文字上不可得ナリ、森羅萬像モ亦然リ、畢
竟無可取、亦無可捨、人々自己ノ佛心如何ト返照而看ヨ、元來一字一畫ヲ不引、八字
ヘツボット不付、何デモ無可取捨、到這裏、一代藏經ニモ詮注シ及バヌ、即チ吾宗ノ面
目、不立文字、教外別傳トハ、眼ハ横、鼻ハ直、釋迦ニモ貫ハズ、達磨ニモ傳ヘズ、人人
箇箇圓成底デヤ、如シ是本來無物ノ理ヲ合點スルヲ、見性成佛トハ云フ、故ニ成佛ト云フ
モ、強テ云フク者、別ニ何ニ成郎ゾ、元來舊時ノ人、何デモ替ルコトハ無イ、▲脫躰一、

一切萬法下自己ト一摸ニ脱出而、微塵モ差ハヌ、自然ニ妙會スルナリ、然ル則ンバ、▲
 後頭一、見得徹而障リ無キ一ハ、一刀ニ截^レ物、キビ好イ如ク、洒々サツバリトシタ境
 界ヲ得羊ゾト、其時無得無失、無是非、只在リノ其儘ナリ、▲能有幾人一、サハサ
 ナレドモ、即今此境界ヲ得ル底ノ人、圓悟坐下ニモ幾許カ有ル、人人自己ヲ返照セヨ、▲
 天花一、此事諸典ニ不見、圓悟口ビヤウシニ乗セテ云々者カ、▲誥詔一、誥ハ告ナリ、
 觸レ告ル義、或ハ下ヨリ上ニ告ルヲ誥ト云ヒ、上ヨリ下ニ告ルヲ詔ト云フ説アリ、
 ▲佛心天子ハ、武帝願文中ニ、起^ス菩提心、此佛心ト云フト、自ラ云ハレタ、依^テ去時人喚^フ
 佛心天子一カ、▲早是惡水一、無功德ノ惡水、チツベンカラ注ギ掛ケラレタナリ、功
 徳トハ、惡ノ盡ルヲ功ト云ヒ、善ノ滿ルヲ徳ト云フ、因果相通而功德ト云フナリ、▲許
 備一、宗旨一切無功德ト、眼ヲ開タトキ、始メテ達磨ト近付キニ成ルトナリ、▲此意一
 一、人人此尊意何ノ處ニカ有ル、衲僧家第一ニ可^レ知處ナリ、▲傳大士ト昭明太子ト、眞
 俗ノ義ヲ論ズルコハアレドモ、武帝ト共ニ論ズルコハ未^レ見處ナリ、▲極妙一、理盡キ
 言極タ、教乘極則、無漏ノ處ナリ、▲天下衲僧一、跳出底モ有ルカノ、但シ此ノ廓然
 無聖ノ處ハ出マイトナリ、▲只清廓一、達磨武帝ノ廓然無聖ト不可^レ見、自己ノ廓然無

聖ナリ、人人自己ノ一句ヲ透得、而始テ罷參底ノ衲僧ナリ、▲一等一、千萬佛祖、等
 ク是レ一千七百則ノ葛藤、皆學人ノ屈執ヲ破スル爲ノ手段ナリ、其中ニモ、廓然無聖最
 勝レタトナリ、▲參得一句一、句ヲスマスニ非ズ、人人自己ニ歸而、不立文字ノ心性
 ニ契當シタトキ、一切萬法ニ通達スルナリ、▲一句了然一、衲僧自家ノ眼ヲ開ク端的、
 百萬劫ヲノツ越エテ、今時ニ不落ナリ、▲劈頭ハ、間不容髮、嚴ク責掛タ按排、▲漏
 逗一、逗ハ透ナリ、モラシ透ス意ナリ、▲對朕一、人々對スル者ハ誰デ有郎ノ、▲忒
 煞ハ、勻切太字ニ反ルナリ、▲有事無一、有事無事共ニ當ラヌトナリ、▲一箭一、廓
 然無聖ノ箭先キデハ、尋常鷲、クマダカヲ射テ落ス、然トモ武帝不^レ契故ニ、更ニ亦相饒
 スト、ユルガセニ不識ノ一箭迄射發テ見タ、然ドモ埒ガ明カヌ故ニ、少林ニ至リ九年面
 壁ストナリ、▲誰欲招一、人人誰ヲカ招カント欲スト也、亦ハ即今誰ゾ、欲^レ招底ハ無
 イガ、▲中國ハ、四方萬國ノ朝スル處ヲ云ナリ、▲一棒打殺一、志公ヲ打殺而除ケタ
 ラバ、馬鹿ニサル、コヲ免レントナリ、擦糊ハ、塗ナリ糊ナリ、ヌリテンボウ、馬鹿ニ
 サル、ヨナリ、▲供他款一、自分ト白狀申上ゲテ云羊ニハト、▲見機一、未發ノ先キ
 ニ、早ヤ武帝不^レ契ト見得スルガ故ニ、其儘引替テ、ヨイ加減ニ名付出ストナリ、▲好

桂師因有僧請益
曰、草木成佛那時
劫、仔細示、師僅
起勸擊曰、甲猶歲
乙壽日、僧便禮拜、

不啻一、ヨイ馬鹿者ト云フ心、抑下ノ語ナリ、△天監一、已下解釋多端ナリ、然下モ強
テ年數前後ヲ穿議セズトモ、ノコナリ、△阻七年一、人人幾年幾月ヲカ阻ツ、自己ノ
眼ヲ開テ看ヨ、知レ羊トナリ、△傳中一、此書ニハ此事ヲ不レ論也、惣而公案ハ、無イモ
ノヲ拈出、而學人ヲ起發シ、人人自家屋裡ノ大綱ヲ知ラシメンコトヲ要スルナリ、故ニ達磨
ト云ヘバ、自家ノ達磨ナリ、何ト云フテモ、自己ノ物柄ト可レ看、老僧多年、此年號前後
異說繁多ナルコトヲ嘆息、而種々盡心、末後ニ至テ漸ク此ノ正說ヲ考得セリ、諸人仔細ニ
聽得スベシ、眼橫鼻直ノ元年、眉毛八月、丙猫ノ日ニ達磨西來スト可レ看、△斥相一、法
相ヲ罵リ付ケテ、佛心宗佛心印ヲ指スナリ、△魏宋雲一、開塔見之、年月前後、衆
モ異說繁多ナリ、未レ考、畢竟此レ達磨、往還無ク生滅無シ、於葱嶺見タト云ハ、宋雲
ガ目星チヤ、△見之、相見シタト云フモ、真ノ達磨ヲ見ストナリ、下同、△心有、
昔日朕ガ有心ナル故ニ、真ノ達磨ニ不レ相見、若其時心機無クシバ、直ニ妙覺果滿、真箇
ノ達磨ト同一跡テ有ル者ヲ、残り多イトナリ、△且道一、達磨ハ少林テ死ナレタ者カ、
又西天ニ歸ラレタ者カ、諸人即今何レノ處、△磨ハオヂヤルゾ、云フテ看ヨ、△差過一
一、人人脚下ニ有ルヲ知ラヌカト、諸人ニ氣ヲ付ケタ、

○聖諦廓然

箭過新羅

何當辨的

過也○有

對朕

者誰

再來不直半文錢

還云不識

三箇四箇

因茲

暗渡江

穿人鼻孔不得

豈免生荆

棘

脚跟下已

闔國人追不再來

兩重公案

○大丈夫

千古萬古空相憶

換手搥胸

休相

憶

道什麼

清風匝地有何極

果然○大小

師顧視左右云

這裏還有祖師麼

爾待

番款、番翻同韻、
故今通用セシ者
歟、
場薩阿勞、服天曰
タ、場薩ハ他體ニ
同シ、唐音相通ス、

三個四個、一本ニ
三人四人ニ作ル、

山谷集ニ出ツト、
備音階、乱ナリ、怪
音區、不愜貌、又
曰ク、勞ハ勞擾ナ
リ、事多ク且ツ喧
シキヲ云フ、阿ハ
發語ノ助聲、故ニ
雪竇又自ラ有リ杯
ト、徒ラニ事ヤカ
マシト抑ヘタルナ
リ、又方語ニ、殿
人不レ少トモ云ヘ
バ、蓋シ重々叮嚀、
太勞生トノ義ニハ
非ザルベシ、然レ
ドモ雪竇ノ此語、
皆爲人ノ權方便ニ
外ナラザレバ、圓
悟、評ニ於テ不妨
爲人赤心片片ト云
フハ、固ヨリ然ル
ベキナリ、

那〇猶作^ス 自云有^{ミツカラ}。場薩^{イハク} 喚來與老僧洗脚^{ヨビキキセニソウガ} 更^{コト}
這去就^{コト} 阿勞^{アヲ}

三十棒^ツ起出也^{ヒスル} 未爲二分^ニ
〇作^ス這去就^{コト}猶較^シ些子^ニ

聖諦——、先ツ雪竇問頭ノ端ト、答語ノ端トヲ撮テ、全ク公案ヲ拈起シ了テ擲メ擲ク、此
レ拈古ノ格ナリ、評ニ云フ一拈是ナリ、〇何當——、此ノ聖諦廓然ノ的意、人人各自ニ
辨得セテバ成ラヌコトヤガ、諸人何ント辨得シ羊ト、坐下ニ擲シ掛タルナリ、此レ評ニ
云フ一獲ノ處〇對朕——、重テ公案ヲ撮上テ明スナリ、此レ評ニ云フ一撮ノ處、〇還去
——、イヤガ上ニモイヤ事ヲ、重テ還云不識ト、此レ評ニ云フ一眨ノ處、此ノ四句ニ公
案ノ大意ヲ頌シ盡スナリ、還云ノ二字、雪竇ノ眼目デヤ、達磨、彼ガ不^レ會而再^レ問ヒ來
ヲ見テ、不^レ得止^レコウ云ツタラバ、合點スルコトモ有郎カト、大悲ノ餘リ、盡^レ情而云處
フ、雪竇好徹見スル故ニ、還云ノ二字ヲ付タルナリ、如是重々叮嚀ニ説示スト雖ドモ帝
不^レ契故ニ、〇因茲——、暗ノ字、至テ妙ナリ、昔日武帝、廓然ノ的意ヲ不^レ知故ニ暗ニ
至魏ト云ノミニ非ズ、今日然リ、諸人サゾカウゾト一念起ルトキ、早ヤ是暗至^レ魏、千

トツテモトハ、ト
ンテモ無イトノ
意、

里萬里、達磨ノ落處ハ知レヌコゾヨ、〇豈免——、何ニモセウ、渡^レ江去テヨリ、廓然無
聖不識ノ言句ガ、情塵意識ヲ以テト度スル、叢林ノ荆棘ト成ツタ程ニ、不^レ免^レナリ、〇
闔國——、爰デハ、オヘドモト訓ズ、オフトモト云フトキンバ、少ク異ナリ、參學ノ衲僧、
西來ノ的意ヲ追ヒ求メテモ、増増此ノ達磨ハ再來セズ、千古萬古、只空ク思ヒ恨ルノミデ
ヤガ、雪竇諸人ニ異見スル程ニ、〇休相——、カンマイテ思ヒ恨ムルナ、人人脚下ノ事
作^レ麼生、〇清風——、千古萬古、西來已前モ、西來已後モ、全ク異變ハ無イ、只其儘ノ
風光、佛法祖法ノ暖氣一點モ無イ、清風颯々トシテ、何ント快イコトデハ無イガト云フハ、
又學人平常底ノ事、外ハ無イ杯ト、碍滯センコトヲ恐レテ、〇師願——、諸人何ント見付
ヌカト、爰誰モ唱和ノ者ガ無イ、故ニ自云——、ナル程ゴザル、喚來——、問訊燒香トモ
出走ナ處、トツテモ無イ云ヒ分デヤハ、達磨雪竇ノ足ヲ洗タ者カ、但シ雪竇達磨ノ足
ヲ洗タ者カ、兎角人人自己ノ正眼ヲ豁開而看ラキバ、爰知レヌ處デヤ、此レ雪竇禪河ノ
活波瀾、宗旨向上轉關ノ眼ナリ、〇師願——、師ノ字ハ、門弟編者ノ載スル處ナリ、
▲着語▲箭過——、聖諦廓然ノ落處、スツキト知レヌ、▲喚、圓悟ヲカシイ、何ガ可笑イ
ノ、落處ノ知レヌガ可笑イ、諸人ハ何ント此ノ落處ヲ知タカ、▲過——、雪竇知タフリニ

云ヒヤルガ、差過了ナリ、聖諦廓然ノ的意ハ、辨不得デオチヤ郎、▲有什麼一、人人
眼目ヲ開テ看ヨ、何ノ辨シ難キヲカ之レ有ラン、諸人オチルナ、▲再來一、武帝最前
ノ一問一答、一文ニモ成ラヌト云テ、雪竇亦舉着セラル、ガ、キナガニモ成ルマイトナ
リ、ウハハ武帝ニ掛ル、▲又恁麼一、武帝恁麼ニシ去テ不會チヤガ、即今坐下ノ諸
人モ亦恁麼ニシ去ルヤ、武帝ト同參、不便ナヲチヤ、▲三人一、達磨武帝雪竇、等ク
射當テタ、不識ノ箭先キ、一箭ニ穿却シタ、乍去、咄、エ、早ヤムダ箭ニ成タ、ナゼカ、
箭先キが見エタ程ニ、▲穿人鼻一、武帝ノ鼻孔ヲ穿ヲ不得、却テ雪竇ノ點檢ヲ不
トナリ、亦鼻ヲ穿ツトハ、物ヲ使フナリ、今日達磨却テ人ニ使ハレテ往還シタハ、蒼
天蒼天悲イヲチヤ、▲好不一、達磨今一足踏ミ止テ有郎ナラバ、武帝ト近カ付ニモ成
郎モノヲ、武帝ガ叶フヲモ有ランニトナリ、▲脚跟一、雪竇云ハル、通り、達磨掛ラヌ
底チヤト當テ、イヤ昔日斗リデハ無イ、今日ノ者ドモモ、ズツベリ脚一ト、坐下ヲ罵リ
付ケテ、學入ヲ起發スルナリ、▲兩重一、志公雪竇二度目ノ制札チヤ、諸人ヨメタカ、
▲用追一、人人自己ヲ返照セヨ、外ニ追ヒ求メテノ用處ハ無カ郎、▲在什一、即今達磨
ハドコヘ往キヤツタノ、有リ家ヲチツト知リタイ者チヤ、夫レ諸人目ヲ撞クナヨ、▲大

アコガレトハ、佛
ノ意フ意、

ホリケハ、堀池ナ
リ、
イカイトハ、殿ナ
リ、俗ニ云フ、マ
イサウノ義、

丈一、追ヒ求メテ達磨ヲ伴ハント思フ走ナガ、獨立ノナラヌハ氣ノ薄ナリ、氣モ無ク
勇モ無イカバチチヤ、▲換手一、過ギテ久イ達磨ヲ、天ニアコガレ、地ニ伏シテ尋覓
スルガ、夫レデ好イヲカノ、▲道什一、雪竇休ニ相憶ト云ハル、ガ、諸人耳ヲカタク
ケテ好ク聞キヤレ、▲向鬼一、雪竇モ餓鬼中間ノ振舞講デ、クフ飯ハナサ走ナ、勝
手ノ程ガ思ヒヤラレタ、大方空腹デ居リナガラ、飽イタフリスルデ有郎、圓悟合點ガイ
カスト云テ、空腹高心ノ見解ヲ戒ムルナリ、▲果然、サテコソ現成ノホリケニ落込シタ
ハ、▲大小一、大デモ有レ、小デモ有レ、雪竇イカイ落草チヤ、夫レガロクナコトカ
ト、▲偈待一、雪竇翻轉而、白狀ヲ仕ナホサント思テ走云ヒヤルカ、▲猶作一、何ニ
様奇異ナ立居振舞ヒ、珍シ走ニ云ヒヤルガ、サホドノコトモ有ルマイトナリ、▲塌隣一
、方語ニ、謾人不少、雪竇有ル杯ト、イカイウソ搥キチヤ、或ハ亦重々叮嚀ナオバ
、養ヒチヤトナリ、▲更與一、洗脚ト云フモ好イガ手ヌルイ、圓悟ナラバ、三十棒打
コカシテ除ケ羊ニ、▲此作一、コウシタ働キヲ作シタラバ、チツトハ好カ郎モノヲト
ナリ

且、據雪竇頌此公案一似善舞太阿劍相似向虛空中盤礴自然

除ハ曉諭、サトル
ナリ、

不犯鋒鏃，若是無這般手段，纔拈着，便見傷鋒犯手。若是具眼者，看他一拈一撥，一褒一貶，只用四句，措定一則公案，太凡頌古，只是繞路說禪，拈古大綱，據款結案而已。雪竇與他一撥劈頭，便道：「聖諦廓然，何當辨的？」雪竇於他初句下着這一句，不妨奇特。且道：「畢竟作麼生辨的？」直饒鐵眼銅睛，也摸索不着。到這裏，以情識下度得麼？所以雲門道：「如擊石火，似閃電光。」這箇些子，不落心機，意識情想，等爾開口，堪作什麼計較？生時，鷓鴣子過新羅，雪竇道：「爾天下衲僧，何當辨的？」對脫者，誰着箇還云：「不識。」此是雪竇忒煞老婆重々爲人處。且道：「廓然與不識，是一般，是兩般？」若是了底人，分上不言而諭，若是未了底人，決定打作兩橛。諸方尋常皆道：「雪竇重拈一徧，殊不知四句頌盡公案了，後爲慈悲之故，頌出事跡，因茲暗渡江，豈免生荆棘？」達磨本來茲土，與人解粘去縛，抽釘拔楔，剗

開楔子、服天曰ク、
踏妙ニ貫ノ木ノ一
ナリト云フハ、誤
ナリ、通雅ニ云、開
楔ハ機根也ト、故
ニカウクリノハセ
ナリト、蓋シハセ
トハ、バチノ事歟、

除荆棘，因何却道生荆棘，非止當時諸人，即今脚跟下已深數丈，闔國人追不再來，千古萬古空相憶，可煞不丈夫。且道：「達磨在什麼處？」若見達磨，便見雪竇。未後爲人處，雪竇恐怕人逐情見，所以撥轉關，楔子出自己見解云：「休相憶，清風匝地有何極？既休相憶，爾脚跟下事，又作麼生？」雪竇道：「即今箇裏匝地，清風天上天下，有何所極？」雪竇拈千古萬古之事，拋向面前，非止雪竇當時有何極，爾諸人分上，亦有何極？他又怕人執在這裏，再着方便，高聲云：「這裏還有祖師麼？」自云：「有雪竇到這裏，不妨爲人赤心片片。」又自云：「喚來與老僧洗脚，太煞滅人威光。」當時也好與本分手脚。且道：「雪竇意在什麼處？」到這裏，喚作驢，則是喚作馬，則是喚作祖師，則是如何名邈，往往喚作雪竇，使祖師去也。且喜沒交涉，且道：「畢竟作麼生？」只許老胡知，不許老胡會。

盤礴ハ恬靜ノ兒、モノシツカニ、少シモ掛ケ碍リ無ク、オチ恐ル、一無ク、劔ヲ舞ハス
ヲ云、▲傷鋒一、ヘタノ兵法、大キズノ元ナリ、▲一拈一、頌中詳ニ此事ヲ斷ワル
ナリ、▲指定、措ハ法ナリ、木邊ニ而可也、▲一則ハ、一章ナリ、▲拈古一、釋迦デ
モ、達磨デモ、不許正是非、其罪ヲ罰而云フ、拈古ノ格ナリ、▲與他一、何當辨的
ノ句ナリ、▲畢竟一、圓悟學人ノ機發ヲ見ル處、▲這箇一、這箇利那ノ中ト云意、▲
此是雪一、老婆トハ、達磨武帝不契ヲ知タユエ、忍俊不禁ニ而還テ不識ト云、雪竇
今日亦不得止、再ビ拈起而爰ニ頌出シタ、此レ雪竇ノ大極悲心、重重爲人ノ處、且ツ
達磨ノ本意徹底ノ故ニ、如是ト頌ニ此ヲ具サニス、▲恐怖一、逐情見、外相ノ達磨ヲ
戀ヒ求テ、人人自己ノ活祖ヲ捉リ放サンコヲ恐レテ、直ニ轉關スルナリ、▲又怕一、綠
リ紅キ、清風明月ト、平常無事功裏ニ隨着センコヲ怕レテ、▲赤心、片片ハ段段也、段
段次第ニ學人ヲ起發スル慈悲心廣大也、▲當時一、雪竇問ヌルイ、圓悟ナラバ、一棒
アビセテクレ羊ニト、▲且道一、圓悟坐下ニ拶シテ機發ヲ見ル處、▲喚作一、禪語ノ妙
裁、驢胎馬腹、一偏ノ活祖トナリ、▲老胡一、三世諸佛不知有、狸奴白牯却知有、
畢竟不知而知り、知テ亦知ラヌコト、故ニ許知不許會ト云フ義ニ非ズ、知ヲ許シテ不

許知、許會而不許會ト云フ意ナリ、

第二則 趙州至道無難

▲垂示云、乾坤窄、日月星辰一時黑、直饒棒如雨點、喝似雷奔也、
未當得向上宗乘中事、設使三世諸佛、只可自知、歷代祖師、全提
不起、一大藏教、詮注不及、明眼衲僧、自救不了、到這裏作麼生請
益、道箇佛字、拖泥帶水、道箇禪字、滿面慚惶、久參上士、不待言之、
後學初機、直須究取、

乾坤モ容ル、ニ窄ク、日月星辰モ照スニ暗シ、是レ何ノ境界ゾ、此レ宗旨向上至道ノ境
界、カウヂヤ、爰ハ徳山ノ棒臨濟ノ喝モ不及處、三世諸佛歷代ノ祖師モ全提不起、一代
藏教モ詮注シ不及、明眼之衲僧モ開口不得處ヂヤガ、諸人何ント請益シタ者ゾ、佛
ト云フモ、祖師ト云フモ、第二第三、衲僧ノ耻辱ナリ、然ドモ久參ノ上士ナラバ、圓悟

ガ云フヲ不待、將ガ明クガ、後學ノ者ハ、此ハ公案ヲ提擲而好ク看取スルガ好イ程ニ、今舉ス看ヨト、公案ニ結寄シタ、

○舉趙州示衆云。○這老漢作什麼至道無難。○莫打這葛藤非難

唯嫌揀擇。○眼前是什麼纔有語言是揀擇是。○三祖猶在

明白。兩頭三面○少賣弄老僧不在明白裏。魚行水濁鳥飛毛落賊

已露○這老漢是汝還護惜也無。敗也○也有時

有僧問既不在明白裏護惜箇什麼。也好

州云我亦不知。抄殺這老漢僧云和尚

既不知爲什麼却道不在明白裏。看走向什麼處去

州云問事即得禮拜了退。賴有這一着

至道一、道ハ通達ノ義、驢モ通リ馬モ通リ、一切衆生、等ク通テ障リ無キヲ云フ、爰
テ至道ト云フハ、何ノ道デ有郎ノ、人天ハ豎、畜生ハ横、山ハ高く、海ハ廣シ、東西南
北、長安大道、タツタ一筋ニアキ透タ至道、十方薄伽梵、一路涅槃門、全ク異道無キ也、
○纔有言語一、麻三斤乾屎橛ト云フモ、早ヤ是レ揀擇ナリ、揀擇ハ正法ノ邪法ノ、是
ノ非ノ、佛ノ衆生ノ、大乘ノ小乗ノト、分別計較スルヲ云フ、故ニ一筋ノ至道ヲ不知ナ
リ、○老僧一、明白裏ハ悟邊ナリ、趙州老漢ハ、迷悟凡聖ノ間ニ止ラヌガ故ニ、○是
備還一、此レ善知識ノ釣語ナリ、明白裏ニ不在、沒蹤跡ノ處、何ゾ事有リゲニ云ヒ掛ケ
テ、學人ヲ空處ニ釣リ込ムガ爲ニ繞轉ヲ露ハス、宗師家ノ空處弄處ト云フ者デヤ、○問
事一、ヲ、個問フコトハ即チ得タリ、退キ休ミヤレ、這裏天下ノ衲僧モ無ニ奈何ナセナ
レバ、趙州ニ計較無キガ故ニ、▲看語▲這老漢一、莫瞞人、何ソノ示スコトガ有郎ゾ、

小賣弄、服天曰ク、口先ニカケテ自慢スルヲ云フ、大惠普說ニ云、如今乍入衆底、趕得些兒小子、便去、誇逞賢弄、要與人爭、又云、道信急於人知、却歸去泉州、與人說文字、賣弄口實、道、我已登得妙喜禪了、但シロノミニ限ラズ、容色ヲ飾ルヲモ亦賣弄ト云フト、

趙州、從隱禪師、南泉ノ嫡嗣、一本、洞然明白ノ下、纒有等ノ十字ナシ、

似過トハ、示シ與フトノ意、

▲莫打一、學人手脚ノ邪魔ニ成ル葛藤バシ、說キメサルナ、却テ諸人ノ足ガセテオヂヤ郎、▲非難一、即今難易ハ無イ、諸人何ント致シタラウゾ、▲眼前一、人人自明テ見ヤレ、取ルコト無イガ、捨ルコトモ無イゾ、▲三祖一、今日三祖ガ出テ、說カル、ヨ、諸人はレ何人ゾ、三祖外ニハ無イトナリ、人人自己ノ三祖、自己ノ至道ヲ示スナリ、趙州即三祖ト見ル、宗旨ノ眼目ナリ、▲兩頭一、趙州太郎冠者ノ獨リ狂言、タハゴト撞キヤルナ、アチヲ云ヒコチヲ云ウテ、自分ト誇ル小賣弄ヂヤ、▲魚行一、早ヤ至道ノ蹤跡ガ露レタト、又坐下ニ掛テ、趙州躍タリハチタリセラル、ガ、諸人動クナヨ、必ズ兩頭ニカマフナトナリ、▲賊身一、趙州ノ賊意、トツクニ圓悟見テ取タトハ云フ、此ハ圓悟ガ眼ヂヤ、諸人ハ何ント趙州ノ有家ヲ見タカ、▲道老一、サア云テ見ヨト、嚴ク坐下ニ責掛タ、▲敗也、敗缺不少、何ガ敗缺ゾ、其ノ空處ガ敗缺ヂヤ、圓悟ヲキカラ見惡イトナリ、▲一箇一、即今圓悟坐下、護惜底ガ一人モ有ルカノ、▲也好一、此僧好クハ抄シタ、▲舌柱一、趙州モ問ヒ詰メラレテ答話ハ成ルマイ、▲抄殺一、大小ノ趙州モ、理窟ニコマツテ、ノツケニ窮シタ程ニ、倒退一、▲看走一、趙州ドコニゲルカ、諸人看ヨ、逃グヤウ處ハ有ルマイ、▲逐教一、趙州、此僧カラ樹上迄モ逐ヒ上

セラレ羊ゾヨト、▲頼有一、頼ヒニ此手ガ有テ、今迄ノ死石ガ都テ活キ反タ程ニ、天下ノ衲僧奈何トモシ難イ、跳不出ヂヤ、▲這老一、諸人油斷而手前ノ持テ物ヲ探ラル、ナヨ、

趙州和尚尋常舉此話頭、只是唯嫌揀擇、此是三祖信心銘云、至道無難、唯嫌揀擇、但莫憎愛、洞然明白、纒有是非、是揀擇是明白、纒恁麼會、蹉過了也、鉸釘膠粘、堪作何用、州云、是揀擇是明白、如今參禪問道、不在揀擇中、便坐在明白裏、老僧不在明白裏、汝等還護惜也、無汝諸人既不在明白裏、且道趙州在什麼處、爲什麼却教人護惜、五祖先師常說道、垂手來、似過個、個作麼生會、且道作麼生是垂手處、識取鉤頭意、莫認定盤星、這僧出來、也不妨奇特、捉趙州空處、便去揆佗、既不在明白裏、護惜箇什麼、趙州更不行、棒行喝、只道我亦不知、若不是這老漢、被他抄着、往往忘前失

後、賴是這老漢、有轉身自在處、所以如此答他、如今禪和子問着也、道我亦不知、不會爭奈、同途不同轍、這僧有奇特處、方始會問、和尚既不知、爲什麼却道不在明白裏、更好一拶、若是別人、往往分疏不下、趙州是作家、只向他道問事、即得禮拜了、退這僧依舊無奈、這老漢、何只得飲氣吞聲、此是大手宗師、不與爾論、立論妙論、機論境、一向以本分事、接人、所以道相罵、饒爾接、背相唾、饒爾潑水、殊不知這老漢、平生不以棒喝接人、只以平常言語、只是天下人不奈何、蓋爲他平生無許多計較、所以橫拈倒用、逆行順行、得大自在、如今人不理會、得只管道、趙州不答話、不爲人說、殊不知當面蹉過。

總恁一、只信心銘ノ本文ヲリヲスマシ揀擇スルコトサヘ無ケレバ、至道ノ跡ヲヤ杯ト云フハ、役ニ立タヌ、▲鉸釘一、膠付テ餘ノ調絲ニ合ハヌナリ、實ニ徹底セザル故ニ何

モナラヌナリ、▲五祖一、弄空處ニ爲人スル類則ニ舉グ、▲釣頭一、引掛ル端のニ見破セヨトナリ、唐テハ直ニ鈎ニテ物ヲ掛ケ秤ルナリ、▲同途一、往キ羊ガ差ガハウ、句ハ同ジケレドモ、實ニ道跡ハ異ナリ、▲分疏一、大方ノ善知識ハ、ヤリ路ガ有マイガ、サスガ趙州程有テ、好クハ此ノ轉身ノ一路ヲ得ラレタトナリ、▲當面一、諸人脚跟下差過スルモ亦不知、夫レ蹈ミツブスナヨトナリ、亦マノ當リ本分ノ便宜ニ差フトナリ、

至道無難。

三重公案○滿口

言端語端。

魚行水濁○七花八

裂○搽

一有多種。

分開好○只一

二無兩般。

何堪

六七○打葛藤

天際日上月下。

親面相呈○頭上漫々脚

檻前山深水寒。

一死更不再活○

鬪體識盡喜

何立

棺木裏瞠眼○盧行者是佗同參

枯木龍吟銷未乾

咄○枯木再生

花○達磨遊東土

難難

邪法難扶○倒一說○這裏是什麼所在說難說易

揀擇明白

君自看

○將謂由別人○頼値自看○不干山僧事

至道一、三祖趙州ノ至道一、雪竇トツクニ諸ズルニ、言モ端的、語モ端的デヤ、然バ此ノ至道、○一有一、一カトスレバ、人天豎畜生横、柳ハ緑リ花ハ紅キ、十方徧滿デ、一トモ云ハレヌ、扱テハ亦ニカトスレバ、唯一乘法、十方薄伽梵、一路涅槃門、萬法歸一シテ、更ニ一トモ云ハレヌ、兎角世上ノ寸尺ヲハツレタ無數量ノ大道デヤト、此ノ四句、公案ノ大意ヲ頌シ下テ、雪竇餘才有ルガ故ニ、更ニ分開而爲人垂慈、○天際一、此二句、此モ至道彼レモ至道、頭頭是レ道、物物全真デヤ、何ノ障ルコガ有郎ゾ、何ニモ無イハト云テ、諸人丸吞デハ亦到レヌト、○獨體一、當躰死獨體ノ如ク、喜識一點モ無ク、修行功極ニ到テ、枯木一、再活シ來テ始テ到リ得ル向上ノ至道、至極到リ

難イ處デヤ程ニ、○難難、難ウ而難イ、中中容易ニ到ルコナラヌ、ナゼ難イノ、○揀擇一、揀擇は何ゾ、明白は何ゾト、人人捏テ見ヨ、畢竟備諸人ノ脚跟下如何ト穿義而看ヨ、只此ノ至道、別處ニハ有ルマイゾト、▲着語▲三重一、三祖趙州雪竇、早ヤ三人ノ制札デヤ、諸人ヨメタカノ、早ヤヨメルハズデヤガノ、▲滿口一、至道無難トカ、夫レ迄デヤ、口ガコソエテ、其末ハ言ハレマイ、乍去▲道什一、諸人耳引立テ好ク聞キヤレ、▲魚行一、早ヤ蹤跡ガ顯ハレタガ、諸人ハ見タカ、▲七花一、雪竇其ノ云ヒ分デ、一筋ノ至道、七ツニ離レ、八ツニ裂ケテ多ク成タ、諸人必ズ踏迷ナヨ、▲揀胡一、何モセヨ、一筋ノ至道、ヌリ散シテ仕廻タハ、▲分開一、雪竇モツト廣ク云タラバ好カ郎ニ、▲只一般一、只一筋デハ餘リ窮風デヤ、有情非情同時ニ連レ立ツ大道、一般斗リデハ埒ガ明マイ、▲何堪一、無兩般ト云ヒヤルガ、イヤ四五一、十方通達、百萬無量ノ妙義ガ有ルハト、▲打葛一、何ノ用デモ無イ、却テ學人ノ足サマタゲニ成郎ガ笑止ナフヨ、▲觀面一、諸人夫レ觀面至道デヤガ、合點ガイカヌカトナリ、▲頭上一、諸人ケツマツクナ、鼻撞クナ、▲切忌一、上ノ下ノト云ハレテ、頭ヲ擧ゲ頭ヲサグルナ、諸人ヒツシリ動クナ、全クヨソゴドデハ無イ、▲一死一、向上ノ死水、役

ニ立タヌ、無事甲裏ノ死在人ヨ、▲遠覺一、檻前山深水寒シ、ビツクト驚起而ヨミ歸
レバ好イガ、▲棺木一、何ノ氣息モ無イ、向上ノ死漢、活處ノ無イハ氣ノ毒ナリ、▲
盧行一、慧能伎倆無イ如ク、無一物ノ境界ニスリ付タ程ニ、他ノ同參トモ云カ、▲咄、
エ、圓悟ナラバ、走ハ言フマイ、シテ何ント云フノ、▲枯木一、血脉不斷、開花爛熳
ヂヤガ、人人此ノ時節ニ到タカノ、此時始テ活祖出現デ有郎トナリ、▲邪法一、揀擇
明白、四ノ五ノ八百ニ覆ハレテ、甚ダ到リ難イ、故ニ大衆好ク斷除セヨトナリ、▲倒一
一、雪竇最前ハ無難ト云ヒ、今又難難ト云フ、イカイ轉倒ノ一說ヂヤ、物忘レシヤツタ
走ナゾヨ、▲這裏一、雪竇ドウヂヤルゾト當テ、諸人ハ亦何ト合點シタカ、▲晴、
要レ見差過了ナリ、▲將謂一、雪竇他ニヨセ掛ルカト思タガ、尤好イ云ヒ分ヂヤ、諸人必
ズヨソゴトト思フナヨ、頼ヒニ自看ルト云ハレタゾヨ、▲不干一、他ガ役ニ立タヌ、圓
悟ワキカラハ教ヘラレヌ程ニ、人人目明テ看ヨ、他人ノ目借テハ看ラレヌゾヨトナリ、
雪竇知他落處所以如此頌至道無難便隨後道言端語端舉一
隅不以三隅反雪竇道一有各種二無兩般似三隅反一偏且道

才、所以分開結裏
算來、也只是頭上
安頭云云ト頭ム
ヘシ、
分開ハ、天際檻前
圓體枯木ノ四句ヲ
云ヒ、結裏ハ、結
ビ、即チ終ノ二句
ヲ云フト、亦一觀
也、
分開トハ、謂テ字
ノ如シ、結裏トハ、
物ヲ結ビ封ズルヲ
云フ、
一本、安頭ノ二字
ナシ、
頭上トハ、最初ノ
義、
一本、道僧ヨリ已
下九十四字ヲ衍文
トシテ録セズ、

什麼處、是言端語端、處爲什麼、一却、有各種、二却、無兩般、若不具
眼、向什麼處摸索、若透得這兩句、所以古人道、打成一片、依舊見
山、是山、水、是水、長、是長、短、是短、天、是地、是地、有時喚天、作地、有
時、喚地、作天、有時喚山、不是山、喚水、不是水、畢竟怎生得平穩、去
風來、樹動、浪起、船高、春生、夏長、秋收、冬藏、一種平懷、泯然自盡、則
此、四句、頌、頓、絕、了、也、雪竇有餘才、所以分開、結裏、算來、也、只是頭
上、安、頭、道、至、道、無、難、言、端、語、端、一、有、多、種、二、無、兩、般、雖、無、許、多、事、
天際日上、時月便下、檻前山深、時水便寒、到這裏、言也、端語也、端
頭頭是道、物物全真、豈不是心境俱忘、打成一片、處、雪竇頭上、太
孤峻、生、末、後、也、漏、逗、不、少、若、參、得、透、見、得、徹、自、然、如、醒、醐、上、味、相
似、若、是、情、解、未、忘、便、見、七、花、八、裂、決、定、不、能、會、如、此、說、話、觸、體、識
盡、喜、何、立、枯、木、龍、吟、銷、未、乾、只、這、便、是、交、加、處、這、僧、恁、麼、問、趙、州

恁麼答州云。至道無難。唯嫌揀擇。纔有語言。是揀擇。是明白。老僧不在。明白裏。是汝還護惜也。無時有僧便問。既不在。明白裏。又護惜箇什麼。州云。我亦不知。僧云。和尚既不知。爲什麼却道不在。明白裏。州云。問事即得。禮拜了退。此是古人問道底公案。雪竇拽來。一串穿却。用頌。至道無難。唯嫌揀擇。如今人。不會古人意。只管咬言嚼句。有甚了期。若是通方作者。始能辨得這般說話。不見僧問。香嚴如何。是道。嚴云。枯木裏。龍吟。僧云。如何。是道中人。嚴云。鬻髓裏。眼睛。僧後問。石霜如何。是枯木裏。龍吟。霜云。猶帶喜在。如何。是鬻髓裏。眼睛。霜云。猶帶識在。僧又問。曹山如何。是枯木裏。龍吟。山云。血脉不斷。如何。是鬻髓裏。眼睛。山云。乾不盡。什麼人得聞。山云。盡大地。未有一箇不聞。僧云。未審。龍吟。是何章句。山云。不知。是何章句。聞者皆喪。復有頌云。枯木龍吟真見道。鬻髓無識眼初明。喜

什麼人ノ上僧云ノ
二字ヲ脱スト、種
種ニ見ユ

識盡時消息盡。當人那辨濁中清。雪竇可謂大有手腳。一時與爾交加。頌出。然雖如是。都無兩般。雪竇末後有爲人處。更道難難。只這難難也。須透過始得。何故。百丈道。一切語言。山河大地。一一轉歸自己。雪竇凡是一拈一撥。到末後。須歸自己。且道什麼處。是雪竇爲人處。揀擇明白。君自看。既是打葛藤。頌了。因何却道君自看。好彩教爾自看。且道意落在什麼處。莫道諸人理會不得。設使山僧到這裏也。只是理會不得。

一却有——、一トモ二トモ數量ニ不落、非一非異ノ大道、▲打成一片、純一無雜、此話ニ參盡而一念ニ安住シタトキ、這ノ兩句ヲ透得而、見ル上聞ク上、元ト山元ト水、的的至道デ有郎ゾトナリ、▲風來——冬藏トハ、天際其儘ノ至道ナリ、▲一稱——、自己ノ心性ガ穩カニナレバ、自然ト萬法混而、觸目至道、全ク塵邪無キナリ、▲分開——、一則之大意、上ノ四句ニ結算シ了タラ、雪竇慈悲甚シキ故、亦採リヒログテ、再ビ頌シ顯ハスナリ、▲雖無許多——、此四句之外ニ云フベキヲ無ケレドモ、重テ天際——、叮嚀

ノ言説也、▲交加ハ、雪竇古人之答話ヲ互ニ雜ヘ加ヘテ頌セラル、ヲ云、下ニ本據ヲ舉
 グ、▲枯木一、正位ノ活處、▲道中人一、異本ニハ此上ニ學人不會ト有リ、▲獨體一
 一、南無三、此僧脈ガ上タ、一偏ノ大道ニ人ガ有ルモノカト打テ落シタ、爰ニ玄沙代云、
 龍藏ニ古木ニ去、▲帶喜一、石霜ノ家風、語忌ニ十成、故ニイマダ死ニ切ラヌト抑ヘタ、
 ▲聞者皆喪、宗旨向上ノ途毒鼓、此ヲ聞ク則ンバ、一切都テ喪却スルナリ、▲真見道ト
 ハ、教家デ云フ初地住位ノ見道トハ格別也、我ガ門デハ、立地成佛、凡聖其儘デ、即法
 身ト見破スルガ、宗旨之眼也、▲眼初明トハ、命根斷絶而、心外無法、滿目青山、舊時
 ノ人ニ成タトキ、法眼圓明ノ人トス、▲消息一、十方ノ音ヅレ、スツキト無ク、洒洒
 落落也、▲當人一、一法ノ消息無キ、此當躰、清濁混合、宗旨一色、同中異辨ト云處、
 凡聖不二、邪正一如、迷悟混濁ノ處ヲ云ナリ、▲好彩ハ、向上至道ノ風光、著坐披衣、君
 自知ル處、爰ハ三世ノ諸佛モ只自知ノミ、明眼ノ衲僧モ奈トモ云ヒ難イ處デヤ、▲理會不
 一、ソツチハソツチ、コツチハ知ラヌ、只タ人人カウデヤ、

第三則 馬大師不安

▲垂示云、一機一境、一言一句、且圖有箇入處、好肉上剗瘡、成窟、
 成窟、大用現前、不存規則、且圖知有向上事、蓋天蓋地、又摸索不
 着、恁麼也得、不恁麼也得、太廉纖生、恁麼也不得、不恁麼也不得、
 太孤危生、不涉二塗、如何即是、請試舉看、

一機一、師學對談、建立門ナリ、此レ學人入頭ノ處ヲ示サンガ爲ノ用處ナリ、然トモ
 本道ヨリ見レバ、好肉上ニ瘡ヲ剗ル、却テ狸穴ニ引込ムナリ、▲大用一、掃蕩門ナリ、
 向上之事、蓋天蓋地、スキ無キモ、亦摸索不着、餘リ高スギルナリ、▲恁麼也得一、順
 境モ逆境モ不レ餘接スル前ノ建立門ナリ、大廉一、餘リサ、イナリ、▲恁麼也不得一、
 順逆共ニ打拂タ前ノ掃蕩門ナリ、此ハ亦大孤一、餘リ嚴イ、▲不涉一、前來ノ作用ハ、
 都テ二途ニ落ルガ、何ントシタラバ此ノ二途ニ落チマイゾ、今日馬大師之行處ヲ舉スル
 程ニ、能ク看ヨト、公案ニ結寄シタ、

○舉馬大師不安。這漢漏逗不少。○院主問和尚。

近日尊候如何四百病一時發○三日後不大師

云日面佛月面佛可煞新鮮○
養子之緣

不安トハ、身躰不安、病氣ノ時ナリ、○尊候一、候ハ氣候也、御氣色如何ト問タ、○
日面一、長イカ短イカ、是レ何ノ境界ゾ、先ヅハ運啓ガ小刀細工デモ無ク、又弘法
ガナタ作りデモ無イ、榎デ作タ土地藏ト云テ、馬祖屋裡ノ立本尊ヂヤト云テモ合點ガイ
クマイ、趙州ハ此ヲ栢樹子ト云ヒ、雲門ハ此ヲ乾屎橛ト云タ、佛名經ニ曰、日面佛ハ、一
千八百歳ノ在世ナリ、又月面佛ハ、一日一夜ニ而涅槃ニ入ルト云ガ、人人自己ノ日面佛
月面佛ハ、長イ者カ、短イ者カ、諸人何ント心得羊ノ、畢竟人人ノ自己、八字ヘツボツ
ト引カヌ處、眼ヲ付ケヨ、▲着語▲這老一、馬祖不安抔ト云ハル、ガ、イカイ漏逗デ
ヤ、病ミホウケラレタ走ナ、▲帶累一、院主ヲ云テ、イヤ亦圓悟坐下ノ諸人返ヲ引キ
累ヲハシタ、ナゼナレバ不レ會而苦勞スルハ、皆帶累セラレト云者ヂヤ、▲四百一、
馬祖モ維摩ト、同ジ病性走ナ、▲三日一、氣色ヲ問タ、却テ院主脉ガ揚々程ニ、三

ホウケトハ、恍惚
ト、ホウケル貌ヲ
云フ

馬大師、江西ノ馬
祖道一大寂禪師、
南嶽ノ嗣、

巴鼻、巴ハ把ニ同
ジ、トルナリ、言
ハ、トラヘ處ナキ
ノ義、

日トハモウ出マイ、若シ不死バ、好イ仕合ヂヤ、▲仁義一、然ドモ病氣ナラバ、問フ
マイモノデモ無イ、▲可煞一、運啓探啓ガ作デモ無イ、サテモ見事ナ新佛ヂヤト、▲
養子一、馬祖オ婆婆ノモノ言ヒ羊ナトナリ、

馬大師不安、院主問和尚近日尊候如何、大師云、日面佛月面佛、
祖師若不以本分事相見、如何得此道光輝、此箇公案、若知落處、
便獨步丹霄、若不知落處、往往枯木巖前、差路去在、若是本分人、
到這裏、須是有驅耕夫之牛、奪飢人之食、底手脚、方見馬大師爲
人處、如今多有人道、馬大師接院主、且喜沒交涉、如今衆中多錯
會、瞠眼云、在這裏、左眼是日面、右眼是月面、有什麼交涉、驢年未
夢見在、只管蹉過古人事、只如馬大師如此道、意在什麼處、有底
云、點平胃散一盞來、有什麼巴鼻、到這裏作麼生得平穩去、所以
道、向上一路、千聖不傳、學者勞形、如猿捉影、只這日面佛月面佛、

極是難見雪竇到此亦是難頌却為他見得透用盡平生工夫指注他諸人要見雪竇麼看取下文

光輝今日ニ殘ルコトヲ得ントナリ、▲獨歩一、乾坤獨歩ノ衲僧ナリ、雪ニ色ハ無ケレドモ、日ニ依テ丹霄ト云、▲枯木一、多岐ニウロタエントナリ、▲驅耕一、順行逆行、建立掃蕩、佛法邊ノコトヲ都テ轉却而、悟邊離却脫躰、馬祖ト同一躰テ有郎ゾトナリ、▲點平胃一、院主ニ藥リ以テコイト云フ義ヂヤ杯ト邪解スル、▲有什麼巴鼻トハ、證據モ無イト云フ義ナリ、▲極是難見、桂和尚ノ着語ニ、圓悟圖「這什麼」此レ學人ノ起發ヲ見ル空處ナリ、

日面佛。月面佛。開口見膽。○如兩面。五帝三皇

是何物。大高生。○莫護他。二十年來曾苦辛。自

偏落草。○不干山僧。為君幾下蒼龍窟。何消恁麼心。好

○也莫道。屈。愁殺人。○愁人。堪述。向阿誰說。○說。明眼

衲僧莫輕忽。更須仔細。○咄

日面一、五帝一、圓悟ノ意ハ、五帝一、雪竇自己ノ漆桶ヲ打破而、日面佛月面佛、本見カラ見來レバ、五帝三皇是レ何者ゾ、下賤ノ客ヨト抑スルナリ、此ノ一句ヲ云ヒ得ル一ハ、雪竇只デハ無イ、二十年一、許多ノ辛苦艱難セラレタハ、自己ノ日面佛ヲ明メンガ為メナリ、其ヲ喩ヘテ云ヘバ、驪龍領下ノ玉ヲ盜ムニ相似テ、喪身失命ヲ不願、諸方惡刺ノ宗師家ノ法窟ニ參得シ、ソコバク苦屈セラレタ故ニ、五帝一ト云フ一句ヲ用ヒ得述ルニ堪タ程ニ、必ズ明眼ノ衲僧モ、輕輕シク忽卒ニ思フナ、大切ニ見ヨトナリ、○桂和尚ノ意ハ、日面佛月面佛、五帝カ三皇カ、是レ何者ゾ、諸人何ント云テ好郎ノ、但シ諸人ハ亦何人ゾ、椶テ作タ土地蔵デ、長トモ短トモ、尊トモ卑トモ何ント云テ好郎カ、名目ガ付カヌ、此レ馬祖屋裡、人人自家之立本尊ヂヤ、然レドモ爰ハ、圓悟モ雪竇モ容易ニハ契ハヌ程ニ、○二十一、以下雪竇許多苦辛而、漸ク此ノ道理ニ契ヒタル由ヲ云

テ今時ノ學者進志ノ淺キヲ阿スルナリ、○屈堪一、思ヘバ、扱テモ苦屈辛勞ヲ歷
 タテ哉、如是老僧、二十年苦屈而、有時不覺點頭三下シタガ有タガ、今諸人ノ爲ニ眉
 毛ヲ惜マズ、堪述云テ聞カ走程ニ、人人清耳而聞キヤレト、○明眼一、何ゾ述ル
 モ有ル羊ニ云ヒ掛テ末ヲ云ハヌガ、善知識ノ空處、イヤ亦天桂老僧サキツカタ、此レ何
 フ云タノ、諸人若シ聞キ落サズンバ又何ゾ待ニ別日、▲着語▲開口一、圓悟馬祖之肝魂、ト
 ツクト見テ取タトナリ、亦桂和尚ハ、馬祖ノ肝魂ヲ打アケラレタガ、諸人看タカ、▲如
 兩面一、諸人必ズ影ヲ弄スルナ、元來影像ハ無イゾトナリ、亦馬祖ト雪竇兩鏡ノ如ク、
 全ク阻テ無イトモ看ルナリ、▲太高一、雪竇餘リ鼻ガ高イゾ、又桂和尚ノ時ハ、其々
 人人ガ、大高生、下ニ置ケヌ人ヂヤ、▲莫謾一、圓悟ノ時ハ、五帝三皇ニ掛ル、桂和
 尚ノ時ハ、他ノ諱ニ觸ル、ト莫レ、凡トモ聖トモ衆生トモ、諱ヲ犯スナトナリ、▲可貴
 一、圓悟ノ時ハ、五帝三皇可貴、日面月面可賤ノ意、桂和尚ハ、貴トモ賤トモ云ハレ
 ス、人人ヂヤガ、四郎ト云タ者カ、佛ト云タ者カ、何トモ云ハレマイ、▲自是一、雪
 竇自ラノ所作デハ無イカ、人ノ仕タコデハ無イニ、▲不干一、雪竇御辛勞、圓悟杯
 走モ無カツタガノ、諸人サホドノ大義ナトモ無イゾヨ、▲啞子一、雪竇苦勞シテモ、其

神宗、宋ノ神宗、太
 祖ヨリ第六世ノ孫
 ナリ、

身斗リガ知ルノミヂヤ程ニ、諸人モスイカアマイカ、兎角喫テ看ヤレトナリ、▲何消一
 一、諸人動クナ、直下ニ看ヨトナリ、亦夫ホド苦勞スルニモ及バヌト、雪竇ニ當テ、
 モ看ルナリ、▲莫錯一、然レドモ胡椒ノ丸吞デハ役ニ立タヌ程ニ、ソコヲ合點カ、▲
 也莫道一、雪竇ノ辛勞、奇特無シトバシ云ヒヤルナ、爰ガ大切ノ處ヂヤト、今時懈怠
 ノ禪和ヲ戒ルナリ、▲愁殺一、雪竇御尤ヂヤ、圓悟コタヘラレヌトナリ、下同意、▲
 向阿誰一、雪竇誰ニ向テ説キヤルカ、圓悟コタヘラレヌ、聞クモイヤデオヂヤルトナ
 リ、▲更須一、更ニ參セヨ三十年、▲咄、エ、圓悟ナラバ、走ハ云フマイ、▲倒退一
 一、ノツケニ倒レタ、咄ノ當躰、百萬ノ諸佛同時ニ出現スルトモ、倒退三千、及ビノ無
 イ、是レ圓悟禪河ノ活波瀾ナリ、見不得處ニ於テ、轉身自由ノ活手段ナリ、
 神宗在位時、自謂此頌諷國、所以不肯入藏、雪竇先拈云、日面佛
 月面佛、一拈了却云、五帝三皇是何物、且道他意作麼生、適來已
 說了也、直下注佗、所以道垂鈎、四海只釣獐龍、只此一句已了、後
 面雪竇自頌他平生所以用心、參尋二十年來曾苦辛、爲君幾下

遠錄公ハ、浮山ノ
法遠回鑿禪師ナ
リ、

風節、會元ニハ又
手ニ作レリ、

禪月、劉王王建、貫
休ニ賜ヒテ禪月大
師ト號ス、

蒼龍窟、似箇什麼、一似人入蒼龍窟裏取珠相似、後來打破漆桶、
將謂多少奇特、元來只消得箇五帝三皇是何物、且道雪竇語、落
在什麼處、須是自家退步看、方始見得他落處、豈不見興陽剖侍
者答遠錄公問、娑竭出海、乾坤震、觀面相呈、事若何、剖云、金翅鳥
王當宇宙箇中誰是出頭人、遠云、忽遇出頭、又作麼生、剖云、似鶻
捉鳩、君不信、鶻腰前驗、始知真遠云、恁麼則屈節當胸、退身三步、
剖云、須彌坐下、烏龜子、莫待重遭點額、所以三皇五帝亦是何
物、人多不見雪竇意、只管道諷國、若恁麼會、只是情見、此乃禪月
題公子行云、錦衣鮮華、手擎鶻、閑行氣貌多、輕忽稼穡、艱難總不
知、五帝三皇是何物、雪竇道屈堪述、明眼衲僧莫輕忽、多少人向
蒼龍窟裏作活計、直饒是頂門具眼、肘後有符明眼、衲僧照破四
天下、到這裏也、莫輕忽、須是仔細始得、

神宗一、此事分明ナル據無シ、只古來云ヒ傳ルノミ、▲他意一、雪竇ノ意、諸人何
ント合點シタゾ、▲適來一、先ツ斯ク云タ通リ、平生ノ工夫ヲ用ヒ盡而、他ノ日月面
面ヲ注破シタ者デヤ、如是指注スルハ何ノ爲ゾ、▲垂釣一、梁山ノ意ト一般、馬祖モ
雪竇モ、格外ノ玄談ヲ以テ、知己ヲ得羊爲メノ謀デ有郎ゾトナリ、▲只此一句一、五
帝ノ一句デ、馬祖ノ本意日月面ノ有様ヲ、全駭頌シ盡スナリ、▲打破一、洒洒落落
ノ境界ニ成タトナリ、▲將謂一、如三前來之苦勞シテ、終ニ打破セラレタ程ニ、奇特玄
妙定テ多シト思フタニ、元來▲興陽一、此ノ公案、恐クハ編者ノ謬テ記セシナラン、既
ニ垂示ニモ、一機一境、大用現前モ、窻窟ト云フタ程ニ、此ノ機鋒骨格アル公案、果而
不可引、決而謬ナラン、雖強テ義理ヲ付クレバ、全篇剖侍者ノ機鋒ハ、雪竇ノ五帝
一ト云フタ語勢、出群ノ機鋒一般デヤト、此レ圓悟ノ意ナリ、▲公子一、諸侯ノ子息
ヲ公子ト云フ、其行跡ヲ諷而作ルナリ、閑行ハ徒ヅラアルキ、▲稼穡、ウ、ルヲ稼ト云
ヒ、收ルヲ穡ト云フ、全篇ノ意ハ、何ノ仁デヤヤラ、義デヤヤラ、夢ニモ不知、朝暮飛
テ回リ、田畑等ヲモ踏ミ荒ラシテ、民ノ愁ヒヲモ知ラヌガ、ソチ達ガ先祖ノ、五帝三皇
ト云フヲヲチットハ知リヤレヨ、五帝三皇、各各仁義ヲ行ヒ、萬民ヲ撫育スル教ヲ作ス

大聖人ノ子孫デハ無イカ、其ノ子孫デ居ナガラ、走有郎道理デハ無イトナリ、▲向蒼一
一、悟道ニ滞在シテ好イト思テ居ルナリ、中々宗旨之本道デハ無イ、▲須是子細一、
人人足踏ニ實地、而始テ得ントナリ、

第四則 德山挾複子

▲垂示云、青天白日、不可更指東割西、時節因緣、亦須應病與藥、
且道、放行好、把定好、試舉看、

青天一、何モ云フコト無イ、宗旨向上、本分ノ田地ナリ、到ニ這裏、何ノ指東割西ベキ
カアランド、暗ニ德山ヲ響カスナリ、▲時節一、學人ノ病ニ應ジ與藥ナリ、夫ハ何ゾ
ト云フニ、見地高キ者ヲバ抑ヘ、低キ者ヲバ揚ゲ、從ニ宜而加減スル、老作家ノ鏝子取リ
ナリ、▲放行一、師學相見ノ時、許シタ者カ許サヌ者カ看ヨ、滌山德山ヲ把住シテ採
テシメラレタ程ニト、公案ニ結寄シタ、

鏝子、茶匙ノ代用、

○舉德山到滌山

擔板漢 ○野狐精

挾複子於法堂

上

不妨令人疑
着○納○敗缺

從東過西從西過東

可煞有禪
作什麼

顧視云無無便出

好與三十棒 ○可煞氣衝
天○真獅子兒善獅子吼 雪竇

着語云勘破了也

錯○果 然○點 德山至門首却

云也不得草草

放去收來 ○頭上太高生 ○未後
太低生 ○知過必改能有幾人 便

具威儀再入相見

依前作這去就 ○已 滌山坐

次

冷眼看這老漢 ○將虎
鬚也須是這般人始得

德山提起坐具云和

尚

改頭換面 ○無風起浪

滌山擬取拂子

須是那漢始得 ○運
籌帷幄之中 ○不妨

坐斷天下スミトク 德山便喝拂袖而出トクサン スナハチ カツン ホツ シウワン イッ 野狐精見解ノコウセイケン ○這一人舌頭トク 喝也カク 有權也ウケン 有實也ウジツ

有照也ウシヤウ 有用ウヨウ ○一等是ニトウ 雪竇着語セツソウカクゴ 云勘破了也クワンパクダレタ ○錯サマシ

果然コトニ 德山背却法堂トクサンハイケツハツダウ 着草鞋カクサビ 便行スナハチユク 風光可愛フウカカハシ ○公案未圓コウアンミエン

○點テン 贏ウチ 得テ 頂上テイジョウ 笠カサ 失却シツケツ 脚下キヤクカ 鞋セ 瀉山至晚問首座シャサンシバンニトフシニ 適來トクライ ○已ニ 是喪身失命シヤウシヤウメイ 了也リタ

新到在什麼處シンタウアイニシツモノカ 東邊落節トウベンラクセツ 西邊セイベン 拔本ハクポン ○首座シュゼ 云當クワン

時背却法堂カキハイケツハツダウ 着草鞋カクサビ 出去也イデアサレリ 靈龜曳尾レイキウイビ ○好與コトニ 三十棒サンジュウボウ ○這般コトニ 漢カン

腦後ノウゴ 合カ 瀉山云シャサンクワン 此子已後コノコノチニ 向孤峰頂上ムカフツキョウジヤウ 盤パン 喫ク 多タ 少ショ

結草庵ケツソウアン 呵佛罵祖カフボクバソソ 去在サレテ 賊過後張弓チヤクワチノチキウ ○天雪竇テンセツソウ

着語カクゴ 云雪上加霜クワンニユキノカヘ 霜シユウ 錯サマシ ○果クワン 然シヤウ ○點テン

顧視コソシ 一イツ 方丈ホウヂヤウ 顧コソシ 誰タレ モ人ト ラシシ 者モノ ハ無ナシ イツ 卜ウラナヒ ○勘破カンパク 一イツ 此コノ 德山トクサン ラ勘破カンパク シタ 者モノ カ、又マタ 瀉山シャサン ラ勘破カンパク シタ 者モノ カ、諸人シヨジン 何ナニ ント勘破カンパク シタ ン、此コノ ヲ宗師ソウジ 家ケ ノ藏ゾウ シ手テ 下カ 云ク フ、龍蛇リウゼ ハ易ヨク 辨ベン、衲僧サウソウ ハ難ナン シ設程セツテイ ニ、機キ 有アル ル禪子ゼンシ ハ、機前キゼン ニ看取ケンク スル處トコロ デヤ、雪竇セツソウ ノ勘破カンパク ハ、縱令シユウレイ 千佛センブツ 同時トウジ ニ出向シュウキョウ スト モ勘破カンパク 了リタ ナリ、此コノ レ雪竇セツソウ ノ宗眼ソウガン ナリ、○草草ソウソウ 一イツ、輕輕ケケク シタ 輕ケ シムルヲ 云ク、○提起テイキ 一イツ、諸方シヨウホウ デ拜ハイ スルガ是コト カ、拜ハイ セザルガ是コト カハ 邪解ジャケ ナリ、○和尙ワウ 一イツ、是コト レ何ナニ ノ聲セイ ゴ、大衆ダイシュウ 如何ニケレバ シ、○擬取ニキ 一イツ、瀉山シャサン 手本テポ ガ見ミ エタ、○喝カク 一イツ、德山トクサン 四ノ五シノゴ ノ云ク ハズ、ツ、ト走ハシ タ處トコロ、最モトモト 最初シユウジウ ノ悟ウ リハ 拔ヒキ ケガチ タノ、○勘破カンパク 一イツ、前マヘ ト同シ、○雪竇セツソウ 一イツ、龍潭リウタン ノ云ク テ置ツキ タニ、又マタ 瀉山シャサン ガ籍セキ ヲ加カ ヘタ 也、▲着語カクゴ ▲擔板タンパン 一イツ、一方イツホウ 斗ト リ見ミ テ行ユク ク板イタ カツギ走ハシ ナ、▲野狐ノコウ 一イツ、德山トクサン 何ナニ ニ程テイ バケテ モ、一目イツモク ニ圓悟エンブツ 見ミ 拔ヒキ イタ、テツキト バケガ露ツキ ハレタ ト、▲不妨フバウ 一イツ、合點カクテン ノユカヌ客僧キヤクソウ、德山トクサン ノ働ウツク キ如何ニケレバ 樣ニ 禪子ゼンシ ラシシ 程テイ ニ、令メイ

エセラシイトハ、
似セ者ラシイトノ
意、

人一一、▲納敗一、德山氣ガ上セテ走ナ、只タ見地機鋒ノミ、夫レガロクナフカト抑ヘ
タ、▲可煞一、德山餘リ角立テ見惡イ、▲好與三十一、圓悟ナラバ、德山ヲ棒ゴキニシ
ラクレ羊者ヲト、桂和尚云、圓悟互ヒ打チデハ有ルマイカノ、▲可煞一、何様大丈夫
之志氣ヂヤト、▲真之一一、德山只タ者デハ無イ、好イ獅子吼ヂヤ、無無ト云フタハ、
鼠、イタチノ聲デ無イ、▲錯、德山ノ錯カ、瀉山ノ錯カ、雪竇ノ錯カ、但シハ圓悟自分
ノ錯カ、是亦宗師家ノ藏シ手ナリ、▲果然、テツキリ圓悟走有郎ト思タ、▲點、是レ點
定ニ非ズ、點破ニ非ズ、又點頭ニ非ズ、諸人何ノ點デ有郎ナ、▲放去一一、德山前後ノ
働キヲ云フ、▲頭上一一、初ハ大膽デ、氣宇宙ヲ吞ム、後ニハオクレニ成テ、如法ニ出
ラレタラ云フ、▲知過一一、如法ノ者ハ、恐クハ德山デ無ンバ亦有ルマイト歎美スルナ
リ、▲依前一一、依レ奮走無クテハ叶ハヌ、▲已是第一一、再ヒ相見ト云フモ、尙是敗
缺、圓悟不肯ト也、▲險、德山危イ、一足チガヒノ處、蹈ミノコナハバ、喪身一一、▲
冷眼一一、德山エセラシイ、肯ゼヌ躰デ瀉山ヲキツトニランダラ云フ、▲拏虎一一、人
多シト云フモ、德山ノ如キ大丈夫ノ働キ無クンバナルマイ、▲改頭一一、德山出ナホシ
タ程ニ、一商量仕ナホサント思ハル、走ナ、▲無風一一、何ヤラソコニ有リ走ナガ、但

落節抜本、本利共
ニ失フトノ語ナ
リ、
棒ゴキニシテケン

シ活龍ガ居ルカノ、諸人何ント、此ヲ古來無事ニ生事ト云フハ非也、德山一器量有ル程
ニ、活水ノ龍ヂヤ、▲須是一一、手ヲ不出シテ探テ占ムルコトハ、老瀉山デ無クンバ亦成
ルマイコト、▲運籌一一、抜カヌ太刀ノ高名ヲヤル瀉山之籌、張良ガ如クデアルトナリ、
▲不妨坐一一、德山モ舌ガ廻ハルマイ、▲野狐一一、德山狐ノバケソコナイ、圓悟見テ
取タ、▲這一喝一一、四德ヲ具ヘタ萬德圓滿ノ一喝ヂヤト、▲一等一一、從上之諸聖、
皆活龍之働キアル中ニモ、德山最モ勝レタトナリ、▲風光一一、德山之働キ、圓悟可愛
ラシイ、▲公案一一、悟邊ノ働キ未圓、若シ公義沙汰ニナラバ、德山云ヒ分ケハナルマ
イト云フ意、▲羸得一一、德山氣ガ上セテ、脚下ニ氣ガ付カヌ、只タ見地斗リヂヤ、▲
已是喪一一、德山隨分働イタガ、圓悟見來レバ、活キ死人ヂヤトナリ、▲東邊一、最前
德山ト相見ノ時モ節目ヲ落シ、東ノ市ニ商ヒテ仕損而利ガ無カツタニ、今亦西ノ市ニ本
ヲ入レテ商ヒニ出テ首座ニ問ハル、走ナガ、瀉山漏逗不レ少、▲眼觀一一、首座餘處事ト
聞キヤルナヨ、圓悟坐下之諸人モ亦餘處事ト聞キヤルナ、人人鼻孔ニ有郎ゾヨ、▲靈
龜一一、首座目ガ醒メヌ走ナ、ドロ田デ尾ヲ引テ、役ニ立タヌ、▲好與一一、圓悟ナラ
ハ棒ゴキニシテケン羊者ヲトナリ、▲這般一一、此等之働キヲ作サバ、圓悟許シハセヌ、

羊トハ、ナカヨツ
ケテ遊ロウトノ
意、

夾山トハ、圓悟ノ
自稱ナリ、師時ニ
夾山ニ住セシガ故
ニ、
德山ノ宣鑑、龍潭
ノ崇信、馮山ノ靈
祐、

諸人此ノ働キハ何ント、▲賊過一、馮山問ニ合ハヌトハ云フ、▲天下一、馮山ノ
點檢、悟邊之窠窟ハ、誰モヨウ出マイトナリ、諸方都テ見地ヲ貴ブ、故ニ然リ、▲此公
案ハ、荆棘林中下ノ足易、夜明籠外轉ノ身難ト云フ公案ヂヤト、桂和尚云ヒ放テ置クナリ、
荆棘一ハ、悟邊ノ見地、德山之働キヲ云、夜明一ハ、悟邊離却、馮山ノ道躰ヲ云フ乎、

夾山下ニ三箇點字、諸人還會麼、有時將一莖草、作丈六金身、用有時將丈六金身、作一莖草、用、德山本是講僧、在西蜀講金剛經、因
時、將丈六金身、作一莖草、用、德山本是講僧、在西蜀講金剛經、因
教中道、金剛喻定後得智、中千劫學佛、威儀萬劫學佛、細行然後
成佛、他南方魔子、便說即心是佛、遂發憤擔疏鈔行脚、直往南方、
破這魔子輩、看他怎麼發憤、也是箇猛利底漢、初到澧州、路上見
一婆子賣油糍、遂放下疏鈔、且買點心喫、婆云、所載者是什麼、德
山云、金剛經疏鈔、婆云、我有一問、爾若答得、布施油糍、作點心、若
答不得、別處買去、德山云、但問婆云、金剛經云、過去心不可得、現

在心、不可得、未來心不可得、上座欲點那箇心、山無語、婆遂指令
去、參龍潭、纔跨門、便問、久響龍潭、及乎到來、潭又不見、龍又不現、
龍潭和尚於屏風後、引身云、子親到龍潭、師乃設禮而退、至夜間
入室侍立、更深、潭云、何不下去、去山遂珍重、揭簾而出、見外面黑却
回、云、門外黑、潭遂點紙燭、度與山、山方接、潭便吹滅、山豁然大悟、
便禮拜、潭云、子見箇什麼、便禮拜、山云、某甲自今後、更不疑着天
下老和尚、舌頭、至來日、潭上堂云、可有箇漢、牙如劔樹、口似血
盆、一棒打不回頭、他時異日、向孤峰頂上立、吾道去、在山遂取疏
鈔、於法堂前、將火炬舉起、云、窮諸立辯、若一毫置於太虛、竭世樞
機、似一滴投於巨壑、遂燒之、後聞馮山盛化、直造馮山、便作家相
見、包亦不解、直上法堂、從東過、西過、東顧、視云、無無、便出、且
道、意作麼生、莫是頭麼、人多錯會、用作建立、直是無交涉、看他恁

麼不妨奇特，所以道：出群須是英靈，漢敵勝還他獅子兒。選佛若無如是眼，假饒千載，又奚爲到這裏？須是通方作者，方始見得。何故？佛法無許多事，那裏着得情見來？是他心機，那裏有如許多阿勞，所以立沙道，直似秋潭，月影靜夜，鐘聲隨扣擊，以無虧觸波瀾，而不散，猶是生死岸頭事。到這裏，亦無得失是非，亦無奇特玄妙，既是無奇特玄妙，作麼生會他？從東過西，從西過東，且道：意作麼生？滄山老漢也不管他，若不是滄山，也被他折挫一上，看他滄山老作家，相見只管坐觀成敗，若不深辨來風，爭能如此？雪竇着語云：勘破了也，一似鐵橛相似。衆中謂之着語，雖然在兩邊，却不往在兩邊作麼生會他？道：勘破了也，什麼處是勘破處？且道：勘破德山，勘破滄山，德山遂出到門首，却要拔本自云：也不得草草要與滄山揪出五臟心肝，法戰一場，再具威儀，却向相見。滄山坐次，德

一本、却要等ノ五字ヲ削ル、

山提起坐具云：和尚，滄山擬取拂子，德山便喝，拂袖而出，可煞奇特。衆中多道：滄山怕他，有甚交涉？滄山亦不忙，所以道：智過於禽，獲得禽，智過於獸，獲得獸，智過於人，獲得人。參得這般禪，盡大地森羅萬像，天堂地獄，草芥人畜，一時作一喝來，他亦不管，掀倒禪床，喝散大衆，他亦不顧，如天之高，似地之厚。滄山若無坐斷天下人舌頭底，手脚時驗他，也大難。若不是他，一千五百人善知識，到這裏也分疎不下。滄山是運籌帷幄，決勝千里，德山背却法堂，着草鞋便出去，且道：他意作麼生？爾道德山是勝，是負？滄山恁麼是勝，是負？雪竇着語云：勘破了也，是他下工夫，見透古人，聲訛極則處，方能恁麼不妨奇特。訥堂云：雪竇着兩箇勘破，作三段判，方顯此公案，似傍人斷二人，相似。後來這老漢，緩緩地至晚，方問首座：適來新到在什麼處？首座云：當時背却法堂，着草鞋出去也。滄山

聲訛ハ聲牙、義理ノ見分ケ難キ處ナリ云フ、又訛ハ訛音トテ、音ノナマリナリト云フ、意知ルベシ、
一本、道老漢ヲ道漢ニ作ル、

理能伏豹、方語解
ニハ、狸能伏豹ト
書テ、博物志ノ故
事ヲ引ケリ、
一本理ヲ狸ニ作ル
ガ故ニ但シ服シ難
シ、
博物志云、魏武伐
甘頭、經二白狼山
逢獅子、使格之、
見一物從林出、
如狸、上三帝車軌
上、獅子將至、便
跳上獅子頭、獅子
伏不敢起、遂殺
之、獅子ト豹ト共
ニ猛獸、故ニ豹ト
云ヘルナルメシト
ナン、

云、此子已後向孤峰頂上盤結草菴、呵佛罵祖去在、且道他意旨如何、瀉山老漢不是好心、德山後來呵佛罵祖、打風打雨、依舊不出他窠窟、被這老漢見透平生伎倆、到這裏喚作瀉山與他受記、得麼、喚作澤廣藏山、理能伏豹、得麼、若恁麼、且喜沒交涉、雪竇知此公案落處、敢與他斷更道、雪上加霜、又重拈起來、教人見、若見得去、許爾與瀉山德山雪竇同參、若也不見、切忌妄生情解、

將一莖一、狗トモ成シ、猫トモ成シ、佛トモ乾屎楸トモ成スナリ、
▲金剛一、金剛ハ能ク物ヲ碎クモノナリ、一切煩惱妄想等ヲ不餘碎キ盡スヲ以テ、禪定ニ名クルナリ、菩提樹下第二ノ定法ナリ、
▲後得一、根本智開テ後ニ、諸ノ差別ノ相ヲ知ル一切智ヲ指シテ後得智ト云フ、此レ果滿圓成ノ時ニ得ル所ナルガ故ニ、
▲疏鈔一、會元ニハ青龍之疏鈔ト有り、鈔ハ學也、注疏ノ學書ト云フ義也、
▲猛利一、如是大膽デ無ケレバ、此道ハ難得、此ヲ祖師門下ノ大信心ト云フ、圓悟坐下ニ氣ヲ付ケタ、
▲點心ハ、二時ノ外ニ小食ト云ヒテ、齋前ニ喫スルナリ、少シ飢ヲ休ムルノミ、
▲金剛一、德山自

慢臭イ、
▲俱問、德山遲イ、
▲過去一、非生非滅、非甘非苦、非色非香、日面佛カ月面佛カ、五帝カ三皇カ、是レ何者ゾ、喫スル者カ、喫セザル者カ、
▲屏風一、龍モ無ク、潭モ無ク、何モ無イ處ニ到タトキ、本來無一物、真ノ龍潭ナリ、
▲豁然一、德山何ヲ悟タノ、先ツハ何ヤヲ見付ケタ走ナ、
▲不疑着一、即心即佛ノ說、向後少シモ疑ハストナリ、
▲包亦一、手包ヲモ不レ知、
▲無無ハ、人ゲナ者ハ無イ走ナト云意ナリ、
▲莫是頭、德山氣ガ上セタ、風顛ノ病デハ無イカ、
▲敵勝一、吾ヨリ勝タ者ニ敵スルハ、大膽デナケレバナラヌ、
▲選佛一、選佛場中デ此眼ヲ具ヘヌ者ハ、千歲坐禪シテモ了期無ク、何ノ役ニモ立タヌナリ、
▲佛法許多一、德山ヲ看ヨ、何ノ修行モ無ク、即時ニ悟リ去テ、許多ノ苦勞モ無イ、故ニ玄沙曰、坐禪觀法ノ心、秋潭ノ月影明朗トシテ潔ク快キガ如ク、又ハ靜夜ノ鐘聲ノ沈沈トシテ寂カナルガ如ク、チヤト云フモ、尙是昭昭靈靈ノ妄想也、悟邊明白裏デヤ、然ルヲ多クハ悟ト留ルナリ、此ハ中下根ノ者ノ是トシ守ル處ヲ破スルナリ、
▲無奇特一、只是レ、
▲不管他ハ、管領領納ノ義、爰テハ納レ不レ肯、
▲似鐵一、穿鑿ノ穴ガ無イ、
▲雖然在、抑揚兩邊ト可レ見、
▲參得、這般ノ禪老、瀉山ノ如ク參得徹シテアラバ、誰ニモ依ラズ、盡大地一、
▲德

訥堂トハ、天寧ノ訥堂梵志禪師ナリ、圓悟ノ法嗣、又云ク、訥堂トハ圓悟ノ自稱ナリト、故ニ桂師ノ脱アリ、
猫ノチキチタ、シル羊ナリ、圓疑、森森云ク、此ハ猫ノ御辭義ヲ正シカスル羊ナコトナヤト云フ、歟、然ラバ第一ノチハハニテ、獨何カ關字アラフ、

山是勝一、作家互換之働キ、勝負ハ無イ、圓悟之空處ナリ、▲訥堂云ハ謬ナリ、從三福本ニ師云ニ作ルニシテモ不穩、一向無キ方ガマシナリ、▲作三段一、兩段ニシテ見レバ不滯、諸方強テ末ノ雪竇ノ句ヲ合セテ三段トス、可笑、猫ノヲキヲタ、シル羊ナリ、
ヂヤトナリ、▲似傍人一、二人ノ喧嘩ヲ傍ヨリ斷ハル如ク、兩老ノ處ヲ雪竇決斷シタルナリ、▲不是好心、果シテ稱美ノ意ニ非ズ、▲他窠一、鴻山點檢ノ通り、悟リノ窠窟ヲ不_レ出、▲伎倆ハ藝能ナリ、▲若恁麼一、四ノ五ノ枝葉ニ眼ヲ不_レ付、直下ニ見得セヨトナリ、畢竟優劣ハナイ、▲雪竇一、初龍潭孤峰頂上、今亦鴻山如_レ是加_レ霜タトナリ、▲又重一、雪竇ノ一句ナリ、頌ニ掛ケテ見ルハ非ナリ、

一勘破。言猶在_レ二勘破。兩重。雪上加霜曾嶮

墮。三段不同。飛騎將軍入虜庭。嶮。敗軍之將

再得完全能幾箇。急走過。傍若無人

不放過。孤峰頂上草裏

坐。果然。穿過鼻孔也。未爲奇。咄。會麼。兩及相傷。兩兩三三

一勘破一、本則文句多端ナルガ故ニ、自分ノ著語ヲ拈起シテ公案ヲ露ハシ頌スルナリ、雪竇ノ勘破ハ、徳山向上ノ悟ニ峻墮シタルヲ勘破ト見ル説モ有リ、非乎、○曾嶮一、此句ハ、向上ニ頂墮シテ悟ニ迷フ病僧多キガ故ニ設クルナリ、先ヅハ、徳山本ヨリ峻岨萬仞ニコロビ落テタ、然ルニ依テ始終ノ働キ甚タ孤峻ナリ、喻ヘテ云バ、飛騎一、完全ナルガ如クデアアルガ、能ク幾箇ゾ、諸叢林人多シト雖ドモ、徳山獨リ、外ニハ無イトナリ、○急走一、徳山拂袖シ去タ處ハ、李廣園ヲ脱シテ、本陣、都ニ馳セ歸タ如クテ有ル、○不放一、鴻山モ亦タ老将ナル故ニ不_レ許、手ヲモ不_レ出シテ取テシメタ處、何ト取り籠メタノ、○孤峰一、機不_レ離位バ、毒海ニ墮在ス、亦之ヲ向上ノ死水トモ云フナリ、孤峰頂上ハ、無寸草ノ處デヤニ、草裏トハ雪竇ナゼ云タノ、爰ハ石霜ノ、不_レ出門草漫漫ノ意、此_レ草裏ニ坐セシムル處ナリ、放過セヌ作用デヤ、○咄、エ、笑止ナ徳

山、悟邊ノ窟窟ガ殘テ氣ノ毒ナクヂヤト也、△着語△言猶一、圓悟聞ク羊ナガ、但シ
 趙州ノ殘睡カノ、諸人何ト聞タカ、△過、圓悟見テ取ク、其ノ勘破差過了也トハ云フ、
 諸人ドコガ差過シタノ、△兩重一、早ヤ二度目ヂヤ程ニ、何ント諸人ヨメタデ有郎、
 ▲三段一、警訛ハドコニ有ルカノ、此レ圓悟ノ藏シ手、▲在恁麼一、嶮墮ト云ハル、
 ガ、ドコニ居ルゾ、諸人何ント、▲嶮、德山一足チガヒデ、コケ落チ羊ゾヨ、アブナ
 イ處、▲敗軍一、トツクニ脈ガ絶タ、斬ルニ及バヌ、▲死中一、德山危イ命ヲ助ツ
 タ程ニ、死一云、褒美也、△傍若一、大膽ナ働キチヤ、△三十、兵法ノ手ナリ、其
 中逃ルガ第一ナリ、德山秘術ヲ盡スモ間ニ合フマイ、ニグルモ好イトナリ、▲理能一、
 評ニ判断ス、邪解ナリ、▲穿却一、滄山德山ノ鼻面ヲ透シタ程ニ、德山働カレマイ、
 ▲果然、雪竇ニ一任シテツキリ走有郎ト思タ、▲穿過一、滄山ノ働キ、イヤ圓悟杯ハ
 奇特トモ不存、▲爲什一、何トシテ雪竇草裏トハ云ハレタノ、德山悟ガ却テ草ト成タノ、
 ▲會麼、雪竇ノ一咄、諸人會シタカノ、▲兩刃一、兩老ノ圓シ、雪竇一時ニ咄破シタ、
 ▲兩兩三三一、滄山德山雪竇、同道知音、一穴ノ狐ヂヤ、▲唱拍一、雪竇ハ咄シ、圓
 悟ハ棒シ、打タリハヤシタリ、拍子相ヒソロツタカ、諸人何ント此聲ヲ聞イタカ、

天子、漢ノ武帝、

雪竇頌一百則、公案一則則、焚香拈出、所以大行於世、他更會文
 章、透得公案盤礴、得熟方可下筆、何故如此、龍蛇易辨、衲子難瞞、
 雪竇參透、這公案、於節角聳訛處、着三句語、撮來頌出、雪上加霜、
 幾乎嶮墮、只如德山、似什麼、一似李廣、天性善射、天子封爲飛騎
 將軍、深入虜庭、被單于生獲、廣時傷病、置廣兩馬間、絡而盛臥、廣
 遂詐死、睨其傍、有一胡兒、騎善馬、廣騰身上馬、推墮胡兒、奪其弓
 矢、鞭馬南馳、彎弓射退追騎、以故得脫、這漢有這般手段、死中得
 活、雪竇引在頌中、用比德山、再入相見、依舊被他跳得出去、看他
 古人、見到說到、行到用到、不妨英靈、有殺人不眨眼、眼底手脚、方可
 立地成佛、有立地成佛底人、自然殺人不眨眼、方有自由自在、分
 如今人、有底問着、頭上一似衲僧、氣槩輕輕、搵着便腰做段股做
 截、七支八離、渾無些子相續處、所以古人道、相續也大難、看他德

一本、被他ノ二字
ナ削ル、

滅滅擊擊、滅ハ紫
ナリ、擊ハ擊ナリ、
長短不齊、驟キ倒
ル、發、故ニ知レ是
支離滅裂ノ見解ニ
非ズトナリ、
一本、徳山喝ノ喝
ノ字ナシ、

幾ハ、何ソナリ、

山瀉山如此、豈是滅滅擊擊底見解、再得完全能幾箇、急走過徳
山喝便出去、一似李廣被捉後、設計一箭射殺一箇番將、得虜
庭相似、雪竇頌到此大有工夫、徳山背却法堂着草鞋出去、道得
便宜、殊不知這老漢依舊不放他出頭、在雪竇道不放過、瀉山至
晚間問首座、適來新到在什麼處、首座云、當時背却法堂著草鞋
出去也、瀉山云、此子他日向孤峰頂上盤結草庵、而佛罵祖去在
幾會是放過來、不妨奇特到這裏、雪竇爲什麼道、孤峰頂上草裏
坐、又下一喝、且道落在什麼處、更參三十年、

盤礴ハ前詳レ之、▲龍蛇一、猛キ者ナレドモ、手ダテヲ以テハ殺シモスルガ、衲子一、
ナゼナレバ、師家ノ空處藏シ手迄、其儘見破スル故、況ヤマガラカシ杯ヲシテハ置カレ
ヌナリ、▲節角一、ツジツマ、スキマノナキヲ云フ、▲傷病ハ、手杯ヲ負フナリ、▲
這漢有、徳山ヲ云、▲看他一、徳山ノ働キラ褒ム、▲殺人一、大丈夫ノ大膽ヲ云、

アヒシラヘバト
ハ、アシラヒ、取リ
扱フ意、

人ヲ殺ス程大ナルヲ無キ程ニ、大方ノ者ハ、目ヲバチツカスナリ、▲輕輕一、ザツト
アヒシラヘバ、▲腰倣一、段段トキレ、ツガヒ離レタルナリ、▲滅滅一、節角多ク、
物ノ滯ルヲ云フナリ、瀉山徳山ニ於テハ不知是ト、▲虜庭一、匈奴、エビスノ陣中
ヲ云フ、▲徳山背一、便宜迄ハ邪解ナリ、如是邪解スル底、殊ニ不知瀉山依レ舊不
許、徳山ヲ、故ニ雪竇一、幾會放一、瀉山許シハセヌ、▲更參一、諸人容易ニ
ハ知り得マイトナリ、

第五則 雪峰粟米

▲垂示云、太凡扶起宗教、須是英靈底漢、有殺人、不貶眼底手脚、
方可立地成佛、所以照用同時卷舒齊唱、理事不二、權實並行、放
過一著、建立第二義門、直下截斷葛藤、後學初機、難爲湊泊、昨日
恁麼事不獲已、今日又恁麼罪過彌天、若是明眼漢、一點謾他不
得、其或未然、虎口裏橫身、不免喪身失命、試舉看、

大凡、佛心宗ノ宗教ヲ扶堅センニハ、千萬人ニ勝ル底ノ作家デ無ケレバナラヌ、亦師家トナツテハ、殺シ人ノ不貶シ眼底ノ大丈夫、大膽ノ機勇有ツテ、學人ヲシテ立地ニ成佛セシムルナリ、▲照用一、此ハ學人接待ノ手段ヲ云フ、▲放過一、宗旨向上ノ田地ニハ、青天白日何ニモ可シ説テ無キナリ、然レドモ方便ヲ設テ、不レ得レ巳ニ義門ニ下ルナリ、其ヲ喻テ云ヘバ、恭ノ上手ガ、弱キ者ニハ一手ツ、見セテ、向ノ活ル羊ニスル如クヂヤ、▲直下一、四ノ五ノ撞カセズ、掃蕩シタトキ、後學ノ者ハ、依付キ難キナリ、濶ハ大勢集ル處、泊ハ船ヲ止ルコト、畢竟學人ガ集リ寄リ得ヌトナリ、故ニ▲昨日一、昨日モ泥帶水、今日モ泥帶水、謗法ノ罪過彌天ナリ、▲明眼一、一言半句云ツテ聞スルニ及バヌガ、其或一、後學ノ爲ニハ虎口一、爲人スルコトハ、試一、雪峰ノ手段此公案ニアル程ニ看ヨトナリ、

○舉雪峰示衆云。一盲引衆盲。盡大地撮來如

粟米粒大。是什麼手段。○山僧拋向面前。只恐拋

有什麼。漆桶不會。倚勢欺人。○自領出打鼓普請

看。瞎○打鼓。爲三三軍。

盡大地一、諸人那箇ノ手元ヲ以テ撮シ來ルゾト氣ヲ付クベシ、是非得失、一切四ノ五ノ分別ヲ截斷シタ時、盡大乾坤、三指ニ撮不足、粟粒米ノ大サノ如クヂヤト也、今日情識ヲ以テ計較スルハ、皆茶袋ノ中デ物ヲ見ル羊ナ小見解ナリ、粟ハ五穀ノ都名ナリ、○打鼓一、如是面前ニ擲出シテモ不レ會バ、普請シテ看ヨ、大勢取り寄テ穿議デモシテ見ヤレト、手ヲ不レ開、事有リ走ニ云ヒ放テ置クナリ、往往此公案ヲ以テ、大小圓融、一多自在杯ト邪解スルハ、甚タ非ナリ、▲著語▲一盲一、雪峰示衆杯ト云ハル、ガ、盲目ノ導テ有郎、足元ガアブナイ、諸人ケツマツクナ、▲不爲分一、然レドモ示衆說法ハ、師家分上有ルベキコヂヤ、▲是什一、撮シ來ル手元、諸人見タカ、▲山僧一、雪峰鬼眼睛ヲ弄シタレド、圓悟杯ハ其ノ羊ナ法臭イコトハ致サヌ、バケくシイコヂヤ、▲只恐一、雪峰日程ハ成ルマイ、肩ガ卸サレマイ、▲有什一、乍去雪峰ニ亦拋向スル謀ガ

バケくシイト
ハ、馬鹿くシイ
トノコナリ、

ヌケガクトハ、窃
ニヌケ出テト先キ
ガケスルヲ云フ、
自領出去、服天曰
ク、誰不_レ會トノ意
ハ不可ナリ、領ハ、
一狀領過ノ領ト同
ク、即チ背負フコ
ナリ、故ニ此則ニ
テハ、ソノ漆桶不
會ハ、他人ノコト
ハナイ、御身ノコ
トヤ程ニ、自ラ背
負ツテ出テ去レト
ナリ、故ニ白狀シ
テ出ヨトノ意、
見解ノ下雲峰、一
本、雪峰ニ作ル、
還見雪峰摩ノ雪
峰、類聚ニハ、雲峯
ニ作ル、

一本、摩ノ下噴字
ナシ、
長慶ノ慧稜、雲門
ノ文偈、雲峯ノ義
存、

一本、一言半句ノ
下ノ以ノ字ナシ、

有郎ガ、諸人ドウシタ働キガ有郎ノ、▲倚勢一、雪峰餘リ、ワウダウデゴザルノ、▲
自領一、雪峰ハ先ツ自領シテカノ、圓悟心元無イ、▲莫説一、餘リ大衆ヲ馬鹿ニシ
メサルナ、▲階、諸人目ガツブレタノ、ヨソ目見ズトモ、夫レ目ノ前デ看ヨ、動クナ、チ
ヂムクナ、只看ヨトナリ、▲打鼓一、三軍進退ノ爲デヤ、衆中若シ此ノ漢有ラバ、ヌ
ケガケシテ、ブン取り高名セヨカシ、

長慶問雲門、雪峰與麼道、還有出頭不得處麼、門云、有麼云、作麼
生、門云、不可總作野狐精、見解雲峯云、匹上不足、匹下有餘、我更
與爾打葛藤、拈拄杖云、還見雪峰麼、咄、王令稍嚴、不許攙奪行市、
大滌詰云、我更與爾諸人、土上加泥、拈拄杖云、看看、雪峰向諸人、
面前放扇、咄、爲什麼屎臭也、不知、雪峰示衆云、盡大地撮來、如粟
米粒、大古人接物利生、有奇特處、只是不妨辛懃、三上投子、九到
洞山、置漆桶木杓、到處作飯頭也、只爲透脫此事、及至洞山作飯

頭、一日洞山問、雪峰作什麼峯云、淘米、山云、淘沙去米、淘米去沙、
峯云、沙米一齊去、山云、大衆喫箇什麼、峯便覆盆、山云、子緣在德
山、指令見之、纔到、便問、從上宗乘中事、學人還有分也、無、德山打
一棒云、道什麼、因之有省、後在熬山阻雪、謂高頭云、我當時在德
山、棒下、如桶底脫、相似、高頭喝云、爾不見道、從門入者、不是家珍、
須是自己胸中流出、蓋天蓋地、方有少分、相應、雪峰忽然大悟、禮
拜云、師兄今日始是熬山成道、如今、人只管道、古人特地做作、教
後人依規矩、若恁麼、正是謗他古人、謂之出佛身血、古人不似如
今人、苟且豈以一言半句、以當平生、若扶豎宗教、續佛壽命、所以
吐一言半句、自然坐斷天下人舌頭、無爾着意路、作情解、涉道理、
處、看他此箇示衆、蓋爲他會見作家來、所以有作家鉗鎚、凡出一
言半句、不是心機意識思量、鬼窟裏作活計、直是超群拔萃、坐斷

稜道者、慧稜、

望州亭、雪峯山二十三峯ノ一ナリ、師曾テ雪峯ニ住スル日、福州ノ鼓山ヲ望見シテ、遂ニ其ノ亭ニ名クト云フ、

烏石嶺、福州ニ烏石山アリ、保福鵝湖、共ニ雪峯ノ嗣、

古今不容擬議、他家用處、盡是如此、一日示衆云、南山有一條鱉鼻蛇、汝等諸人、切須好看取、時稜道者出衆云、恁麼則今日堂中大有、人喪身失命、去在、又云、盡大地是沙門、一隻眼、汝等諸人向什麼處、肩、又云、望州亭與汝相見了也、烏石嶺與汝相見了也、僧堂前與汝相見了也、時保福問、鵝湖僧堂前、即且置、如何是望州亭、烏石嶺相見處、鵝湖驟步歸、方丈、他常舉、這般語、示衆、只如道盡大地撮來、如粟米粒大、這箇時節、且道、以情識下度、得麼、須是打破羅籠、得失是非、一時放下、洒洒落落、自然透得、他圈績、方見他用處、且道、雪峯意在什麼處、人多作情解、道心是萬法之主、盡大地一時在我手裏、且喜沒交涉、到這裏、須是箇真實漢、聊聞舉着徹骨徹髓、見得透、且不落情思、意想、若是箇本色行脚、衲子、見他恁麼、已是郎當爲人了也、看他雪竇頌云、

匹上匹下、匹上匹下、故上上二比、スレバ不足ナレドモ、其レトテ又下ニ比スレバ有餘トナリ、

長慶一、此レ長慶ノ空處ナリ、如是仕掛テ、雪門ガ雪峯ノ賊意ヲ會スルカ不レ會カラ試ルナリ、▲不可憫一、雪峯モ其方モ、同ジバケ狐ヂヤ、其賊意ハ取リ置テ、▲匹上一、雪峯ノ手段、上ニモ下ニモ取リ合ハヌ、此レ何ガ不レ足、此レ何ガ有レ餘ゾト捏テ看ヨ、▲王令一、雪峯ガ這裏、稍ヤ號令ガ嚴イ程ニ、抑ヘ取リ劫盜ヲ、キツト禁ジタ、雪峯其ノ手ヲ引キヤレ、▲土上一、雪峯幾多弄泥團ニ、吾亦加レ泥テ、諸人ニ泥ヲツカマセントナリ、▲放屁、雪峯今日ノ手段、屁臭ウテ鼻モチガナラヌ、▲咄、エ、コレ程臭ク涉タ糞風ヲ、諸人ハ亦知ラヌカノ、屎臭イハ佛法臭イヲ云フ、▲淘米一、沙ヲ煩惱米ヲ菩提ニシテ云フモ邪解ナリ、只淘米上ニ就イテ點檢シタ者、▲一齊一、一塵不立ノ機鋒也、▲覆盆、大地ニ寸土無シ、天下ノ衲僧ニ、滿腹ニ喫セシメタ、▲從上一、上諸佛ヨリノ心宗最上ノ事、學人ニモ會スル分齊有ルカト、▲一棒云一、從上ノ諸聖何トカ云ヒシ、爰ガドウ云ハル、者カト、▲喝、コイツ自己ヲ取リ放シタナ、爾不レ師兄一、寐語デハ無イカノ、▲做作、無イコヲコシラヘテ、後人ヲ戒シメタ者ヂヤ、坏ト邪解スルナリ、▲出佛身一、五逆大罪ノ一ナリ、▲苟且、カリソメ淺マシイ情解トハ、此ノ雪峰岩頭坏ハ、雲泥隔タルナリ、▲當平生、兩老ノ一言半句坏ヲ、爾等ガ平生ノ情識

耶當、俗呼小錢云、人之類敗、及身病而摧靡者曰耶當、

ニ當テ、測レル者デハ無イ、▲鉗龜、學人ノ鈍鐵ヲ扣キ抜ク手段ナリ、▲鬼窟一、空腹高心ノカラ腹外道ヲ云フ、▲他家用一、雪峯平生ノ用處如是ト、以下三則ノ示衆ヲ舉ゲテ褒ムルナリ、▲望州一、處ノ穿義ハ強テイラヌ、只個相見ノ處肝要也、▲打鼓一、四ノ五ノ、分別計較ノ羅籠ヲ打破セヨトナリ、▲郎當ハ、長袖ノ貌、馬鹿ノト、ヲチビレタ底ヲ云フ、

牛頭沒

閃電相似。○ 蹉過了也

馬頭回

如三聲 石火

曹溪鏡裏

絕塵埃

打破鏡來與個相見。○ 須是打破始得

打鼓看來君不見

刺破個眼睛。○ 莫輕易好。○ 漆桶有甚麼難見處

百花春到爲誰開

法不相 饒。○ 一

場狼籍。○ 葛藤窟裏出頭來

牛頭一、雪峯漆桶不會、打鼓一ト云ハレテ、天下ノ學人全躰白汗ヲ流シテ看バ、或

カタテヤトハ、アヤシク、キタナイトノ意、

ハ牛ノ頭ニ看エ、馬ノ頭ニ看ユ、然ドモ暫時ノ光影端の失ス、然ルニ依テ公案ノ大意ヲ失フナリト、雪峯雪竇同口一舌、閃電光擊石火ノ如クニシテ看ルトキ、天下ノ衲僧見不得ト云テ、必ズヨソ目振ルナ、雪竇眼ヲ開テ看バ、曹溪一、鏡ニ掛ケテ歴歷分明デヤ、ウタテヤ諸人、雪峯ガ鼓ミ拍子ヲ取テ見セシメ來ラルレドモ、マダ見ヌ程ニ、若シ然ラバ雪竇手ヲ把テ教ヘ羊、百花一、諸人目ヲ明ケテ能ク見ヤレトナリ、爲レ誰開ノ三字、一頷ノ眼目デヤ、▲着語▲閃電一、ピツカリトシタ羊ダガノ、看ルトキ差過了也、▲如擊一、諸人見届ケマイ、▲打鼓一、雪竇曹溪ノ舊鏡ガイヤダノト、圓悟自家ノ眼ヲ開テ看タ、▲須是一、桂和尚云ク、圓悟打破シテコノ何チカ得ン、但シ有ルカノ、▲刺破一、諸人動クナ、チジ向クナ、目ヲ明ケテ看ヨ、ウロタヘルト目ヲ撞クゾヨ、▲莫輕一、ト云テ胡椒丸吞ニ仕ヤルナヨ、大抵デハ亦難見ゾヨ、カンマヒテ輕忽スルナト、▲漆桶一、凡坐不二、邪正一如、什麼ノ難見處カアラント、▲法不一、雪竇指圖デハイクマイ、四時ノ定法、年年如是法トシテ不相饒トナリ、爲レ誰ト云フガ有郎カ、▲一場一、雪竇餘リ取り亂シタ落草デヤノ、▲葛藤一、雪竇杖臺上ニ脚絆シ來タノ、圓悟聞クモイヤデオチャル、

當頭、亦最初ノ義、

一本、第四以下ノ九字ヲ削ル、

一本、又有什麼以下ノ二十六字ヲ削ル、

雪竇自然見他古人只消去他命脈上一割與他頌出牛頭沒馬頭回且道說箇什麼見得透底如早朝喫粥齋時喫飯相似只是尋常雪竇慈悲當頭一鎚擊碎一句截斷只是不妨孤峻如擊石火似閃電光不露鋒銜無偏湊泊處且道向意根下摸索得麼此兩句一時道盡了也雪竇第三句却通一線道略露些風規早是落草第四句直下更是落草若向言上生言句上生句意上生意作解作會不唯帶累老僧亦乃辜負雪竇古人句雖如此意不如此終不作道理繫縛人曹溪鏡裏絕塵埃多少人道靜心便是鏡且喜沒交涉只管作計較道理有什麼了期這箇是本分說話山僧不敢不依本分牛頭沒馬頭回雪竇分明說了也自是人不見所以雪竇如此耶當頌道打鼓看來君不見痴人還見麼更向爾道百花春至爲誰開可謂豁開戶牖與爾一時八字打開了也及

乎春來幽谷野澗乃至無人處百花競發爾且道更爲誰開

見他古一一、雪峯示衆ノ落處ヲ能ク見得シテ、▲命脈上トハ、肝要ノ處、▲一割ハ、サシ付ケテト云意、▲一鎚一一、公案ノ落處ヲ打チ碎キ截リ分ケテ見セシムルナリ、▲此兩句一一、牛頭馬頭ノ兩句ナリ、然レドモ兩句ガ一句ナリ、故ニ下ノ三句ト有ルヲ、二句ニ直スナリ、如是シテ入レ難ゼニセヌガ、桂和尚ノ說ナリ、又此兩句ト云フ上ニ、曹溪一一ノ一句ヲ入レテ見ルハ、焉知和尚ノ說ナルコトヲ、其トキハ、兩句三句今ノ通リナリ、▲帶累、和訓ニヒキワツラフト訓ズ、▲靜心一一、心寂靜ナルヲ鏡ト譬フルナリ、▲癡人一一、坐下ニ撈着、▲乃至ハ多キヲク、ツテ一一ニ不ノ舉ナリ、▲爲誰開、諸人點頭カノ、

第六則 雲門好日

○舉雲門垂語云十五日已前不問汝

南半河

耶當、俗呼小綠云、
人之類敗、及身病
而搦者曰耶當、

ニ當テ、測レル者デハ無イ、
▲鉗匙、學人ノ鈍鐵ヲ扣キ抜ク手段ナリ、
▲鬼窟ー、空
腹高心ノカラ腹外道ヲ云フ、
▲他家用ー、雪峯平生ノ用處如是ト、以下三則ノ示衆ヲ
舉ゲテ褒ムルナリ、
▲望州ー、處ノ穿義ハ強テイラヌ、只個相見ノ處肝要也、
▲打鼓
ー、四ノ五ノ、分別計較ノ羅籠ヲ打破セヨトナリ、
▲郎當ハ、長袖ノ貌、馬鹿くト、
ヲチビレタ底ヲ云フ、

牛頭沒

閃電相似
○ 蹉過了也

馬頭回

如聲
石火

曹溪鏡裏

絕塵埃

打破鏡來與個相見
○ 須是打破始得

打鼓看來君不見

刺破個眼睛
○ 莫輕易好
○ 漆桶有甚麼難見處

百花春到爲誰開

法不相
饒○

場狼籍
○ 葛藤
窟裏出頭來

牛頭ー、雪峯漆桶不會、打鼓ート云ハレテ、天下ノ學人全體白汗ヲ流シテ看バ、或

ウタテヤトハ、ア
ヤシク、キタナイ
トノ意、

ハ牛ノ頭ニ看エ、馬ノ頭ニ看ユ、然ドモ暫時ノ光影端の失ス、然ルニ依テ公案ノ大意ヲ
失フナリト、雪峯雪竇同口一舌、閃電光擊石火ノ如クニシテ看ルトキ、天下ノ衲僧見不
得ト云テ、必ズヨソ目振ルナ、雪竇眼ヲ開テ看バ、曹溪ー、鏡ニ掛ケテ歷歷分明デヤ、
ウタテヤ諸人、雪峯ガ鼓ミ拍子ヲ取テ見セシメ來ラルレドモ、マダ見ヌ程ニ、若シ然ラ
バ雪竇手ヲ把テ教ヘ羊、百花ー、諸人目ヲ明ケテ能ク見ヤレトナリ、爲レ誰開ノ三字、
一頷ノ眼目デヤ、
▲着語
▲閃電ー、ピツカリトシタ羊ダガノ、看ルトキ差過了也、
▲如
擊ー、諸人見届ケマイ、
▲打鼓ー、雪竇曹溪ノ舊鏡ガイヤダノト、圓悟自家ノ眼ヲ
開テ看タ、
▲須是ー、桂和尚云ク、圓悟打破シテコノ何チカ得ン、但シ有ルカノ、
▲
刺破ー、諸人動クナ、チシ向クナ、目ヲ明ケテ看ヨ、ウロタヘルト目ヲ撞クゾヨ、
▲
莫輕ー、ト云テ胡椒丸吞ニ仕ヤルナヨ、大抵デハ亦難見ゾヨ、カンマヒテ輕忽スルナ
ト、
▲漆桶ー、凡聖不二、邪正一如、什麼ノ難見處カアラント、
▲法不ー、雪竇指
圓テハイクマイ、四時ノ定法、年年如是法トシテ不相饒トナリ、爲レ誰ト云フガ有郎
カ、
▲一場ー、雪竇餘リ取リ亂シタ落草デヤノ、
▲葛藤ー、雪竇枝蔓上ニ脚絆シ來
タノ、圓悟聞クモイヤデオヂヤル、

當頭亦最初ノ義

一本、第四以下ノ九字ヲ削ル、

一本、又有什麼以下ノ二十六字ヲ削ル、

雪竇自然見他古人只消去他命脈上一割與他頌出牛頭沒馬頭回且道說箇什麼見得透底如早朝喫粥齋時喫飯相似只是尋常雪竇慈悲當頭一鎚擊碎一句截斷只是不妨孤峻如擊石火似閃電光不露鋒銚無備湊泊處且道向意根下摸索得麼此兩句一時道盡了也雪竇第三句却通一線道略露些風規早是落草第四句直下更是落草若向言上生言句上生句意上生意作解作會不唯帶累老僧亦乃辜負雪竇古人句雖如此意不如此終不作道理繫縛人曹溪鏡裏絕塵埃多少人道靜心便是鏡且喜沒交涉只管作計較道理有什麼了期這箇是本分說話山僧不敢不依本分牛頭沒馬頭回雪竇分明說了也自是人不見所以雪竇如此即當頌道打鼓看來君不見痴人還見麼更向偈道百花春至爲誰開可謂豁開戶牖與爾一時八字打開了也及

乎春來幽谷野澗乃至無人處百花競發爾且道更爲誰開

見他古一、雪竇示衆ノ落處ヲ能ク見得シテ、▲命脈上下ハ、肝要ノ處、▲一割ハ、サシ付ケテト云意、▲一鎚一、公案ノ落處ヲ打チ碎キ截リ分ケテ見セシムルナリ、▲此兩句一、牛頭馬頭ノ兩句ナリ、然レドモ兩句ガ一句ナリ、故ニ下ノ三句ト有ルヲ、二句ニ直スナリ、如シテ入レ難ゼニセヌガ、桂和尚ノ說ナリ、又此兩句ト云フ上ニ、曹溪一ノ一句ヲ入レテ見ルハ、焉知和尚ノ說ナルヲ、其トキハ、兩句三句今ノ通リナリ、▲帶累、和訓ニヒキワツラフト訓ズ、▲靜心一、心寂靜ナルヲ鏡ト譬フルナリ、▲癡人一、坐下ニ撈着、▲乃至ハ多キヲク、ツテ一ニ不ノ舉ナリ、▲爲誰開、諸人點頭カノ、

第六則 雲門好日

○舉雲門垂語云十五日已前不問汝

南半 河

河北○這裏不取舊曆日十五日已後道將一句來朝至暮

○切忌道着○來日是十六○日月如流自代云日日是好日收○緞

斗○誰家無明月清風○還知麼○海神知貴不知價

十五日一、此ノ句要略互顯而可見、十五日已前、問「モ無ク云「モ無イ青天白日、十五日已後モ、亦問「モ無ク云「モ無イ青天白日、然レドモ走斗リ云へバ、子孫斷絶、宗風破滅、向上ノ死水ナリ、寒巖異草ノ青ヲ守リ、白雲ニ坐着シテ宗不妙ト云フモ爰ノ「ナリ、然ルニ依テ、本位ヲ下テ一句云フキハ、亦十五日已前モ十五日已後モ、問「有リト、云「有リ、無量無邊、後學ノ爲メニ言説スルナリ、故ニ雲門今日如レ是垂語ス、畢竟此レ何ナカ不問、此レ何ノ一句ヲカ道將スト捫テ見バ、不レ言シテ公案ノ底意分明ナリ、爰ハ頻リニ喚「小玉、モ本無イ事、只宗師家爲人ノ空處ナリ、這裏一代藏教モ説不得ナリ、十五日已前モ坐斷千差萬別、十五日已後モ坐斷千差萬別、於此ハ千佛出向ストモ

見不得デヤ、○日日一、今日モ好イ日デヤ、昨日モカスミガ去テ好イ日デヤガ、諸人ハ何ント、▲著語▲半河一、雲門ドツチ不レ付ノ云ヒ分デヤノト、已前已後ノ兩句ニ掛ル、云ハレヌ「カト思へバ、亦云へト云フワイ、▲這裏一、圓悟杯ガ手前ニハ、舊「ヨミノ所持ガ無イ、雲門先ツソチへ収テ置キヤレト、底意ハ、日勘定杯ハ必ズスルナト、眼ノ付ケ處ニ氣ヲ付タ、▲不レ免一、空送ニ光陰ニ意ナリ、修行ト云フモ空送ニ光陰ニ坐禪ト云フモ早ヤ空一、悟ト云フモ迷ト云フモ衆生ト云フモ、スツベリ空送ニ光陰ニ然ラバ何ントシテ好郎ノ、諸人只居ヤレ、必勿レ要一物、▲切忌一、諸人必ズウロタヘテ、明日ハ十六日杯ト云フナト、前後一時ニ截斷シテ不レ通風ナリ、此句評ニ出ヅレドモ、大事ハ無イ、▲日月一、諸人油斷スルナヨト云へバ、亦早ヤ修行工夫トデルガ、修行スト云へバ脇目ニ向フゾヨ、只居タトキ這ノ内デヤ、▲収、雲門能クハ収メラレタ程ニ、▲蝦跳一、天下ノ衲僧升底デ、活計則ハ出マイ、▲誰家一、人人自家ノ風光、誰家ニカ無ラン、雲門云ヒヤルニ不レ及トハ云ヒツ、▲還知一、諸人此ノ句ノ有リ家ヲ知テカ、知ルマイ、氣ノ毒ナリ、▲海神一、日日ノ是レ貴ヲ知テ、天下ノ衲僧價ヲ付ケテ買ヒ取ル「ヲ知ラヌン、

睦州、道隱師也、
黃栗ノ嗣、
被機鑽、方語ニ爾
ガ入頭ノ處無シ
ト、機音淡、

靈樹、如敏禪師大
安ノ嗣、
一本、又云ノ二字
ナシ、

廣主、廣州王劉暉、

雲門初參睦州、州旋機電轉、直是難湊泊、尋常接人、纔跨門、便擗住、云、道道擬議不來、便推出、云、秦時、轆轤鑽、雲門凡去見、至第三回、纔敲門、州云、誰、門云、文偃、纔開門、便跳入、州擗住、云、道道、門擬議、便被推出、門一足在門闥內、被州急合門、拶折雲門脚、門忍痛作聲、忽然大悟、後來語脈接人、一摸脫出、睦州後於陳操尚書宅住三年、睦州指往雪峯處去、至彼出眾、便問如何、是佛、峰云、莫寐語、雲門便禮拜、一住三年、雪峰一日問、子見處如何、門云、某甲見處、與從上諸聖不移易、一絲毫許、靈樹二十年、不請首座、常云、我首座生也、又云、我首座牧牛也、復云、我首座行脚也、忽一日、令撞鐘、三門前接首座、眾皆訝之、雲門果至、便請入首座寮、解包、靈樹人號曰、知聖禪師、過去未來、事皆預知、一日、廣主劉王將興兵、躬入院、請師決臧否、靈樹已先知、怡然坐化、廣主怒曰、和尚何時得

合于ハ、卷子ナリ、
查音麗、藏音ノ器、

洞山、守初宗慧禪
師、
智門、師寬禪師、

疾、侍者對曰、師不曾有疾、適封一合子、令俟王來、呈之、廣主開合、得一帖子、云、人天眼目、堂中首座、廣主悟旨、遂寢、兵請雲門出世、住靈樹、後來方住雲門、師開堂說法、有鞠常侍致問、靈樹果子熟也、未門云、什麼、年中得信、道生復引劉王、昔為賣香客等、因緣劉王後、謚靈樹、為知聖禪師、靈樹生生不失通、雲門凡三生為王、所以失通、一日、劉王詔師入內、過夏、共數人尊宿、皆受內人問訊、說法、唯師一人不言、亦無人親近、有一直殿使、書一偈、貼在碧玉殿上、云、大智修行始、是禪禪門、宜默不宜喧、萬般巧說爭、如實輪却、雲門、總不言、雲門尋常愛說三字、禪、願、鑿、咦、又說一字、禪、僧問、殺父殺母、佛前懺悔、殺佛殺祖、向什麼處懺悔、門云、露、又問、如何是正法眼藏、門云、普直是不容擬議、到平鋪處、又却罵人、若下一句語、如鐵橛子、相似、後出四哲、乃洞山、初智門、寬德山、密香林、遠皆

德山、綠密圓明
師、
香林曾城、激遠
師、

爲大宗師香林十八年爲待者、凡接他只叫遠侍者、遠云喏、門云
是什麼、如此十八年、一日方悟、門云、我今後更不叫汝、雲門尋常
接人多用睦州手段、只是難爲湊泊、有抽釘拔楔、底鉗鎚、雪竇道
我愛韶陽新定機、一生與人抽釘拔楔、垂箇問頭、示衆云、十五日
已前不問汝、十五日已後道將一句來、坐斷千差、不通凡聖、自代
云、日日是好日、十五日已前這語已坐斷千差、十五日已後這語
也坐斷千差、是他不道明日是十六、後人只管隨語生解、有什麼
交涉、他雲門立箇宗風、須是有箇爲人處、垂語了却、自代云、日日
是好日、此語通貫古今、從前至後、一時坐斷、山僧如此說話、也是
隨語生解、他殺不如自殺、纔作道理、墮坑落塹、雲門一句中、三句
俱備、蓋是他家宗旨如此、垂一句語、須要歸宗、若不如如此、只是杜
撰、此事無許多論說、而未透者、却要如此、若透得、便見古人意旨、

看取雪竇打葛藤

旋機一、靈機ノ周旋スルヲ俊ニシテ、依リ付キ難イ機鋒ナリ、
點シ來ラズンバ、
▲秦時一、
▲老古錐、サキノツブレテ不_レ透ヲ云フ、方語ニ、
爾無_ニ入
頭之處、鈍漢ト云フ意ナリ、
▲二摸ノ摸ノ字、木邊ニテ可ナリ、
▲莫寐一、
白日青天チ
ヤ、佛ト云フモ早ヤチゴト、
▲便禮一、
元ヨリソコニ通而、四ノ五ノ云フニ不_レ及、
不_レ移易一、
カラ腹デ云ハレヌ、
▲訝、
怪シミ疑フ意、
▲臧否、
善ヲ臧ト云ヒ、惡ヲ
否ト云フナリ、
▲怡然ハ、
安心ノ貌、
▲一帖一、
爰デハ遺書ノ一、
▲果子一、
能ク熟
シテノ開堂說法デゴザルカト、
▲什麼一、
生熟ト云フコガアル者カ、
▲復引一、
失
通ト云迄ノ語脈、
圓悟ノ評トハ不_レ見ナリ、
▲露、
徧界曾不_レ藏、
▲普、
盡大地正法眼、
諸
人踏ミツブスナヨ、
▲平鋪ハ、
平生ノ意ナリ、
ブツサラシタ尋常ノ言句ヲ以テ、
人ヲ喝
罵スルナリ、
▲如鐵一、
爾穿鑿ノ處ナシ、
▲韶陽一、
雲門ハ古人ノ舊路ニ不_レ依、
斬
新決定ノ機鋒有ルチ愛ストナリ、
▲他殺一、
他ノ生_{スル}解非ヲ罵ランヨリ、
自身ノ生_{スル}解
ヲ罵ルガ好イ、
四ノ五ノ世話ヲヤク程、
語上ニ生_{スル}解、
兎角ダマツタガマシデヤ、
▲墮坑
一、
正當ノ理ニ不_レ順ナリ、
▲杜撰、
本據モ無イ義ナリ、
▲未透一、
多般ニ談話スル

一ヲ求ムルナリ、▲看取一、圓悟常則ノ餘韻、雪竇ニユヅラレタ、

去却一。七穿八穴。○向什麼拈得七。拈不出。○上下

四維無等匹。○何似生。○上是天下。是地。東南西北與四維。有是什麼等匹。○爭奈柱杖在我手裏。

徐行踏斷流水聲。○莫問脚跟下。○維爲體究。○打入葛藤窟裏去了也。縱觀

寫出飛禽跡。○眼裏亦無此消息。○野狐精。○依前只在舊窠窟裏。草茸茸

煙霏霏。○未出這窠窟。○足下雲生。空生巖畔

花狼籍。○在什麼處。○不唧。彈指堪悲舜若多。○方四

八面盡法界。○向舜若多鼻孔裏。道將一句來。○在什麼處。莫動着。○前言何在。○動着

三十棒。○自領出去。○便打

去却一、此一句、十五日已前不問汝、去却而一不立、手ニ物不持、何デモ可ニ取リ住一、無イ、▲拈得一、十五日已後道將一句來ト、拈得スルハ、七縱八橫、百萬無量ノ草木瓦礫迄、惣ニ無ニ可捨物、畢竟此レ何ノ一ヲカ去却シ、此レ何ノ七ヲカ拈得スト、著、眼看ヨ、何モセヨ、去却シテモ不足ナリモ無ク、拈得而モ亦餘ル一無イ、如是ナルコトヲ得ル底ノ人ノ境界ハ、○上下一、天上天下唯我獨尊トモ云フガ、此二句デ公案ノ大意ヲ盡シタ、森羅萬象、草木人畜、著著全ク彰ニ自己家風、匹類無雙ノ境界デヤ、如レ是到リ得タトキ、聲色堆裏ニ、遊戲三昧ヲ得ルナリ、踏斷ト云ヒ、寫出ト云フハ、雪竇文章ノ弄處ナリ、如レ是聲色遊戲杯ト云ヘバ、亦諸人無事平地ニ喫咬センコト恐レテ、草茸茸一、一時ニ蓋覆シテ蹤跡無ク、此レ人ノ有リ家ヲ見失フテ、スツベリ知レヌト、前ノ二句ヲ轉却ス、然ラバ禪定三昧空三昧ヲ得タ空生ノ境界ヲ是ト思フデアロウガ、走デ

ムサシイトハ、キ
タナラシキチ云フ

テツペンゴキト
ハ、頂上ヨリタ
キクダストノ意、

モ無い、ナゼナレバ、天花動地、雪竇ムサシイト云へバ、亦一向無形無相ノ虚空躰ヲ是
ト思ヒヤロウガ、其レデモ無い、聞キヤレ、彈指――、ツマハジキシテ、エ、ムサラシ
ク悲シイ有様デヤト、雪竇嫌ヒ捨テタ、然バ一切都テ不是、有リ家ノ知レヌコト思へ
バ、○莫動――、白日青天、目明イテ眠ルナヨ、看タラバ看エ羊程ニ、▲著語▲七穿――、
雪竇何ニモ無イト云ヒヤルガ、七ツモ八ツモ穴ガ明イテ看エル、▲向什麼――、雪竇去
却ト云ハル、ガ、去ル處ハ有ルマイ、ドコへ去郎ノト、坐下ニ氣ヲ付ケタ、▲放過――、
圓悟諸人ノ爲メニ一手見セ羊程ニ、好イ手ガ有ラバ打テ見ヤレ、▲拈不――、イヤ雪竇、
拈得ハ得ナルマイ、這裏ヤリ取リガ有郎カト、坐下ニ氣ヲ付ケタ、▲却不放――、去却ノ
處デハ一手許シタガ、爰デハ許サヌ、何トシテモ手見セ禁止デヤ、▲何似――、然バ何
ニ、似タモノゾ、イヤ別ノコデハ無い、山是山、水是水、東西南北何ノ等匹ガ有郎ゾ、▲
爭奈――、夫レ底ノ境界ヲ得ルモ、圓悟ハテツペンゴキニ仕羊ト、圓悟ノ眼、▲莫問――
――、イヤ諸人、脚跟斗リヲ見テ目鼻ヲ撞キヤルナ、▲難爲――、此ノ境界、中容易デ
ハ當躰シ究メラレヌゾヨ、▲打入葛――、四ノ五ノ云テ、圓悟不覺雪竇ト一處ニ落チ込ダ
ワイノト、圓悟チヨツト轉身ノ働キヲナシタルナリ、▲眼裏――、十方ニ此ノオトヅレ

ハ無い、只目デ見ラル、物デ無い、鼻デ見テ叶フコトナリ、▲野狐――、怪イバケ狐
ノ見解、雪竇ナゼメサル、ゾトナリ、▲依前――、雪竇窠窟ヲ得不出、無事中ニ死在シ
タ、▲腦後――、無事甲裏必死ノ病デ有タガ、此一句デ活キ還タ、▲是什――、思ハヌコ
ガ出来タゾヨ、諸人は什――、▲墮在――、諸人驚クナ、別ナコデハ無い、平生ニアル
コト、替タコデモ無い、▲未出――、諸人餘所目ニ見ヤルナ、聲色ノ窠窟、出頭ハ成ルマイ、
▲足下――、人人足ノ下ニ有ル走ナ、目明ケテ見ヤレ、蓋覆シタトテ何モ成ルマイゾヨ、
▲在什麼――、ドコニ居ルノ、空生ノ有リ家ヲ諸人ハ知テカ、▲不啻――、空生ノ鈍漢、圓
悟勘破シタ、可惜許諸天ニ見テ取ラレタ、▲四方――、盡十方虚空神ノ鼻孔裏ニ向テ、
那一句子ヲ道ヒ將チ來レト、大衆ニ拶シ掛テ、▲在什麼――、即今諸人、何レノ處ガ舜
若多ガ鼻孔裏ゾ、人人自己ノ鼻孔探テ見ヤレ、二ツハ有ルマイ、▲前言――、雪竇前來
ハ、自身彼デモ無ク此デモ無シト、様様云ヒヤツタニ、今亦莫動著トハ、前後相違デヤ
ノ、▲動着時――、何ント有郎、鼻孔ガ横ニモ成ルマイニ、但シ目ガ縦ニモ成郎カノ、
▲自領――、雪竇自分ヲ仕舞テオ出デヤレ、手前動着デヤ、圓悟許サヌ、▲便打、雪竇ニ
當テ、底意ハ、圓悟雪竇ニ成リ代テ、白日青天目明イテ眠ル底ヲビツシリ打タ、

雪竇頌古偏能如此當頭以金剛王寶劍揮一下了然後略露此風規雖然如此畢竟無有二解去却一拈得七人多作算數會道去却一是十五日已前事雪竇蒸頭下兩句言語印破了却露出教人見去却一拈得七切忌向言句中作活計何故胡餅有什麼汁人多落在意識中須是向語句未生已前會取始得大用現前自然見得也所以釋迦老子成道後於摩竭提國三七日中思惟如是事諸法寂滅相不可以言宣我寧不說法疾入於涅槃到這裏覓箇開口處不得以方便力故為五比丘說已至三百六十會說一代時教只是方便所以脫珍御服著弊垢衣不得已而向第二義門中淺近之處誘引諸子若教他向上全提盡大地無一箇半箇且道作麼生是第一句到這裏雪竇露些意教人見備但上不見有諸佛下不見有衆生外不見有山河大地內不見有見聞

惟我之惟、瑞應經
大莊嚴經等
唯ノ字ニ作ル、

覺知如大死底人却活相似長短好惡打成一片一一拈來更無異見然後應用不失其宜方見他道去却一拈得七上下四維無等匹若於此句透得直得上下四維無有等匹森羅萬象草芥人畜着着全彰自己家風所以道萬象之中獨露身惟人自肯乃方親昔日謬向途中覓今日看來火裏冰天上天下惟我獨尊人多逐末不求其本先得本正自然風行草偃水到渠成徐行踏斷流水聲徐徐行動時浩浩流水聲也應踏斷縱觀寫出飛禽跡縱目一觀直饒是飛禽跡亦如寫出相似到這裏鑊湯爐炭吹教滅劍樹刀山喝便摧不為難事雪竇到此慈悲之故恐人坐在無事界中復道草茸茸煙霧霧所以蓋覆却直得草茸茸煙霧霧且道是什麼人境界喚作日日是好日得麼且喜沒交涉直得徐行踏斷流水聲也不是縱觀寫出飛禽跡也不是草茸茸也不是煙霧霧

也、不是直饒、總不恁麼、正是空生巖畔、花狼籍也、須是轉過那邊、始得、豈不見須菩提巖中、宴坐、諸天雨花、讚嘆、尊者曰、空中雨花、讚嘆、復是何人、天曰、我是天帝釋、尊者曰、汝何讚嘆、天曰、我重尊者善、說般若波羅密多、尊者曰、我於般若未曾說一字、汝云何讚嘆、天曰、尊者無說、我乃無聞、無說無聞、是真般若、又復動地雨華、雪竇亦曾有頌云、雨過雲凝、曉半開、數峰如畫、碧崔嵬、空生不解巖中坐、惹得天花動地來、天帝既動地雨華、到這裏更藏去、那裏雪竇又道、我恐逃之逃不得、大方之外皆充塞、忙忙擾擾、知何窮、八面清風惹衣、裊直得淨裸裸、赤洒洒、都無纖毫過患也、未爲極則、且畢竟如何、即是看取下文、云、彈指堪悲、舜若多、梵語舜若多、此云虛空神、以虛空爲體、無身覺觸、得佛光照、方現得身、爾若得似舜若多神時、雪竇正好彈指悲嘆、又云、莫動着、動着時如何、白

日青天開眼、瞌睡、

金剛一、去却拈得ノ句、金剛ヲ一揮スルガ如ク、一切計較分別ヲ截斷スルナリ、▲露些風一、風度規則ノ義、此ハ徐行已トヲ云フ、▲算數一、大惠八ノ字ト作ス類也、▲去却一是十五日一、此ノ下ニ拈得七是十五日一ト云フ句有リ、走ナト云フ説有リ、然レドモ互顯ノ文法、不レ云トモ知レタ、▲不可以言一、佛心ハ一字一畫不レ引、八字ヘツポット不レ引已前、是レ我宗ノ面目、一代藏教ニモ註注シ不レ及處、故ニ佛一、▲我寧願クハノ意、▲淺近、方便説也、▲若教他向一、有情非情一ノ眼ヲ全提セバ、盡大地一箇半箇ノ可レ度衆生何ニモ無イ、亦却如レ啞如レ啞ヲ明クマイト云フ意モ有ルナリ、▲作麼生一、第一句ハ雲門道將來ト云フ一句ナリ、▲大死底一、今日計較情識總ニ截斷シタトキ、行住坐臥一切何ヲスルモ大死底ノ活處、其ノトキ長者ハ長、短者ハ短、一ツモ無レ可レ取無レ可レ捨一切應レ物何デモ無レ異見、▲應用一、何ゾ上下デモ着テ居ル羊ナ、キツトシタコデハ無イ、何デモ其ノ時ノ宜キ様ニ作用スルナリ、▲森羅一、皆人自家ノ風光ナリ、▲火裏一、上ヲ承ケテ、途中ニ求メ廻ツタハ、火ノ中ニテ水ヲ求メタ羊ナ者デヤトナリ、▲逐末一、坐禪ト云フモ、迷ト云フモ悟ト云フ

モ、都テ末、諸聖ノ教ニ由ラントスルモ、皆逐末求外ト云フ者ナリ、眼横鼻直、只鼻
 デイキスルヲ知レトナリ、此ガ本正ト云フ者ナリ、▲風行一、只其儘何ノコモ無イ、
 ▲鑊湯一、此ノ境界ニ至レバ、地獄ト云フモ遊戯ニ味ナリ、▲草草ハ、雜亂ノ貌、鼎
 鼎ハ、物ヲ蓋覆シテ不分明ノ貌也、▲轉過那一、空生ノ處ニモ不レ留、▲雨過一、如
 是見事ナ風景ヲ不知シテ空裏ニ死在シタハ、空生是非モ無イコトヤ、▲吾恐一、一列
 空生ノ藏レ去ル處無キ證據ニ圓悟引キ付ケタ、空見ノ窠窟、難逃トナリ、▲大方ハ、大
 道ナリ、亦大虛ナリ、爰テハ大虛ノ義可ナリ、▲忙忙擾擾、此ノ二句ハ、天花亂墜不レ休
 フ云フ、▲白日一、白日青天ナルニ、外ニ向テ摸リ廻ルハ、目明イテ夢ミル者ノ羊ナ
 一、何ノ役ニカ立タン、

第七則 惠超問佛

▲垂示云、聲前一句、千聖不傳、未曾親覲、如隔大千、設使向聲前
 辨得、截斷天下人舌頭、亦未是性燥漢、所以道天不能蓋地、不能

保一本錄ニ作ル、

載、虛空不能容、日月不能照、無佛處獨稱尊、始較些子、其或未
 於一毫頭上透得、放大光明、七縱八橫、於法自在自由、信手拈來、
 無有不是、且道得箇什麼、如此奇特、復云、大衆會麼、從前汗馬無
 人識、只要重論蓋代功、即今事且致、雪竇公案又作麼生、看取下
 文、

聲前一句一、佛祖一言モ不吐已前ノ那一句ナリ、▲未曾一、見不得ナラバ、如隔
 大千、遠而遠ク思フ、イヤ亦、▲設使一、辨得底ノ禪僧チヤト云フモ、圓悟利發者ト
 ハ許サヌ、故ニ古人云、▲天不一、ト云タモ此ノ那一句ノコトヤガ、諸人、▲無佛一
 一、自己是レ獨尊ナルヲ知テ有郎ナラバ、初テ少分ノ相應ヲ得ント、▲其或一、一毛
 頭上ニ於テ此ノ那一句子ヲ透得シテ自己ノ光明蓋天蓋地、七縱八橫タテザマ、ヨコザマ、
 於レ法信手拈來、無有不是、▲且道一、坐下ノ諸人、此レ何ヲ透得シテ如レ是一切惣
 ニ奇特デハ有ルゾ、▲大衆一、諸人ドウ合點シタゾトハ云フ、▲從前一、法眼ノ此
 ノ公案ノ大意無ニ人識、然ルニ依テ、今日圓悟蓋代ノ功ヲ論ジ、法眼ノ大意大功ヲ露サン

ト思フガ、今日ハ先ヅイラヌ者デヤ、ナゼナレバ、雪竇一、雪竇幸ニ法眼蓋代ノ大功ヲ露ハシ顯出セラレタ程ニ、看取一ト、公案ニ結寄シタ、▲性燥ノ燥ノ字ハ、火邊ニシテ可ナリ、燥ハ、シバラク意利發ナルヲ云フ、

○舉僧問法眼道什麼○惠超咨和尚如何是

佛道什麼○法眼云汝是惠超依模脫出○鏡餞就身打劫

僧問一、諸人高ク眼ヲ着ケテ見ヨ、○惠超咨一、咨トハ言問禪、問ノ字ノ意、○汝是一、ソチハソチデヤハ、諸人佛ノ字ニ轉却セラル、ナヨ、言外ニ出頭シテ見ヨ、計較ヲ絶シ、按排ヲバ付ケヌナリ、▲着語▲道什一、諸人耳ヲ傾ケテ聞キヤレ、好イ聞キ處デヤ、▲擔枷一、自分ト手ガセ首ガセラ擔ギ來テ、自分ト白狀シタ程ニ、心底殘ル處モ有ルマイ、此ノ二著、咨和尚ト云フ下ニ置イテ可ナリ、▲眼睛一、眼玉ヲ突キ出シテ問フタハ、何カ様禪機アリ走才活漢ト見ユタ、▲依模一、惠超咨ト云ハ、其ノ儘脫出シタ、造作ハ無イ、然リ作ラ、▲鏡餞一、諸人嚙ミシメチバ成ルマイ、▲

就身打一、往往身ニ付イテラビヤカスナド、訓シテ、巾着切リ杯ノ羊ニ云ワハ不可ナリ、是ハ恭ノ手ニ打替ト云フ手有り、其ノ意可ナリ、法眼トント打チ込ダテ、惠超打テ探レバ、アトハ法眼ノ物デヤ、法眼能クハ打チ込マレタト云フ著語、

就身打劫、人ノ身ニ就テ物ヲ掠ムル、ヤハリ摸掬ノ意ニテ可ナリ、服天曰ク、打モ劫モ、共ニ奪ヒ盜ムコトナリ、打家劫舍、又賊不打貧兒家等、皆此ノ意ナリト、
法眼、文益禪師、

法眼禪師有、啐啄同時底、機具啐啄同時底、用方能如此、答話所謂超聲越色得大自在、縱奪臨時殺活在我、不妨奇特、然而此箇公案、諸方商量者多、作情解會者不少、不知古人凡垂示一言半句、如擊石火、似閃電光、直下撥開一條正路、後人只管去言句上、作解會、道惠超便是佛、所以法眼恁麼答、有者道、大似騎牛覓牛、有者道、問處便是、有什麼交涉、若恁麼會去、不惟辜負自己、亦乃深屈古人、若要見他全機、除非是一棒打不回頭底、漢牙如劒樹、口似血盆、向言外知歸、方有少分相應、若一一作情解、盡大地是滅胡種族底、漢只如超禪客、於此悟去、也是他尋常管帶參究所

不憤、論語ニ、不憤不發、不悱不啓ト、蓋シ憤悱セザルノ意歟、服天曰ク、不分ナリ、杜詩注解ニ云、不分即不忿也、正是忿意、亦方言里語ナリ、不ハ助辭、強ク言ヒ顯ハス義、故ニ只憤ル意ナリ、俗語ニ、強ク熱スルヲ好不熱ト云ヒ、強ク冷エルヲ好不冷ト云フ、好不大丈夫ト云フモ亦之ニ同シト、又桂師ノ如ク、心中甚ク發憤スレバ、其ノ色ニ顯ハサザルヲ云フト、執レテ果シテ是ナルヤ

ナ知ラズ、

通玄峰、天台山ニアリト云フ、

以一言之下、如桶底脫相似、只如則監院、在法眼會中、也不會、參請入室、一日法眼問云、則監院何、不來入室、則云、和尚豈不知某甲於青林處、有箇入頭、法眼云、汝試爲我舉看、則云、某甲問、如何是佛、林云、丙丁童子來求火、法眼云、好語、恐爾錯會、可更說看、則云、丙丁屬火、以火求火、如某甲是佛、更去覓佛、法眼云、監院果然錯會了也、則不憤、便起單、渡江去、法眼云、此人若回、可救若不回、救不得也、則到中路、自忖云、他是五百人、善知識、豈可賺我耶、遂回、再參、法眼云、爾但問我、我爲爾答、則便問、如何是佛、法眼云、丙丁童子來求火、則於言下、大悟、如今有者、只管瞠眼作解會、所謂彼既無瘡、勿傷之也、這般公案、久參者、一舉便知落處、法眼下謂之、箭鋒相拄、更不用五位君臣、四料簡、直論箭鋒相拄、是他家風如此、一句下、便見、當陽便透、若向句下尋思、卒摸索不着、法眼出

世有五百衆、是時佛法大興、時韶國師久依疎山、自謂得旨、乃集疎山平生文字頂相、領衆行脚、至法眼會下、他亦不去、入室、只令參徒隨衆入室、一日法眼陞座、有僧問、如何是曹源一滴水、法眼云、是曹源一滴水、其僧惘然而退、韶在衆聞之、忽然大悟、後出世承嗣、法眼有頌、呈云、通玄峰頂、不是人間、心外無法、滿目青山、法眼印云、只這一頌、可繼吾宗、子後有王侯、敬重吾不如汝、看他古人、恁麼悟去、是什麼道理、不可只教山僧說、須是自己二六時中、打辨精神、似恁麼與他承當、他日向十字街頭、垂手爲人、也不爲難事、所以僧問法眼、如何是佛、法眼云、汝是惠超、有甚相、辜負處、不見雲門道、舉不顧、即差互、擬思量、何劫悟、雪竇後面頌、得不妨顯赫、試舉看、

碎啄一、師家學人、機機相投、ブルヲ云フ、▲胡種一、佛種族ヲ云フ、▲管帶、只管ノ

意、ヒタスラ帯ビ綱ウテ不ニ指置、參究メサレタ故ニ、時至リ機熟シテ直下ニ悟了、▲不憤、深ク憤レドモ外ニ露ハレヌ羊ニスルヲ云フ、▲起單ハ、手包杯ヲ擔起スル意、▲丙丁童一、盛院ノ語裏ニ依テ云フナリ、是レ眼橫鼻直、只其ノ儘ト云フモ早ヤ役ニ立タヌ、只胸中一點ノ閑事無ク、無分別智ノトキ、丙丁一、眼橫鼻直只是レノナリ、▲彼既無瘡一、個惠超ノ答話、啞喙同時、全ク縫罽無ク瘡ハ無イ程ニ、諸人計較情識ヲ以テ、ソコナヒ敗ルコト勿レトナリ、勿シト訓ズルハ、上ト一意、▲當陽ハ、分明ノ意、▲頂相ハ、偈ヤ頌ノ類、▲是曹一、如何是ノ是ナリ、曹溪根源ノ一滴水チヤ、▲惘然ハ志ヲ失フ貌、▲通玄一、人間デ無クバ何デ有郎ノ、▲吾不レ如儂、果福ハ其方ニ及バヌトナリ、▲顯赫ハ、分明ノ貌、

江國春風吹不起。鷓鴣啼在

深花裏。三級浪高魚化

別調中○豈有恁麼事

消息○文彩已彰

龍。癡人猶辱夜塘水。

門傍戶○粥僧有什
應用處○守株待免

壁○挨

イトトサハ、イト
ドトハ、最チ重チ
タル語ニテ、イヨ
ノ意、サハハ、添
ヘナリ、其レサモ
付ケ加ヘテト云フ
意ノ語ナリ、

初ノ二句、這レ那ノ一句ト可レ看、江國一、イトトサハ、江南國ハ花色麗ハシク、鷓鴣モ多イニ、時更ラ春ノ最中、ノドケキヲリカラ、鷓鴣杯ガ深花裏ニ報ズル底、聞クニ堪ヘ、見ルニ面白イ氣色チヤ程ニ、目持タバ見ヨ、耳アラバ聞ケ、這裏佛法玄妙ノ道理有リヤ、ソチハソチチヤ迄ヨ、此ノ本分ノ那ノ一句子、全ク縫罽無ク、言モ端的語モ端的ノ一句子ナリ、爰ヲ躰得シタ惠超ノ境界ヲ喻ヘテ云ヘバ、三級一、然レドモ云ハウガ、此ノ一句チ亦計較情塵チ以テハカル底ハ、癡人一、萬劫千生ニモ墾ノ明カヌト云ツテ、暗ニ雪竇如レ是云フモ、早ク是レ癡人一、轉身ノ意モ有ルナリ、▲著語▲盡大一、雪竇トコカラ此ノヲトツレハ得ラレタノ、扱テモ好イ消息チヤ、諸人此ノ便リヲ逐ヒハツスナ、▲文彩一、其ノ一句デ今時ノ文彩ガ顯ハレタガ、諸人見タカ、▲喃喃、江南ノ客ナラバ、只一聲デ點頭仕羊者ヲ、▲又被風一、諸人耳ヲ傾ケタ

ラバ、ソリヤ調絲ガ替タゾ、▲豈付一、圓悟承ハラヌガ、走シタコモ有ルカノト、諸人ニ氣ヲ付ケタ、圓悟ソラバケヂヤ、▲通這一、雪竇慈悲八字ニ打開シタガ、諸人此路頭ヲ見テカ、▲莫諱一、化シ去ルコガ有ル者カ、悟タトテ鼻ガ横ニモ成ルマイ、▲蹈着ー、諸人不ニ探放、シツカリト踏ミ留メヨ、▲扶離一、盲目ノ立チズクミ、獨リ立チハ成ルマイ、▲挨門一、内ヲノゾクハ、物ヲ食ル賊徒走ナ、亦物貰ヒノ如ク、門戸ニ立惱ンデモ得マイトナリ、言句上テ求ムルモ亦然リ、▲衲僧一、恁麼ノ働キ、衲僧ノ骨格ハ無イゾヨ、▲守株一、諸人夫レテ免ヲ得ルコハ成ルマイゾトナリ、

雪竇是作家於古人難咬難嚼難透難見節角請訛處頌出教人見不妨奇特雪竇識得法眼關楸子又知惠超落處更恐後人向法眼言句下錯作解會所以頌出這僧如此問法眼如是答便是江國春風吹不起鷓鴣啼在深花裏此兩句只是一句且道雪竇意在什麼處江西江南多作兩般解會道江國春風吹不起用頌汝是惠超只這箇消息直饒江國春風也吹不起鷓鴣啼在深花

裏用頌諸方商量這話浩浩地似鷓鴣啼在深花裏相似有什麼交涉殊不知雪竇這兩句只是一句要得無縫無罅明明向汝道言也端語也端蓋天蓋地他問如何是佛法眼云汝是惠超雪竇道江國春風吹不起鷓鴣啼在深花裏向這裏薦得去可以丹青獨步爾若作情解三生六十劫雪竇第三第四句忒煞傷慈為人一時說破超禪師當下大悟處如三級浪高魚化龍癡人猶辱夜塘水禹門三級浪孟津即是龍門禹帝鑿為三級今三月三桃花開時天地所感有魚透得龍門頭上生角昂鬚鬣尾擎雲而去跳不得者點額而回癡人向言下咬嚼似屏夜塘之水求魚相似殊不知魚已化為龍也端師翁有頌云一文大光錢買得箇油糍喫向肚裏了當下不聞飢此頌極好只是太拙雪竇頌得極巧不傷鋒犯手舊時慶藏主愛問人如何是三級浪高魚化龍我也不必

大光年號

慶藏主、圓悟ノ同參

在我且問、爾化作龍去、即今在什麼處、

節角一、云ヒ認リノ有リ走ナ處ヲ云フ、▲傷慈ハ、慈悲甚キヲ云フ、▲一文大一、寬永通寶デモ永樂デモ無イ、何ニ錢デ有郎ノ、此レ本分ノ那一子ナリ、▲不必トハ、圖悟ナラバ走ハ問フマイ、▲即今一、サア諸人云ツテ看ヨ、人人鼻孔裏ヲ摸テ見ヤレ、

第八則 翠嶺眉毛

▲垂示云、會則途中受用、如龍得水、似虎靠山、不會則世諦流布、抵羊觸藩、守株待兔、有時一句、如踞地獅子、有時一句、如金剛王寶劍、有時一句、坐斷天下人舌頭、有時一句、隨波逐浪、若也、途中受用、遇知音、別機宜、識休咎、相共證明、若也、世諦流布、具一隻眼、可以坐斷十方、壁立千仞、所以道大用、現前不存、執則有時、將一莖草、作丈六、金身、用有時、將丈六、金身、作一莖草、用、且道、憑箇什麼、道理、還委麼、試舉看、

會則一、待免迄ハ學人ノ會ト不會トヲ論ス、世諦一トハ、自己ヲ失テ言句ニ轉却セラ、ル、ヲ云、▲有時一句如踞一、逐浪迄ハ師家爲人ノ作略ヲ云、▲若也途一、證明迄ハ師學相見ノ上、互ニ此事ヲ證明スルコトヲ云フ、▲若也一、世諦流布底ニ遇フ片ハ、十方一時ニ截斷シテ、學人近付クコトノ成ラヌ程ニ、壁立萬仞ニスベシ、故ニ師家ノ手段、大用現前不存規則、是非得失スツベリ掃蕩シテ働ク、▲有時將一、自由三昧ノ働キヲ作スコトデヤガ、何ノ道理ニ依テコウデハ有ルゾ、翠岩眉毛ノ話ヲ舉ル程ニ答ニセヨ、然ラバ如上ノ活三昧ヲモ得羊一ゾト、▲作丈六一ハ放行、作一莖一ハ把住ナリ、

○舉翠嶺夏末示衆云、一夏以來爲兄弟

說話、看翠嶺眉毛在麼、

了○入地、保福云、作賊人心虛、長慶

作賊人心虛、服天曰、此虛、虛偽ノ義ニ非ズ、又虛無ノ義ニモ非ズ、乃チ虛法ノ義ナリ、虛法トハ、俗ニ云フ臆病ノコトナリ、是レ賊ハ、平日惡事ヲ働キシガ故、物事ニ付ケテ自ラ

腹スル所アルナリ、ト、又曰ク、是レ翠岩一夏ノ間、本分ニ叶ハヌ落紳ノ談ヲセラシ故、底意ニ氣味アシク、若シ箇ノ漢有テ點檢ニ違ハバ如何ト思ヒ、先ヅ自ラ懺悔シテ、眉毛アリヤトナリ、故ニ保福云ク、其ハ賊ヲ作シ、人ナレバ、心腹シテノコトナラント、亦一脱ナ

云生也。

舌頭落_ツ地_ニ。將_チ錯_ル就_ル錯_ル。果然。

雲門云關。

走_リ在_リ什麼_ノ處_ニ去_ル。天下_ノ衲僧_ハ跳_キ不出_ス。

○敗也。

翠岩一、諸人何ント腹ハ立タヌカ、今諸人ニ向テ我鼻ハ有ルカト問ウテ看ヨ、何ント云フカノ、自分ガ鼻、自分ガ眉ノ有ル無キヲ知ラヌト云フ、ガ有ル者カ、此レ程知レタ_ラデヤ、然レドモ眉毛有リヤト云ヘバ、早ヤ佛法中ニ有テ、兎ヤ角ト理屈ヲ付クル故ニ、公案ノ本意ヲモ失スル也、法鼻イ、一點モ無ク、格外ニ超越セテバ不知_ル、ナゼカ、一代藏教ニモ詮注シ及バヌ處ノ一句、德山ノ棒臨濟ノ喝ニ勝レタ向上ノ作略デヤ、桂和尚ノ着語ニ、他是普州ノ人ト、翠岩大ドロボウデヤ、此ノ話佛見法見ヲ不立、格外ニ出頭シテ看ヨ、眼橫鼻直、翠岩ノ謾ヲ受クマイトナリ、○保福曰作一、截斷翠岩脚跟、知タドウシハ、ス、シイ、○長慶一、ド、ヘ生ジタノ、諸人ノ鼻先キカノ、○雲門一、這箇ノ一關、雞鳴狗吠デハ透レヌ、イヤ亦千佛萬祖モ透不得、銀山鐵壁デヤ、▲著語▲開口一、翠岩開口テ何ニヤラ云ヒヤルガ、此事ニオイテハ說不得ナラン、恁

麼トハ是レ何ノコゾ、▲只贏一、イヤ翠岩眉毛眼睛スツベリ見エヌ、イヤ亦眼睛斗リデナイ、鼻モ失却セラレタ程ニ、翠岩無面目トナラレタノ、此ノ二著語、諸方見謬テ眉鬚墮落ハセヌカ看ヨ杯ト邪解スルハ、散散ナ_ラデヤ、▲入地獄一、地獄ハオソロシイ者カノ、地獄天堂相去ル_ル多少ゾ、▲灼然一、保福云ヒヤル通り、全クウソハ無イ、分明ナ云ヒ分チヤノ、▲是賊一、イヤ保福モ賊仲間ノ同類デヤ、▲舌頭一、長慶云ヒ過キタ、舌ガ抜ケタハ、▲將錯一、翠岩長慶都テ錯、▲果然、テツキリ長慶ガ走云ハレ羊ト思フタ、▲走在一、翠岩此ノ關ヲ透ル_ル不_レ成、ドコヘモニゲル處ガアルマイ、翠岩計リテ無イ、天下ノ衲僧モ透不得、圓悟モ兼_テ身在_リ内、▲敗也、トハ云フタ、早ヤ關ガ敗レタ程ニ、諸人欲_シ透セバ透テ看ヨトナリ、

古人有_リ晨參暮請_シ翠岳_ニ至_リ夏末_ニ却_テ恁麼_ニ示_ス衆_ヲ然而_モ不妨_ニ孤峻_ニ不妨_ニ驚_ル天_ノ動_ル地_ノ且_モ道_ハ一大藏教_ニ五千四十八卷_ヲ不免_ス說_ク心_ノ說_ク性_ノ說_ク頓_ノ說_ク漸_ノ還_ル有_リ這箇_ノ消息_ヲ麼_ニ一等_ニ是_レ恁麼_ノ時節_ヲ翠岳_ニ就_テ中_ニ奇特_ニ看_ル他_ノ恁麼_ノ道_ヲ且_モ道_ハ他_ノ意_ヲ落在_ル什麼_ノ處_ニ古人_ハ垂_テ一_ノ鈎_ヲ終_ニ不_レ虛_ニ設_ク須_ニ是_レ有_リ箇_ノ道理_ヲ

爲人、人多錯會道、白日青天、說無向當話、無事生事、夏末先自說、過先自點檢、免得別人點檢他、且喜沒交涉、這般見解、謂之滅胡種族、歷代宗師出世、若不垂示於人、都無利益、圖箇什麼、到這裏、見得透、方知古人有驅耕夫之牛、奪亂人之食、手段如今、人間著、便向言句下、咬嚼、眉毛上、作活計、看他屋裏人、自然知他行履處、千變萬化、節角聲訛、着着有出身之路、便能如此、與他酬唱、此語若無奇特、雲門保福長慶三人、啞啞地與他酬唱、作什麼、保福云、作賊人心虛、只因此話、惹得適來說許多情解、且道、保福意作麼生、切忌向句下覓他、古人、倘若生情起念、則換個眼睛、殊不知保福下一轉語、截斷翠岳、脚跟、長慶云、生也、人多道、長慶隨翠岳、脚跟轉、所以道、生也、且得沒交涉、不知長慶自出他、見解、道生也、各有出身處、我且問、爾是什麼處、是生處、一似作家面前、金剛王寶

劍直下、使用若能打破、常流見解、截斷得失是非、方見長慶與他酬唱處、雲門云、關不妨奇特、只是難參、雲門大師多以一字禪示人、雖一字中、須具三句、看他古人臨機酬唱、自然與今時人迥別、此乃下句底樣子、他雖如此道、意決不在那裏、既不在那裏、且道在什麼處、也須子細自參、始得、若是明眼人、有照天照地、底手脚、直下八面玲瓏、雪竇爲他一箇、關字、和他三箇、穿作一串、頌出

說心——諸方說心、深イノ、說性ハ淺イノト論スルカ、畢竟自己ニ歸シテ看ヨ、深イ者カ淺イ者カ、△還有這箇——此公案、一代藏教ニモ說不得ノ一着ナリ、△圖箇什——垂示說法、師家ノ持量、△眉毛上作——八字ニ打開シタ迄ヨ、眼上ニ横タ迄ヨ、別ニ何ニモ無イ杯ト云フ、法鼻イニ依テ鼻持チガ成ラヌトナリ、△節角——多クハ節目云ヒ謬リ走ナ處ニオイテ、千變萬化出身ストナリ、△啞啞地デハ義不穩、疑ラクハ吧吧地ナラン、字相ノ近キガ故ニ謬レルカ、△因此語惹——言句ニ轉セラレテ、如前無事ニ生ノ事等ノ謬解ヲ成スナリ、

翠品示徒。

這老賊○教壞人家男女。

千古無對。

千箇萬箇○也。有二三箇半箇○。

分一關字相酬。

不信道○不妨奇特○。若不信道○是恁麼人方解恁麼道。

失錢遭罪。

飲氣吞聲○雪竇也。不少○和聲便打。

潦倒保福。

同行同伴○猶作這去就○兩箇三箇。

抑。

揚難得。

放行把住○誰是同生同死○。莫謗他好○且喜沒交涉。

嘮嘮翠品。

這野狐精。

合取分明是賊。

道著也不妨○捉敗了也。

白圭無玷。

還辨得○天。

下人不誰辨真假。

多只是假○山僧從來無眼○碧眼胡僧。

長慶相諳。

是精識○須是他始得○未得一半在。

眉毛生也。

在什麼處○從頂門上至脚跟下○一莖草也無。

潦倒、是反切、老ナリ、服天曰夕、潦倒ニニ義アリ、一ハ蘊藉ノ貌、二ハ老羸ノ貌、今ハ次ノ抑揚難得ノ句ニ望メテ見レバ、蘊藉ノ貌ナリト、桂師ノ解亦然リ、但シ蘊藉ナル貌ニハ、自ラ老者ノ態度アリ、故ニ亦老羸ノ義モアルナリ、方詁解之ヲ詳ニセリ、
ボンノクホトハ、頭ノ中央ノ窪ミタル處ヲ云フ、方言亦トソノクホトモ云フ、

翠品一、眉毛有也。此一句、千古萬古對當ノ者無シ、三世諸佛歷代ノ祖師モ此一句ニ對スルヲ不得、德山ノ棒臨濟ノ喝モ難及、唯々雲門ノ關最モ相對シテアル程ニ、關字相酬、○失錢一、誰カ失錢テ有郎ノ、雪竇見來レバ、雲門ノ關ト云フモ早ヤ佛法臭イ、元來不可ニ以言宣處ニ設レ説バ、悉ク失錢一、學人ノ爲ニ錢ヲ失テ、謗法ノ罪過彌天、然ラバ翠岩保福長慶、イヤ亦三世ノ諸佛歷代ノ祖師モ都テ失錢一トナリ、○潦倒一、オンボリト、モツタイラシクシテ、保福作賊一ト云ヒヤツタガ、翠岩ヲ抑揚シタ者カ、自己ヲ抑揚シタ一カ、但シ長慶ヲ抑揚シタ者カ、雲門ヲ抑揚シタ者カ、天下ノ衲僧更ニ見不得テヤ程ニ、抑揚難得、○嘮嘮一、嘮嘮ト多言ニ何ヤラ云ヒヤルガ、分明是賊、但シ雪竇何ヲ盜ダノ、諸人着レ眼看ヨ、イヤ亦此一句、一點ノ瑕翳無キ珠玉ノ如クテ有ルガ、誰テモ辨得シ見テ探ル底ガ無イ程ニ、誰辨一ト云ヒ了テ、長慶相諳、好ク此ノ一句ヲ知ラレテ有ル、然ルニ依テ眉毛生也、坐下ノ諸人、鼻頭ニハエタカ、ボンノクボニハエタカ、但シ人人脚跟下ニノミハエテ有ルカ、其ノ端的看ヨトナリ、△着語△道老一、諸人持タ物盜マル、ナヨ、△教壞一、示スト云フ字ニ當テ、翠岩必ス人ノ善心ヲソコナイメサル、ナヨ、△千箇一、雪竇千古ト云ヒヤルガ、千箇萬箇ノ内ニ、

一箇カ半箇、有ルマイ者デモ無イニ、餘リ指シ過ギタ云ヒ分ヂヤト、圓悟底鼻孔カノ、分一、然リ乍ラ竹打チワツタ羊ナ、眞實ナ云ヒ分ヂヤ、不信一、圓悟前評ニ云ツタコヲ、諸人ハ不聞而居ルカノ、甚ダ奇特ト褒メテ置イタハトナリ、若是恁麼一、雲門如キノ人デ無クンバ、如是ハ云ハレマイ、吞氣一、圓悟モ吞氣吞聲デハゴザラヌカ、雪竇一、ソリヤ以テ參タト云ヒモ果サハルニ、ヒツシト打タ、同行一、此ノ立チ振舞、賊仲間ノ寄り合ヒヂヤ、諸人油斷スルナ、何レモ優劣ハ無イ程ニ、兩箇一、盜賊仲間ノ物語リヂヤ、放行一、保福好イ働キヂヤ、何ント諸人、兩手完全ノ衲僧モ有ルカノ、誰是一、保福ト同死同生ノ者、吾坐下ニモ有郎カノ、莫誇一、雪竇他ヲ誇リヤルナ、何ノ難得トカアラン、且喜一、抑揚難得、諸人寄テモ付クマイ、見テ探ルコモナルマイトナリ、這野一、翠岩バケ者、口ガ臭クテ鼻持チガ成ラヌ程ニ、合取口好、道着一、雪竇賊ト云ハル、ガ尤ヂヤ、妨ゲハ無イ大賊、圓悟モ逃ス者デハ無イ、捉敗了、還辨一、諸人此ノ白圭ヲ見テ探タカ、此レ何ノ摸樣ゾ、天下一、諸人直打チガ成レバ買ヒ探テ見ヤレ、現金アラバ好イ買ヒ物ヂヤ、多只一、似セ者ガ多イ、能ク辨シテ看タラバ好郎トナリ、山僧一、圓悟モ眞假ヲ

ウナ撞キ合、一本
ウナツキ合ヒニ作
ル、
ウナハ、項、ウナツ
ナリ、

辨ズル眼ガ無イ、イヤ碧眼ノ達磨ガ玉ノ目キ、上手ヂヤ程ニ、頼ンデモ見羊コカノ、是精一、バケ者仲間ノウナ撞キ合セシ走ナ、須是一、外別ニハ在リ走モ無イ、未得一、圓悟ニ諸人、シリモ不働、バカサル、ナヨ、此レヲ師家ノ弄處ト云フナリ、在什麼一、諸人ドコラニ生エタゾ、急ニ着眼ヨ、頂門一、頭ノテツパンカラ足ノ下迄、一本モ見エヌ、圓悟ハ生エ處モ違ヒ、又見羊モ違フタ、

雪竇若不恁麼慈悲頌出令人見爭得名善知識古人如此一一皆是事不獲已蓋爲後學著他言句轉生情解所以不見古人意旨如今忽有箇出來掀倒禪床喝散大衆恠他不得雖然如此也須實到這田地始得雪竇道千古無對他只道看翠岳眉毛在麼有什麼奇特處便乃千古無對須知古人吐一言半句出來不是造次須是有定乾坤底眼始得雪竇著一言半句如金剛王寶劍如踞地獅子如擊石火似閃電光若不是頂門具眼爭能見他古人落處這箇示衆直得千古無對過德山棒臨濟喝且道雪竇爲

一本、在ノ字ナシ、

人意、在什麼處、爾且作麼生、會他道、千古無對、關字相酬、失錢遭罪、這箇意如何、直饒是具透關底眼、到這裏也、須子細始得、且道是翠岳失錢遭罪、是雪竇失錢遭罪、是雲門失錢遭罪、倘若透得許汝具眼、潦倒保福、抑揚難得、抑自己、揚古人、且道保福在什麼處、是抑什麼處、是揚、揚翠岳、分明是賊、且道他偷什麼來、雪竇却道是賊、切忌隨他語脈、轉却到這裏、須是自有操持、始得、白圭無玷、頌翠岳大似白圭、相似更無些瑕翳、誰辨真假、可謂罕有人辨得、雪竇有大才、所以從頭至尾、一串穿却、末後却方道、長慶相諳、眉毛生也、且道生也在什麼處、急着眼看、

如今忽有箇「一」字、不穩、何故故、末二德山臨濟ノ棒喝モ不及ト有ルガ故ニ、雖然強テ義理ヲ付ケテ助ケテ見バ、掀倒禪床、喝散大衆、スル作略有レドモ、怪ミ奇特トスルコト得ズト云フ意ニセバ可ナリ、但シ本文ノ時ハ、此意デハ非ナリ、▲雖然如

「一」、上件ノ活淡ト云フモ、實ニ此ノ四木老ノ田地ニ至テ始テ得ント、義理ヲ替ヘテ見レバ可ナリ、本文ノ「ハ」、空腹デ有ノ働ヲ作サバ役ニ立タヌトナリ、▲造次ハ、カリソメト云フ意、▲抑自己「一」、抑揚ノ二字ヲ影略互顯スルナリ、且道「一」ノ下ニ在ト云フ字アリ、衍字カ、亦恐クハ恁麼處ト云フ三字缺語カ、不穩、此レ私ノ意ナリ、▲操持ハ操履持行ノ意ナリ、

第九則 趙州四門

▲垂示云、明鏡當臺、妍醜自辨、鑊錮在手、殺活臨時、漢去、胡來、胡來、漢去、死中得活、活中得死、且道、到這裏、又作麼生、若無透關底眼、轉身處、到這裏、灼然不奈何、且道、如何、是透關底眼、轉身處、試舉看、

明鏡「一」、明眼ノ善知識、學人ノ善惡ヲ辨スルコト、喻ヘバ明鏡「一」自ラ辨スルガ如ク、亦鑊錮ノ一劔手ニ有ルガ如ク、殺ソウモ活ソウモ、臨時デ自由自在デヤ、▲漢去「一」、師

學雙舉也、去來スルハ學人、去來セシムルハ師家ナリ、△死中一モ同意ナリ、如是ノ作略有ラバ、何トシタ者ゾ、只デハ成ルマイ、透關ノ眼ヲ具シ、轉身自在ノ漢デ無クンバ、分明ニ埒ハ明クマイガ、諸人ハ何ント云テ見ヤレ、若不_レ成バ、今日趙州四門ノ話ヲ舉クル程ニ、子細ニ試ヨ、此話ヲ透得セバ、透關底ノ眼轉身ノ處ヲ得羊_一ゾト、公案ニ結寄シタ、

○舉僧問趙州如何是趙州

河北河南○總說不若○爛泥裏有刺○

不在河南
正在河北

州云東門西門南門北門

開也○相
罵饒○爾接

箭、相唾饒、爾潑水○見成
公案○還見麼○便打

東門西門ト、四方八面、ヲツ開テ遮欄ヲ絶シタ、馬モ透リ牛モ透リ、少シモ藏ス處無イト云フモ、坐頭ノ導キ、足元ガ見エヌデモ有郎ガ、人天ハ豎畜生ハ横、只其儘ノ四門、透リタイ者ハ透リヤレ、▲著語▲河北ト、河北カ河南カスツキリ道筋ガシレヌゾヨ、

見成公案、服天曰ク、見ハ現ニ同シ、現成トハ、現今成就ノ義、故ニ今ハ、趙州ノ四門ガ、取リモ直サズ其ノ儘現成ノ公案ナリト、固ヨリ然リ、

▲惣一、何トモ合點ノユカヌ問頭デヤ、諸人ハ會シタカ、▲爛泥一、諸人此問頭、ウツカリト見ヤルナ、亂リニ足ガ下サレヌ、這ノ僧クセ者デヤ、▲不在河南一、下ニ掛ル、定テ趙老ノ答話モ、亦不在河南、在河北、諸人右ヲ見左ヲ見バ、夫レ目鼻ヲツクゾヨ、▲開也、ソリヤ四門一時ニ開ケタハ、諸人ドレカラナリトモ透テ見ヤレ、▲相罵一、諸人シカラバシカレ、謗ラバ謗レ、趙州ハ少シモ頓著ハセヌゾ、快活廣大ナ量デヤ程ニ、乍然、▲現成一、諸人何ント見得シタカト云ヒモ不_レ果、便チ打ツ、現成公案、見ト云フモ不見ト云フモ三十棒、許サヌ圓悟ノ棒頭デヤ、

大凡參禪問道、明究自己、切忌揀擇言句、何故不見趙州舉道、至道無難、唯嫌揀擇、又不見雲門道、如今禪和子、三箇五箇聚頭、口喃喃地、便道這箇是上才、語句那箇是就身處、打出語、不知古人方便門中、爲初機後學、未明心地、未見本性、不得已而立箇方便、語句如祖師西來單傳、心印直指、人心見性成佛、那裏如此葛藤、須是斬斷語言、格外見諦、透脫得去、可謂如龍得水、似虎靠山、久

參先德有見而未透透而未明謂之請益若是見得透請益却要語句上周旋無有疑滯久參請益與賊過梯其實此事不在言句上所以雲門道此事若在言句上三乘十二分教豈是無言句何須達磨西來汾陽十八問中此問謂之驗主問亦謂之探拔問這僧致箇問頭也不妨奇特若不是趙州也難抵對他這僧問如何是趙州趙州是本分作家便向道東門西門南門北門僧云某甲不問這箇趙州云爾問那箇趙州後人喚作無事禪賺人不少何故他問趙州州答云東門西門南門北門所以只答他趙州爾若恁麼會三家村裏漢更是會佛法去只這便是破滅佛法如將魚目比況明珠似則似是則不是山僧道不在河南正在河北且道是有事是無事也須是子細始得遠錄公云末後一句始到牢關指南之旨不在言詮十日一風五日一雨安邦樂業鼓腹謳歌

古人永嘉ノ眞覺大師

謂之太平時節謂之無事不是拍盲便道無事須是透過關楸子出得荆棘林淨裸裸赤灑灑依前似平常人由爾有事也得無事也得七縱八橫終不執無定有有般底人道本來無一星事但只遇茶喫茶遇飯喫飯此是大妄語謂之未得謂得未證謂證元來不會參得透見人說心說性說玄說妙便道只是狂言本來無事可謂一盲引衆盲殊不知祖師未來時那裏喚天作地喚山作水來爲什麼祖師更西來諸方陞堂入室說箇什麼盡是情識計較若是情識計較情盡方見得透若見得透依舊天是天地是地是山水是水古人道心是根法是塵兩種猶如鏡上痕到這箇田地自然淨裸裸赤灑灑若極則理論也未是安穩處在到這裏人多錯會打在無事界裏佛也不禮香也不燒似則也似爭奈脫體不是纔問著却是極則相似纔拶著七花八裂坐在空腹高心處

大王、便子趙王、南禪師、黃龍ノ懸南、

下四種、四種或ハ四趣ノ意カ、然ラバ地獄、餓鬼、畜生ノ三ニ、修羅ノ一ニテモ加フル者ナラン、抑々四種ノ義廣シ、略記セバ左ノ如シ、
一、四種心、竝利陀耶ハ肉團心、緣

及到臍月三十日喚手搥胸、已是遲了也、這僧恁麼問、趙州恁麼答、且道作麼生摸索、恁麼也不得、不恁麼也不得、畢竟如何、這些子是難處、所以雪竇拈出來、當面示人、趙州一日坐次、侍者報云、大王來也、趙州矍然云、大王萬福、侍者云、未到和尚、州云、又道、來也、參到這裏、見到這裏、不妨奇特、南禪師拈云、侍者只知報客、不知身在、在帝鄉、趙州入草求人、不覺渾身泥水、這些子實處、諸人還知麼、看取雪竇頌、

上才語トハ、學才上ノ言句チヤ、文字麗ハシク見ユルコト、詩作り坊主ノ云フコトナリ、自己元來不立文字ナルコトヲ不知、古人一切ノ言句、悉ク方便說ナルコトヲ不知、故ニ様様ニ解領スルナリ、▲就身一、身處即チ自己本分ニ付イテ云フタ句チヤ、杯ト云フナリ、▲心地トハ、心ヨリ外ニ法無シ、上如來地ニ至ルモ心一ツナリ、下四種ニ墮スルモ心一ツナリ、地ハ萬物ヲ生スル者ナリ、故ニ假リテ用フ、一心上ニ無量ノ善惡ヲ生ズル義、▲如龍得一、到ル處威氣ヲ増ス也、▲見而未透一、アラマシ見ハスレドモ、實ニ透得

虛心ハ即チ八種識(眼、耳、鼻、舌、身、意、末那、賴耶)實多ハ即チ染起心、乾栗狀ハ堅實心、二、四種我、凡夫ノ妄計ト、外道ノ神我ト、三乘ノ假我ト、法身ノ真我ト也、
三、四種天、世間天(國王)、生天(四王非想)淨天(五果人)義天(十住等)四、四種生、卵ハ依殼而起、胎ハ含藏而出、濕ハ假潤而興、化ハ無而忽有、等、

セザル底、初入ニモ不レ至者ノ請益參究スルナリ、▲若是見得透一、此事了畢シテモ、言句等ノ諸事ニ滯ルコト有リ、夫レヲ除却シテ周旋一、ドツコニモ障リ無ラン爲ニ請益シ、▲疑滯一、疑滯ニ作タ本モ有リトナリ、▲久參請一、此事了畢シテ無碍自在底ノ者ニハ、與レ賊過梯、却テ寄り付キ難イ羊ニ上テニ揆抄スルナリ、▲汾陽一、是ヨリ常則ノ評ナリ、▲抵對一、抵ハ丁、アタルナリ、▲答他趙州トハ、趙州城ヲ答ヘタトナリ、▲山僧道一、前ノ着語ニ云フナリ、▲拍盲、手扣キ目クラノ儘デ居ルヲ無事トハ云ハヌ、一度透得シテ元ト山元ト水ト成タトキ無學太平ナリ、▲大妄語ハ、空腹高心ヲ云フ、▲那裏喚天一、已前モ天ハ天地ハ地ナレドモ、只其ノ儘ガ是レデ無ケレバコソ西來シタ者デアレ、▲依舊天一、一度透得シテ如是ニ成ラテバ、本當デハ無イトナリ、▲纒問著一、初ハ本當ラシケレドモ、▲斐然ハ、驚ク貌、萬福ハ御目出度ト云フ義ナリ、

句裏呈機劈面來。○ 鱖魚行水濁。○ 莫謗趙州好。 爍迦羅眼

絕塵埃。○ 撒沙撒土。○ 莫帶累。○ 趙州。○ 擲天摸地。○ 作什麼。 東西南北門相

對。

開也。○那裏有許多門。○背却趙州城向什麼處去。

無限輪鎚擊不開。

是自

備輪鎚不到。○開也。

轟隆ハ、字彙ニカ
ヲ作ス貌ト見ユ、
然レドモ俗ニ言フ
ガ儘、ヒイキト書
キシナラン、
ホウツキ廻ルトハ
ウロクヘ飛ビ廻ハ
ルトノ便言歟、

句裏一、師學互ニ含機處有ル故ニ、趙州這僧ヲ此一句ニ舉ルナリ、二句ハ趙州ノ境界寸塵不立、喻ヘバ明鏡ノ當臺ガ如クチャ、扱テ東西一、人人何ント透得シタ者ゾ、諸人此ノ門ヲ透レヨ、乍然無限一、直饒ヒ三世諸佛天下ノ衲僧モ曾テ透不得、打テモ扣イテモ開クコナルマイ、▲著語▲響、此僧言中ニ響アリ、▲魚行一、不問這箇趙州、ソリヤ蹤迹ガ露ハレタ、▲莫謗一、此僧必ズ趙州ヲ謗リバシ仕ヤルナ、▲撒沙一、雪竇其ノ取り成シデ、土沙振リ散ラシタコ、磔迦一ト云フモ、趙州ノ眼ニハ土沙デオヂアルゾヤ、▲莫帶一、雪竇ヒイキノ引キ倒シ、還テ趙州ヲ累ハスト云フ者チャ、▲撈天一、諸人目明イテ居ナガラ、天地ヲ探リ廻ルハ氣ノ毒ナコ、其レデ何ントシテ得羊ゾ、▲開也、圓悟ガ開イタガ、諸人透テ看ヨ、▲那裏一、諸人動クナ、チジムクナ、ヤツバリソゴニ居ヨ、▲背却一、諸人ドコニホウツキ廻ハルゾ、チツトコテラヘ向キヤレ、外ニハ有ルマイ、▲自是一、雪竇、ソレハ自ラ開キ得スト云フ者チャ、ソリヤ其方ノ及バヌカラノコ、何ノ難開コカ有ン、▲開也、圓悟杯ハ、ソリヤ見タカ、開ケタハ、諸人透ラバ透レ、人人脚跟下ヲ見ヨトナリ、

趙州臨機一似金剛王寶劍擬議即截却爾頭往往更當面換却爾眼睛這僧也敢將虎鬚致箇問頭大似無事生事爭奈句中有機他既呈機來趙州也不辜負他問頭所以亦呈機答不是他特地如此蓋為透底人自然合轍一似安排來相似不見有一外道手握雀兒來問世尊云且道某甲手中雀兒是死耶是活耶世尊遂騎門闥云爾道我出耶入耶一本云世尊擊起拜此話便似這公案古人自是血脈不斷所以道問在答處答在問處雪竇如此見得透便道句裏呈機劈面來句裏有機如帶兩意又似問人又似問境相似趙州不移易一絲毫便向他道東門

西門南門北門、燦迦羅眼、絕塵埃、此頌趙州人境俱奪、向句裏呈機、與他答、此謂之有機、有機、纔轉便照、破他心膽、若不如此、難塞他問頭、燦迦羅眼、者是梵語、此云堅固眼、亦云金剛眼、照見無碍、不唯千里明察、秋毫亦乃定邪、決正、辨得失、別機宜、識休咎、雪竇云、東西南北門相對、無限輪鎚擊、不開、既是無限輪鎚、何故擊不開、自是雪竇見處如此、爾諸人又作麼生、得此門、開去、請參詳看、

特地トハ故ニトナ

特地トハ、カリソメ容易ノ意、趙州只任口テ云フニ非ズ、十八歳ニシテ破家散宅シ、

修行功極到リ得テ云フ、故ニ如是テヤトナリ、▲有機有機、趙州ノ作略ヲ褒ムルナリ、

▲參詳、更ニ參セヨ三十年、

第十則 陸州掠虛

▲垂示云、恁麼恁麼、不恁麼不恁麼、若論戰也、箇箇立在轉處、所

以道若向上轉去、直得釋迦彌勒、文殊普賢、千聖萬聖、天下宗師、普皆飲氣吞聲、若向下轉去、醯雞蠅蠹、動合靈、一一放大光明、一一壁立萬仞、儼或不上不下、又作麼生、商量有條、攀條、無條、攀例、試舉看、

恁麼恁麼、到這裏、凡聖師學若論戰而法戰一場、箇箇立一、見機作、隨時宜、轉身自在、二働クナリ、▲若向上ニ轉ズル則バ、釋迦一、吞氣吞聲、下レ皆ニ處無ク、キツトモ云ハセヌ峻峻ノ作用ヲナス、▲若向下一、ウゴメク蟲類、土木瓦礫迄、大光明ヲ放ツテ、一一壁立千仞、ナラシムルナリ、喩ヘバ清淨本然云何、忽生ノ如ク、丙丁童子來求火ノ如ク、直下ニ大光明ヲ放タシム、▲有條一、一代藏教ニモ説テアラバ夫ニ從フカ、若無クンバ例ニ依テ行クガ好イ、幸ニ陸州ノ行處、不上不下ノ處ヲ能ク働カレタ程ニ、諸人看ヨト公案ニ結寄シタ、

○舉陸州問僧近離甚處

探竿影草

僧便喝

作家禪客○且

莫詳明頭ナラト○州云老僧被汝一喝カフセ。陷虎之機○僧ソウ

又喝カフス。看取頭角チ○似則似是則ナラト。州云三喝四喝後カフ

作麼生サレ。逆水之波ハ○未嘗有ナラ一僧無語ムコト。果然摸カフ州便スナハト

打云ウチ。若使陸州盡令而行セ。盡セ。這掠虛頭漢コソ。放過スレハ一着チ

掠虛頭、躁急ノ意、

近離チ。ドコカラキヤツタ、○老僧被レ。老僧オビタ、シク爾ニシカラレタノ、○此掠虛チ、キヨトウモノ、空腹高心ノカラハラ外道デヤト慚ツカシメタ、▲著語▲探竿チ、先ツ此ノ僧ヲ勘辨シタ、▲作家チ、此一喝何ニ機會解僧ラシイ、▲莫詐チ、一恐クハ此僧似セ悟リ走ナ、圓悟合點セヌ、▲也解チ、乍然此僧只者デハ無イ走ナ、一喝當陽ノ働キ見事ラシイ、▲陷虎チ、睦州エセラシイ云分デヤ、▲猻人チ、此僧チ戲弄シ、ナブリ者ニシテ何ニメサルゾ、▲看取チ、諸人能ク看ヨ、真ノ活龍カ、先ツ

ソテ無イトハ、左
様アハ無イトノ約
旨、

コハクハ、恐怖ノ
方言、

頭ガチニハイ出タガ、イヤ▲似チ、脱躰ニハ未ダソデ無イ、圓悟見テ取タ、真ノ活龍デハ無イ、▲逆水チ、今迄ハ睦州順水ニ楫ヲ取ラレタガ、扱テコソ逆水ヲ洒ギ掛ケラレタレ、▲未曾チ、此僧ハ云フニ不及、盡大地ノ中一人モ面出シ成ルマイ、諸人ハ何ント、▲入那チ、這僧ハドコヘニダ、ドコヘ逃レ羊ノ、イヤ諸人モニダ場ガ有ルマイ、▲果然チ、テツキリ索リ付ケヌハ、▲若使睦チ、睦州心一杯ニ行令セバ、盡大地悉クナゲ出ダサレンニ、此ノ僧仕合セ者デヤ、何ント諸人コハクハ無イカノ、▲放過チ、ア、睦州手ヲ見セマイ者ヲ、不チ放過チ、バ何ント仕羊ノ、但シ睦州放過セラレヌハ仕合セト、裏デ看タトモ見ルナリ、

大凡扶セ豎セ宗セ教セ、須是有本分宗師、眼目有本分宗師、作用睦州機鋒、如閃電相似、愛シ勸ス座主尋常出一言半句、似チ箇荆棘叢相似、著脚手不得、他纔見僧來、便道見成公案、放ス爾ニ三十棒、又見僧云、上座、僧回首云、擔板漢、又示衆云、未有箇入頭處、須得箇入頭處、既得箇入頭處、不得辜ス負ス老僧、睦州爲人多如此、這僧也善雕琢、

爭奈龍頭蛇尾當時若不是陸州也被他惑亂一場只如他問近
 離什麼處僧便喝且道他意作麼生這老漢也不忙緩緩地向他
 道老僧被汝一喝似領他話在一邊又似驗他相似斜身看他如
 何這僧又喝似則似是則未是被這老漢穿却鼻孔來也遂問云
 三喝四喝後作麼生這僧果然無語州便打云這掠虛頭漢驗人
 端的處下口便知音可惜許這僧無語惹得陸州道掠虛頭漢若
 是諸人被陸州道三喝四喝後作麼生合作麼生祇對免得他道
 掠虛頭漢這裏若是識存亡別休咎腳踏實地漢誰管三喝四喝
 後作麼生只爲這僧無語被這老漢便據款結案聽取雪竇頌出
 現成一、ヨメタカ、ヨメズンバ三十棒、▲撥板一、無始劫來ヨリノ帶物ガアル走テ、
 ▲雕琢ハ、按排シ、コシラヘテ來ルチ云、▲且道他意ハ、陸州ノ意ヲ指ス、▲領他話一
 一、領取シテ一邊ノカタワキニ押シナホシタ羊ナト、▲遂問三喝一、是レ穿却ノ處、▲

一本、頌出ノ出チ
 云ノ字ニ作り、
 取雪竇頌ニト點
 セリ、

下口一、向フノ心肝ヲ見破スルナリ、▲管三下、此一撈ヲ不レ待シテ、出身ノ道有ラ
 ントナリ、▲據款一、這掠虛頭漢ト、決斷セラレタルヲ云フ、

兩喝與三喝。雷聲浩大雨點全無。自古至今罕有三人恁麼。作者知機

變。若不是作家爭險。若謂騎虎頭。因○時漢○虎頭
 得○只恐不恁麼。如何騎○多少人

恁麼會○也。有二俱成時漢。親言出親口○何止誰
 人作這見解。一。兩箇○自領出去

時漢。教誰辨○願有末後拈來天下與人看。看即
 句○泊乎誰殺人

觀着即時○閣梨若着眼看則兩
 手拈空○恁麼舉且道是第幾機

兩喝一、兩喝ハ此ノ僧兩度ノ喝ヲ云フ、三喝ハ陸州三喝四喝ノ後作麼生ト云フヲ指
 ス、今之ヲ撮シ舉ゲテ、此ノ一句デ公案ヲ全ク拈ズルナリ、○作者一、此ノ僧キツシ

リ結ダガ、好イ可_レ結處デ結ダハ、サスガ禪僧デヤ、タ、徒者デハ無イ程ニ、作_レ一_〇若謂
 一_一、已下ノ二句、圓悟ノトキンバ、諸人此ノ僧ノ働キヲ虎頭ニ騎リ得_レト云ヘバ、共
 ニ對話スル師學、共ニ目ツブレデヤ、走_レハ無イカト、桂和尚ノトキンバ、睦州若シ此
 ノ僧ノ働キヲ虎頭ニ騎得_レト云ハ、睦州此ノ僧共ニ瞎漢デヤ、_〇誰瞎_一、以下雪竇禪
 河ノ波瀾ナリ、今迄ハ二俱瞎漢ト云ヒナガラ、雪竇トボケタフリシテ諸人ニ問ヒ掛ケタ
 ガ、人人皆眉ノ下ニハ一雙ノ目ガ有リ、釋迦モ二ツ、達磨モ二ツ、全ク替ル_レ無イガ、サ
 ア誰カ瞎漢ゾ、誰モ皆目明イテ見ル、何デモ暗イ_レ無イ程ニ、拈來_一、諸人目有ラバ
 見テ取レヨ、必ズ見ソコナイヤルナトナリ、_▲着語_▲雷聲_一、喝喝ト雷聲ハ浩大デヤ
 ガ、智慧ノ雨ハ一點モ無イ、果シテ似セ者デヤ、_▲自古_一、可_レ結處デ結_レ禪僧モ亦
 少ナイト、_▲若不_一、時ノ宜キヲ驗得_レスル底モ少ナイ_レデヤト、今日ノ學者、無理ニ
 モ勝テ不_レ結_レヲ呵スルナリ、_▲只恐_一、圓悟坐下ノ諸人、恐クハカラ見地斗リデ、此ノ
 僧程ノ機變モ成ルマイ、_▲因_ハ、船ヲ引クニ力ヲ出ス聲ナリ、諸人即今_一トカラ出シテ
 虎頭ニ騎テ看ヨ、イヤ_▲瞎_一、夫レデハ得騎_レマイ、諸人目ガツブレタ、_▲多少_一、
 今時ノ學者多クハ此ノ僧ガ働キヲ是トシテ、恁麼ニ喝喝ト云ツテ禪僧時ノ宜キヲ知ラズ、

空腹高心ノカラ見地斗リデヤトナリ、下同意、_▲親言_一、雪竇最極悲心ヨリ出タ一言、
 諸人能ク聽聞セヨ、_▲何止_一、盡大地皆瞎漢、_▲自領_一、雪竇モ自ラヲサメテ出ヤ
 レトナリ、_▲教誰_一、爰ハ誰デモ辨得底ガオデヤルマイガノ、圓悟杯モ辨不得デヤガ、
 諸人ハ何ト、_▲頼有_一、拈來天下ノ句ニ依テ、亦見テ探ル底モ出來羊_一、人人辨得シ
 テ知レトナリ、亦末後ノ句ハ、睦州此ノ掠虛頭漢ト云フ句ニ掛ケテモ可ナリ、_▲洎乎_一
 一、雪竇餘リ人ヲダマシヤルナヨ、_▲看即_一、ナル程諸人、看ルガヨイ、乍_レ去一念如
 何ンガ看ントスレバ、ソリヤ瞎漢、看ソコナフゾヨ、_▲闍梨_一、諸人目デ見タラバ、空
 ヲ探ル如ク探ル目ハ無イ、何トシテ見羊ノ、見ラル、者デハ無イ走ナゾヨ、_▲恁麼_一、
 以下評ノ最初ニ置ク、

雪竇不妨有爲人處、若不是作者、只是胡喝亂喝、所以古人道、有
 時一喝不作一喝、用有時一喝却作一喝、用有時一喝如踞地獅
 子、有時一喝如金剛王寶劍、興化道、我見_レ爾諸人、東廊下也喝、西
 廊下也喝、且莫胡喝亂喝、直饒喝得興化、上三十三天、却撲下來、

興化、存獎禪師、

未曾向紫羅帳云云
トハ、方語ニ、尊
貴中ニ向テ、奇特
玄妙ヲ説カズトナ
リ、

黃龍死心、悟新ノ
嗣、

一本、佛ノ字ナシ、

氣息一點也無待我甦醒起來向汝道未在何故興化未曾向紫
羅帳裏撒眞珠與爾諸人在只管胡喝亂喝作什麼臨濟道我聞
汝等總學我喝我且問爾東堂有僧出西堂有僧出兩箇齊下喝
那箇是賓那箇是主倘若分賓主不得已後不得學老僧所以雪
竇頌道作者知機變這僧雖被睦州收他却有識機變處且道什
麼處是這僧識機變處鹿門智禪師點這僧云識法者懼嵩頭道
若論戰也箇箇立在轉處黃龍心和尙道窮則變變則通這箇些
子是祖師坐斷天下人舌頭處倘若識機變舉着便知落處有般
漢云管他道三喝四喝作什麼只管喝將去說什麼三十二喝
喝到彌勒佛下生謂之騎虎頭若恁麼知見不識睦州則故是夢
見這僧太遠在如人騎虎頭須是手中有刀兼有轉變始得雪竇
道若恁麼二俱成瞎漢雪竇似倚天長劍凜凜全威若會得雪竇

意自然千處萬處一時會便見他雪竇後面頌只是下注脚又道
誰瞎漢且道是賓家瞎是主家瞎莫是賓主一時瞎麼拈來天下
與人看此是活處雪竇一時頌了也爲什麼却道拈來天下與人
看且道作麼生看開眼也着合眼也着還有入免得麼

胡喝一、無性ニ喝シテ不負ナリ、△所以古人一、以下ハ胡亂ニ喝スル非ヲ呵スルナ
リ、其ノ時其ノ時ノ宜キニ隨テ喝スルナリ、喝ニ本ト差別無シ、應レ機臨レ時其ノ品異ナ
リ、只喝罵スト云ツテ、物ヲ罵リ着ル言ノミ、△紫羅一、無價ノ明珠ヲ與ヘヌ、故ニ
諸人ノ喝ハ役ニ立タヌトナリ、紫一、一喝ノ上ニ有ラヌ向上ノ主人公ヲ云フ、△兩箇齊
一、何ゾ兩箇ノミナラン、天下ノ人同時ニ喝スル端的ニ、主賓ヲ辨ゼテハ兩箇齊
イ、△點、此ノ僧點注ノ意ナリ、△識法一、能ク結ダ、好イ結ビ處、△窮則一、窮
スル則バ、全躰困窮シテ非ヲ知ルガ好イ、△開眼一、目明イテモ看、眠テモ見ルコト
ヤ、諸人此ヲ驗得シテ始テ雪竇ノ瞎漢ト云フコト免レントナリ、即今諸人如何ンガ免レ
ント、拶シ掛ケテ置イタ者デヤ、

佛果園悟禪師碧巖錄卷第壹畢

佛果園悟禪師碧巖錄卷第二

折居光輪 校閱
高津柏樹
天桂傳尊禪師提唱

松崎覺本編輯

第十一則 黃檗噀酒糟

▲垂示云、佛祖大機、全歸掌握、人天命脈、悉受指呼、等閑一句一言、驚群動衆、一機一境、打鎖敲枷、接向上機、提向上事、且道、什麼人、曾恁麼來、還有知落處麼、試舉看、

佛祖一、人天一、善知識ノ手中ニ收在スルヲテヤ故ニ、等閑一、臨時働クトキンバ、驚群一也、一機一、對機而行ズルトキンバ、學者悟邊ニ着シ、殊勝ヲ取ル等ノ

金鎖ヲ打破シ、諸種ノ妄想ニシバラル、鉄枷ヲ扣キ抜クヲテヤ、如是ノ手段、全ク向上ノ大事ヲ提任シ、向上ノ大機ヲ得テ如是テヤガ、諸人此レ何人ノ作略テ有郎ゾ、試ニ云ツテ看ヨ、今日黄檗爲人ノ作略ハ如是テヤ程ニ看ヨトナリ、

○舉黃檗示衆云。

打水、碓、盆。一日、香盡。○天下、衲僧、跳不出。

汝等諸

人盡是唾酒糟漢。恁麼行脚。

道着。○踏破草鞋。○掀天搖地。

何處有今日。

用今日作什麼。○不妨驚群動衆。

還知大唐國裏

無禪師麼。

老僧不會。○一口、香盡。○也是雲居羅漢。

時有僧出云。只

如諸方匡徒領衆又作麼生。

也好與一撈。○臨機不得。不恁麼。

檗云。不道無禪。只是無師。

直得分疎不下。○瓦解水消。○龍頭蛇尾。漢。

唾酒一、諸方ニテ文字言句ヲ唾フ者ヲ唾酒糟ノ漢ト云フ、不然バ大慧辨之曰、若文字等酒糟ナラバ、栢樹子麻三斤ト云フモ酒糟カトナリ、故ニ文字言句ニ限テ不可見、以ニ宗眼一見ルトキンバ、修行スルモ糟喰ヒ、行脚スルモ糟喰ヒ、坐禪スト云フモ看經スト云フモ、皆文字言句ニ渉ル、故ニ悟ト云フモ迷ト云フモ、佛見法見、スツベリ糟喰ヒテヤ、○有今一ト、今日不ニ違背、大事了畢ノ時節ヲ云フ、○還知大唐一、作麼生カ是レ禪中ノ師、有ルコカ無イコカ、人人鼻孔裏ヲ看取セヨ、○只是無師、親言ハ親口ヨリ出ヅ、▲着語▲打水碓一、汲水ニ、盆ノ大小ニ依テ、一升入リノ盆ニハイツモ一升ニカギルナリ、黄檗モツタイラシク示衆ト出ラレタガ、一升入リノフクベハ、大海ニ投ジテモ、ヤハリ一升キリテヤ、十分汲ミ得ル底ハ有ルマイト、黄檗ニ當テ諸人ヲ耻カシム、實ダ分外ニ出頭而看ヨカシ、▲一口一、黄檗ノ機鋒、思大和尚カト思ハル、三世諸佛一吞ニシテ居ヤル走ナ、▲天下一、黄檗ノ手中ヲ出ルコハニ成ルマイ、▲道着、黄檗テツキリ云ヒ當テタ、圓悟ウケニ立ツ、オツシヤル通りテヤ、▲踏破一、何ノ益カ

ウケハ情ナリ、豈

據ノ義、

有ラン、足ヲスリコギニシテ馳セ廻ハル、役躰無シ、▲用今日一、諸人ヒヨリヲ見ヤ
ルナ、黄檗モツタイラシク云ハル、ガ、用今日一爲ニ什麼、佛法臭イ、▲不レ妨一、等閑
ノ一句、人天ヲ驚動シテ凜凜、好イ宗師ノ作略チヤ、底意ハ、黄檗今日ノ手段、叢林ノ騷
動ト成タト當テ、可レ見、▲老僧一、圓悟曾テ禪ト云フスラ存ゼヌガト、ソラバケナリ、
▲也好一、此ノ僧ヨリ師家ノ空處ヲ見テ問フタ、▲臨機一、初僧分上、問フコ無ク
テモ問ハナクテハ叶ハヌ處テ有程ニ、▲直得一、黄檗云ヒ分ケ、ヤリ路ガ無イ走ナ、▲
瓦解一、黄檗ノ手段七穿八穴、ツガイ離レテ見惡イ、瓦屋ノ崩ル、如ク、檐バガ落ツレ
ハ都テ墮落スル羊ニ、離レトニ成テ、ワキカラ見惡イトナリ、

黄檗、希運師、百丈ノ嗣、
風ハ、迷ナリ、

黄檗身長七尺、額有圓珠、天性會禪、師昔遊天台、路逢一僧、與之
談笑、如故相識、熟視之、目光射人、頗有異相、乃偕行、屬溪水瀑漲、
乃植杖捐笠而止、其僧率師同渡、師曰、請渡、彼即褰衣躡波、如履
平地、回顧云、渡來渡來、師咄云、這自了漢、吾早知捏怪、當斫汝脛、
其僧歎云、真大乘法器、言訖不見、初到百丈、丈問云、巍巍堂堂從

一本、諸人已下ノ
十九字ヲ削ル、

什麼處來、檗云、巍巍堂堂、從嶺中來、丈云、來爲何事、檗云、不爲別
事、百丈深器之、次日辭百丈、丈云、什麼處去、檗云、江西禮拜馬大
師、去、丈云、馬大師已遷化去也、爾道黄檗怎麼問、是知來問、是不
知來問、却云、某甲特地去禮拜、福緣淺薄、不及一見、未審平日有
何言句、願聞舉示、丈遂舉再參馬祖因緣、祖見我來、便堅起拂子、
我問云、即此用離、此用祖、遂掛拂子於禪床角、良久、祖却問我、汝
已後、敲兩片皮、如何爲人、我取拂子、豎起、祖云、即此用離、此用我、
將拂子掛禪床角、祖振威一喝、我當時直得三日耳聾、黄檗不覺
悚然吐舌、丈云、子已後莫承嗣馬大師麼、檗云、不然、今日因師舉
得見馬大師、大機大用、若承嗣馬師、他日已後喪我兒孫、丈云、如
是如是、見與師齊、減師半德、智過於師、方堪傳授、子今見處、宛有
超師之作、諸人且道、黄檗怎麼問、是知而故問耶、是不知而問耶、

裴休、字公美、黃
梁人

須是親見他家父子行履處始得黃檗一日又問百丈從上宗乘如何指示百丈良久檗云不可教後人斷絕去百丈云將謂汝是箇人遂乃起入方丈檗與裴相國爲方外友裴鎮宛陵請師至郡以所解一編示師師接置於座略不披閱良久乃云會麼裴云不會檗云若便恁麼會得猶較些子若也形於紙墨何處更有吾宗裴乃以頌贊云自從大士傳心印額有圓珠七尺身掛錫十年棲蜀水浮盃今日渡漳濱八千龍象隨高步萬里香花結勝因擬欲事師爲弟子不知將法付何人師亦無喜色云心如大海無邊際口吐紅蓮養病身自有一雙無事手不啻祇揖等閑人檗住後機鋒峭峻臨濟在會下睦州爲首座問云上座在此多時何不去問話濟云教某甲問什麼話即得座云何不去問如何是佛法的的大意濟便去問三度被打出濟辭座曰蒙首座令三番去問被打

高安、瑞州、高安
縣

出恐因緣不在這裏暫且下山座云子若去須辭和尚去方可首座預去白檗云問話上座甚不可得和尚何不穿鑿教成一株樹去與後人爲陰涼檗云吾已知濟來辭檗云汝不得向別處去直向高安灘頭見大愚去濟到大愚遂舉前話不知某甲過在什麼處愚云檗與麼老婆心切爲爾徹困更說什麼有過無過濟忽然大悟云黃檗佛法無多子大愚搗住云爾適來又道有過而今却道佛法無多子濟於大愚脇下墜三拳愚拓開云汝師黃檗非干我事一日檗示衆云牛頭融大師橫說豎說猶未知向上關楨子在是時石頭馬祖下禪和子浩浩地說禪說道他何故却與麼道所以示衆云汝等諸人盡是唾酒糟漢恁麼行脚取笑於人但見八百一十人處便去不可只圖熱鬧也可中總似汝如此容易何處更有今日事也唐時愛罵人作唾酒糟漢人多喚作黃檗罵人

石頭、希遷禪師、青
原人

具眼者自見他落處大意垂一鈞釣人問衆中有不惜身命底禪和便解恁麼出衆問他道只如諸方匡徒領衆又作麼生也好一拶這老漢果然分疎不下便却漏逗云不道無禪只是無師且道意在什麼處他從上宗旨有時擒有時縱有時殺有時活有時放了也諸人鼻孔在什麼處良久云穿却了也

爾道黃檗恁麼問是知來問是不知來問ト此ノ十六字、蜀本ニ道ノ抄語ヲ載セズ、福本ニ之ヲ載ス、是レ座下チ一抄スト、種電

瀑漲ハ、急流ノ活水ナリ、▲自了漢ハ、自領去ノ自領ナリ、獨覺聲聞ノ類、手前一分スマシノ漢、今時ノ者ナラバ尊敬禮拜センニ、黃檗ハ不然、我レ早クバケ物ト知タラバ、足ノ骨打チ折テクレ羊者ヲト、▲巍巍ハ、廣大ノ貌、堂堂ハ、威儀盛ナル貌ナリ、モツタイラシク而、ドコカラキヤツタ、▲嶺中、嶺南ヨリ參タ、▲不爲別事、只ダ巍巍堂堂トシテ參タ、▲爾道黃檗ト、此ノ十六字、圓悟坐下ニ抄シテ起發スル句ナリ、焉ソ知ラン桂和尚ハ爰ヲ刪ルト云フヲ、今新鈔ニモ然リ、▲三日耳聾、百丈威音王已前ヨリツブレタ、何ノ三日トカ説カン、▲不覺ト吐舌、ヒヨロリト吐イタ端的、百丈黃檗

ニ見ニ、

鉢ニ通ズ、▲喪我兒ト、此ノ處權化門中ノ事ハ無キニシモ非ズ、本來釋迦迦摩羅今マ兒孫トシテモ無怪、諸方ハ年月相隔ツルヲ有レバ、議論スルヲ多シ、恐ノ至ナリ、▲宛ハ、依レ舊之義ナリ、▲將謂汝ト、巍巍堂堂トシテモツタイラシク來ルハ、イカサマ大乘ノ法器、此ノ裡ノ漢ト思フタニ、扱テアサマシイ、其ノ羊才事ヲ云フカト、▲方外ハ、儒佛方ヲ異ニスル故ニ、▲若便恁麼ト、不會尤モ親切、▲自從大士ト、第二句ヨリ第一句ニ意ヲ返シテ可見、▲八千ト、傳燈會元高僧傳ニハ、一千ノ龍象ト作レリ、龍象ハ大衆ナリ、黃檗ニ隨テ、師ノ至ル處ニ群ガルナリ、▲師亦無喜色ト、一頌疑ラクハ黃檗ノ頌ニ非ズ、好事ノ者ノ載スル所ナラン、下亦臨濟ノ因緣、此處ニ無用處ニナリ後學ノ者、此ノ錄ノ卷數、或ハ紙數ノ欲多而載スルナリ、今時ノ人情皆然リ、師亦ト云フヨリ非干吾事迄ノ二百九十字、速ニ可刪去、▲牛頭ハ、百鳥獻花而供養スル程ノ有徳ト云フモ、黃檗如是向上ノ事ハ、曾テ不知トナリ、況ヤ修證尊貴ヲ執スル坐禪僧ヲヤト戒ムルナリ、牛頭ト四祖ト相見ノトキ、四祖方丈ニ虎ヲ見テ恐ル、祖云、有這箇在、又牛頭修行ノトキ、四祖牛頭ノ坐ニ書佛一字、牛頭見之恐レテ不坐、祖見之曰、猶有這箇在ト、佛見アルト至テ可恥、▲石頭馬ト、浩浩地ニ説禪、就中最タル牛頭

ヲ如是云ツテ學人ヲ起發スルナリ、△但見入一、往往大會下大勢ノ處ヲ指シテ往キ
聚マルナリ、▲熱鬧一、只イタツラニ亂レガハシク、ニギヤカナヲノミ好ムナトナリ、
餽餽麴切り、飛ダリハチタリ、口腹ノ爲ニスルナトナリ、▲敢問諸人一、圓悟諸人ニ
問フ、作麼生カ是レ禪中ノ師、如何ト自己ヲ看ヨ、人人ノ鼻孔誰ニモ捏テモラハヌ、黃
檗早ク是レ話墮了ト云フモ、圓悟禪ノ師ト成タ當人ブリ、既ニ辻談議ト成タ程ニ、和頭
一、▲穿却一、諸人圓悟ニ鼻ツラヲ透サレタ程ニ、働ラカレマイ、然リ乍ラ出得ル
底モ無イカント、

凛凛孤風不自誇

猶自不知有○
也是雲居羅漢

端居寰海

定龍蛇

也要別細素○
也要皂白分明

大中天子曾輕觸

說三什
麼大

任太ノ太ノ字、一
本ニハ大ニ作レ

中天子○任太也須從地
起○更高爭奈有天何

三度親遭弄爪牙
死蝦蟇
○多口

作什麼○未爲奇特○猶是小機巧○若是大機大用
現前、盡十方世界乃至山河大地、盡在黃檗處乞命

凛凛一、佛事門中ノ暖風一點モ無イ黃檗、天性無師ノ孤風、不誇ト云フモ自然ニケ高
イ、是レ黃檗ニ不限、人人天性無師、備ガ出身ノ處、○端居一、黃檗今日、天性無師
ノ家風ヲ振ヒ、乾坤大地四海ノ龍蛇ハ、匠師家ノ邪正ヲ定メ辨別スルナリ、邪法ト云フ
ハ、佛祖位中ノ邪路、心外ニ求ムル者、正法ト云フハ、佛法玄妙ノ道理、得失是非、一
切捨却底ノ漢ナリ、此ノ如ク宗眼ヲ具セチバナラヌ一、寰海ハ國土ノ中ニ當ルヲ云フ、
四方海ナルガ故ニ、寰海ト云フ、天下中央ヲ指スナリ、爰ハ乾坤大地四海都テ云フナリ、
○大中一、黃檗天子ヲモ不恐、且ツハツテヤラレタハ、上天子ノ不見貴、下衆生ノ
不見卑、凡聖尊卑惣ニ不立、格外ノ玄機チヤ、此レ天性無師ノ家風ナリ、黃檗掌三天
子二度ナリ、今二度ト云フハ、雪竇文ノ弄處ナリ、然ルニ諸方不著佛求、不著法求、
不着衆求ノ三問ヲ、三ニ分ケテ三度掌スト云フハ、合此頌ガ爲ナリ、強テ度數ニ用
處無シ、▲着語▲猶自一、雪竇云ヒヤル通り、天性無師ノ威風、黃檗モ巧ニ成ラヌ一
テ無イ、端的ヲ自不知有ナリト云ツテ、諸人分上、各各具ヘタ、無師天性ノ禪不知

有カト、▲也是雲居一、黃檗高イナ、イヤ黃檗獨リ鼻ヲ高ウセラル、答カノ、諸人ノ分上如何、▲也要一、一ニ任雪竇注脚、然ラバ圓悟何ンゾ注セン、底意ハ、諸人黃檗ノ事ト、ソラミ仕ヤルナ、人人此ノ眼ヲ具シテ、邪正分明ニ、辨得而看ヨト、下同意、▲說什一、雪竇イカメシ走ニ云ヒヤルガ、圓悟餘リイカメシウモ不存トナリ、▲任太也一、此ハ大中ノ天子ト云フ字ニ依テ着ケタルナリ、▲更高一、意上下同シ、桂和尚云、圓悟着語ニ事ヲカイダ走ナ、▲死蝦一、ムダロキイテ打タレヤツタナ、諸人口キイテ打タル、ナヨ、▲未爲一、雪竇ハ奇特ト思フガ、圓悟ハ少機巧デ云フニ不及、▲若是一、黃檗大機大用現前而、本分ノ行令一時ニ働カバ、盡大地都テ黃檗ニ向テ、助ケ玉ヘト命ヲ乞ハントナリ、

雪竇此一頌、一似黃檗、眞贊相似、人却不得作眞贊會、他底句下、便有出身處、分明道、凜凜孤風不自誇、黃檗恁麼示衆、且不是爭人、負我自逞自誇、若會這箇消息、一在七縱八橫、有時孤峰頂獨立、有時鬧市裏橫身、豈可僻守一隅、愈捨愈不歇、愈尋愈不見、愈

古人トハ、管子ヲ指ス、

擔荷愈沒溺、古人道、無翼飛天下、有名傳世間、盡情捨却、佛法道理玄妙奇特、一時放下、却較些子、自然觸處現成、雪竇道、端居寰海、定龍蛇、是龍是蛇、入門來、便驗取、謂之定龍蛇、眼擒虎兇、機雪竇又道、定龍蛇、夸眼何正、擒虎兇、夸機不全、又道、大中天子會輕觸、三度親遭弄爪牙、黃檗豈是如今惡脚手、從來如此、大中天子者、續咸通傳、中載、唐憲宗有二子、一曰穆宗、一曰宣宗、宣宗乃大中也、年十三、少而敏黠、常愛跏趺坐、穆宗在位時、因早朝罷、大中乃戲登龍床、作揖群臣勢、大臣見而謂之心風、乃奏穆宗、穆宗見而撫歎、曰、我弟乃吾宗英胄也、穆宗於長慶四年、晏駕、有三子曰、敬宗、文宗、武宗、敬宗繼父位、二年內、臣謀易之、文宗繼位、一十四年、武宗即位、常喚大中作癡奴、一日武宗恨大中、昔日戲登父位、遂打殺、致後苑中、以不潔灌而復甦、遂潛遁、在香嚴閑和尚會下、